4号穴遺物（第197図17～22）

(17・18)は全体が錆びに被われ、断面方形を呈し、鉄鏃の頸部の破片と思われる。不明鉄器(19)は棒状を呈し、断面方形に近い。鉄片(20)は幅2.1cmを測り、湾曲している。刀の金具と思われる。(21)は大部分を欠損しているが、刀金具と思われ、幅0.8cmを測る。耳環(22)は1個出土し、銅芯鍍金製のやや細身で、鍍金の残りは悪い。環の端面で金箔を折り込んでいる。断面は円形に近く、長径2.4cm、短径2.2cm、太さ0.6cmを測る。

5号穴遺物（第197図23～26、第198図1～6、35～51）

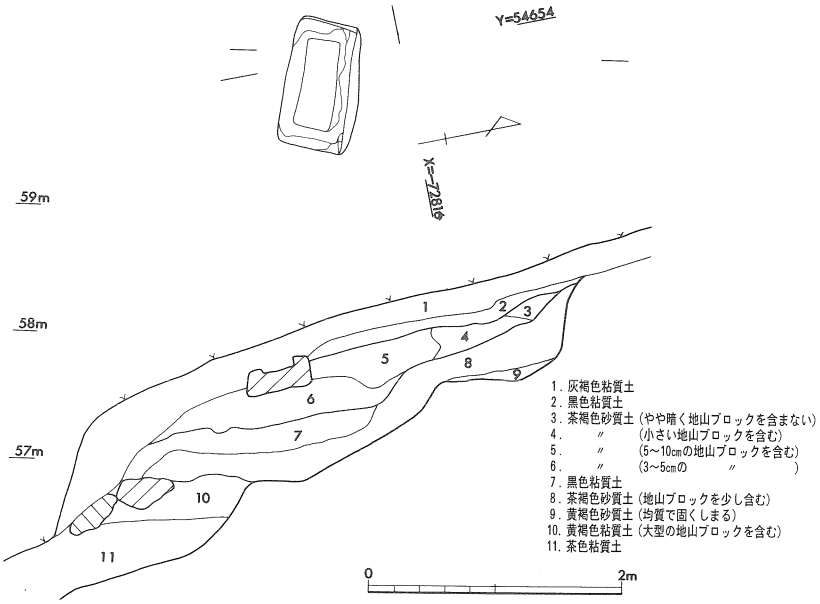
鉄斧(23)は刃部が錆びに被われている。方形の袋部を持つ両肩式である。全長9.0cm、刃部幅4.3cm、袋部幅2×3.2cm、刃部から肩部の長さ4.6cmを測る。銅碗(24)は9.7g分の破片で、底部の形態は不明。口径8.5cm、厚さ0.05cmを測る深目の碗で、口縁端部内面が肥厚し、外面には沈線を巡らす。耳環(25・26)は銅芯鍍金製で、2個あるが大きさが違う。(25)は大きく鍍金の残りは悪い。環の端面で金箔を折り込んでいる。断面は楕円形に近く、長径2.7cm、短径2.5cm、太さ0.7cmを測る。(26)は鍍金の残りは非常に悪い。断面は楕円形に近く、長径1.8cm、短径1.6cm、太さ0.6cmを測る。玉類(1～6)は6点すべて丸玉である。茶褐色(1～3)は砂岩、黒色(4・5)は蛇紋岩、灰色(6)は凝灰岩あるいは溶岩である。すべて小口には面を持つ。(注6) 大刀(35)は棟幅0.6cm、幅2.2cmを測り、表面には木目が残る。関付近の破片(36)は刃部には木目が残るが、柄部にはない。柄部幅は2.1cmを測る。柄部(37)にある目釘は径0.6cm、長さ1.4cmを測る。(40)は刃部から柄部の破片で、柄部は6×13mmを測る。足金具(41)は方形の突起に円形の穴が開く。断面は半月状になる。(42)は錆膨れした刀子と思われる。(43)は断面方形で、釘の可能性がある。鉄鏃(44～47)の内、(44)は厚さ2mmの両側に木質が残る。(48～51)はかすがいあるいは鉄釘と思われる。断面方形の鉄棒が先端から9.5～11cmで、L字形に曲がっている。先端は鋭く、先端から8cm前後まで平行した木目があり、そこから曲がったところまで直行した木目が残る。(51)の断面は0.7～1cmの方形である。(51)の直行する木目の厚さは2.7cmであり、木材の厚さは3cm前後であったことがわかる。

6号穴遺物（第197図27～29、第198図7）

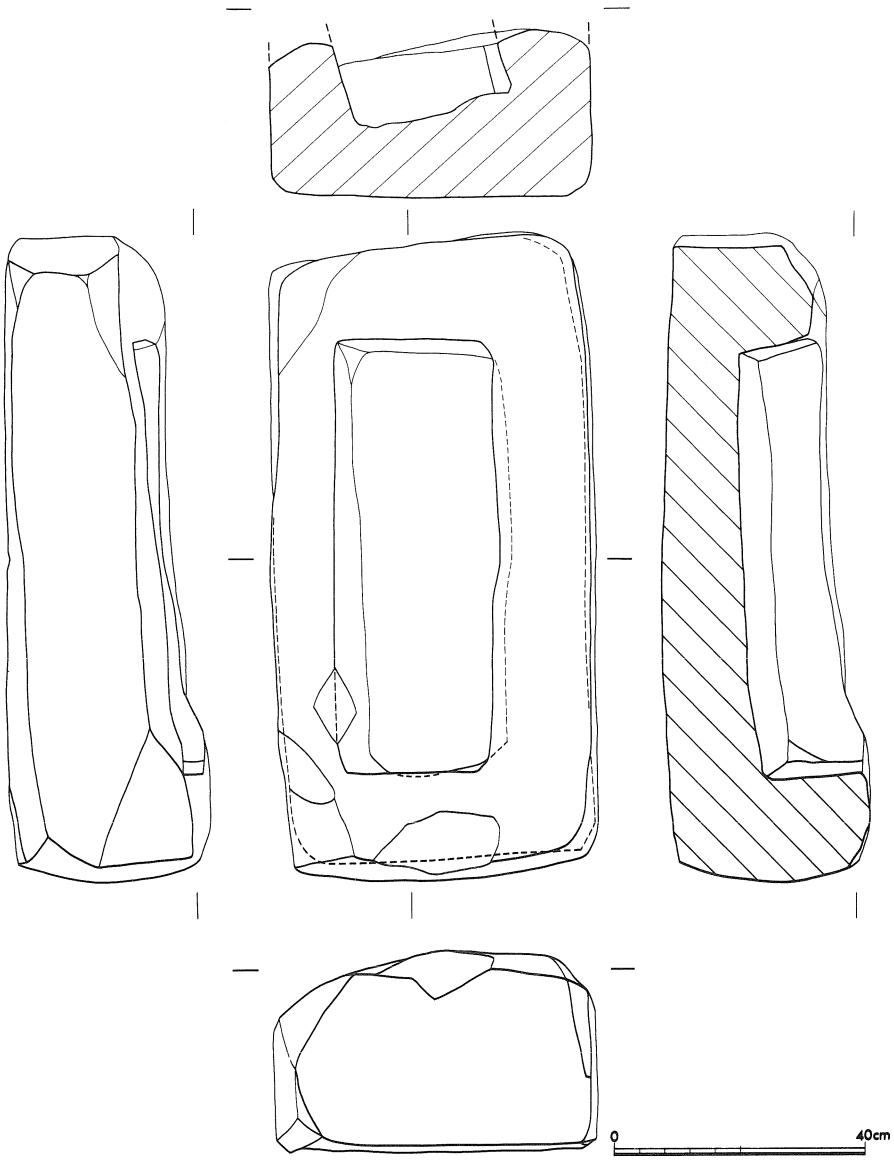
棒状鉄器(27)の用途は不明で、先端が少し肥厚し、断面も不整形を呈する。残存長6.3cmを測る。刀(28・29)の破片は錆びや割れが著しく、刃も残っていない。ガラス小玉(7)が1点出土し、小口はきれいな面を持つ。

7号穴遺物（第197図30～35、第198図8～34、図版149）

不明鉄器(30)は錆びと割れが著しいが、表面は平坦である。直角に2回折れており、用途は不明。鉄製輪鐙(31)は吊り下げ部と下部が欠損している。吊り下げ部は0.8×2.8cmの長方形断面で、かつ、平坦であり、



第199図　半分城跡石製品土層図（S＝1／60）



第200図　半分城跡石製品実測図（S＝1／12）

輪部の断面は台形に近い。目釘部の小片(32)は径0.6㎝の目釘がある。(33)は轡の引手と思われるが剥離が著しい。長径4.2㎝、短径3.6㎝を測る。刀金具(34)は銀装で、1.4×2.4㎝を測り、幅1.2㎝のベルトが付く。大刀(35)は残存長60.2㎝、背の幅0.8㎝、幅2.6㎝を測る。全体に錆びに被われ、3つに割れている。背は直線的で、関は両関で、1.6×3㎝の銀装の金具がある。柄部は0.4×1.8㎝の断面長方形で、刀身と茎には木質が残る。翡翠製勾玉(8)は小型で扁平、厚みがなく、両側穿孔である。ガラス小玉(9〜34)は181個出土し、26個図化した。薄い紺色で、形や規模はバラエティーに富んでいるが、小口は面を持つ。その他に古銭が一枚出土している。表面には「政」と「通」の文字があり、1111年に北宋で初鋳された「政和通宝」の可能性がある。

5．半分城跡

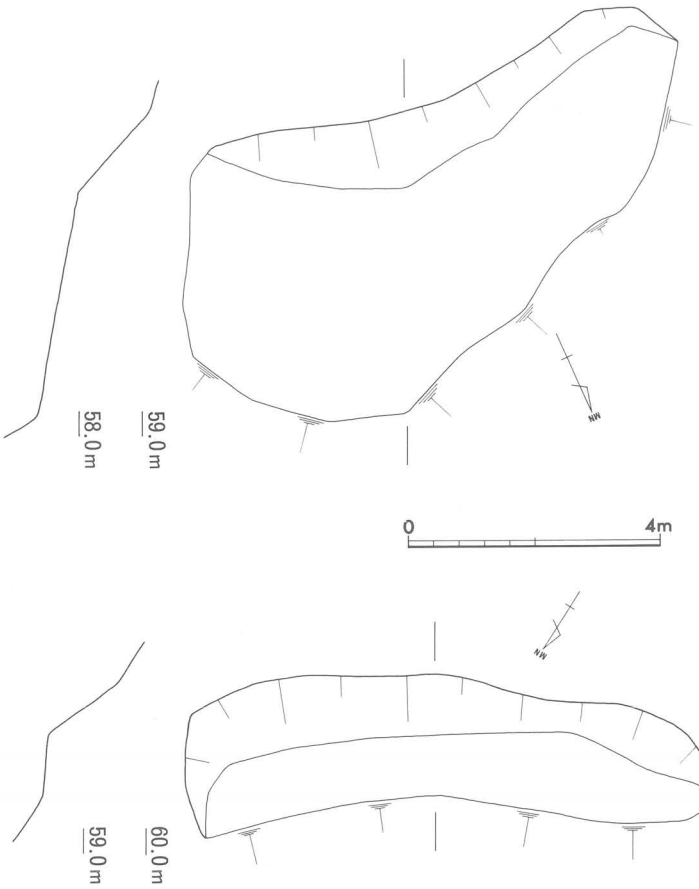
調査の概要

半分城跡は出雲平野の南側丘陵上、神戸川が平野部に流れ出た東側に位置する。主郭は県立出雲工業高校の東側に位置し、西1郭は中国電力送電線鉄塔工事に伴い発掘調査が行われている。また、南側の三田谷に面した場所には権現山城跡があり、斐伊川放水路事業に伴い発掘調査が行われている。半分城跡西1郭からは土塁や土坑や柵列跡、ピットが検出された。遺物は土師器、備前擂鉢の他、肥前系擂鉢があり、室町時代から安土桃山期に比定されている。(注7)

今回の調査は、半分城跡主郭（第62図）から丘陵が大井谷方向に伸び、大井谷に達し南北に丘陵が分かれた、南側に位置する。頂部は標高62.28ｍを測り、平坦でなく丸みを持ち、西側と北側と南東

方向に尾根は伸びている。なお、前面に木々がなければ平野部中央部や鳶ケ巣城跡、旅伏山、弥山などの北山や仏経山が見える。

調査は頂部から人力により掘り下げていった。その結果、北側斜面、南側、北東尾根上に加工段を確認し、その他に、石製品や尾根上と斜面に道状遺構を検出した。加工段からはピットや遺物の出土はなかった。



第201図　半分城跡加工段実測図（S＝1／120）

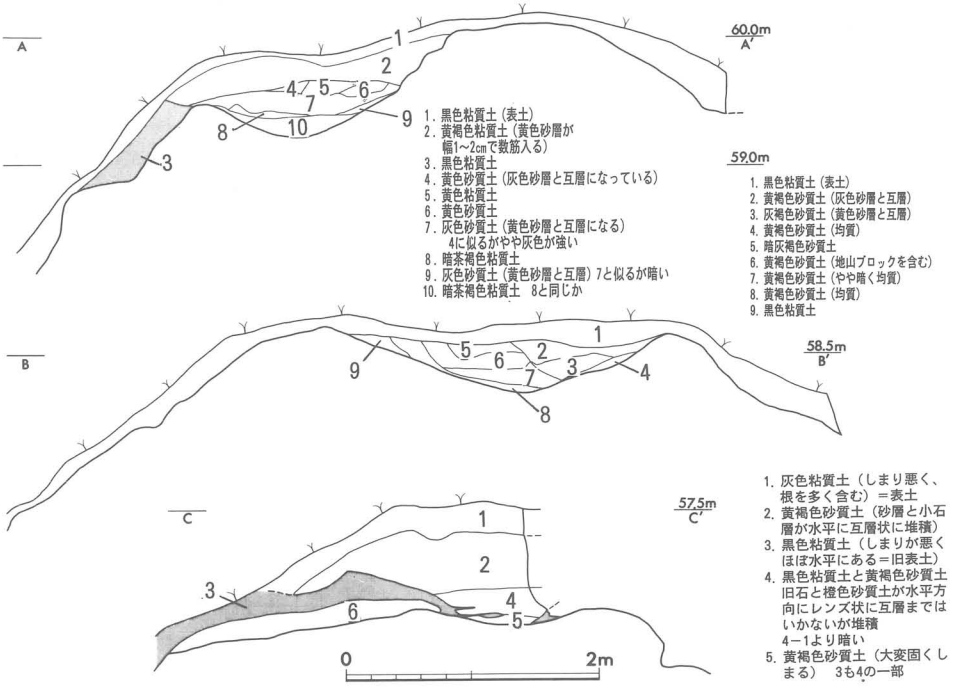
石製品（第199，200図）

石製品は頂部の南側斜面の標高58m付近に存在した。調査前は盛土や石組みなどの目印はなく、表土を除去すると石製品が現れた。急な斜面を二段に削り、2×5mの平坦面を確保し、その上に約1mの盛土を行い石製品を置いている。

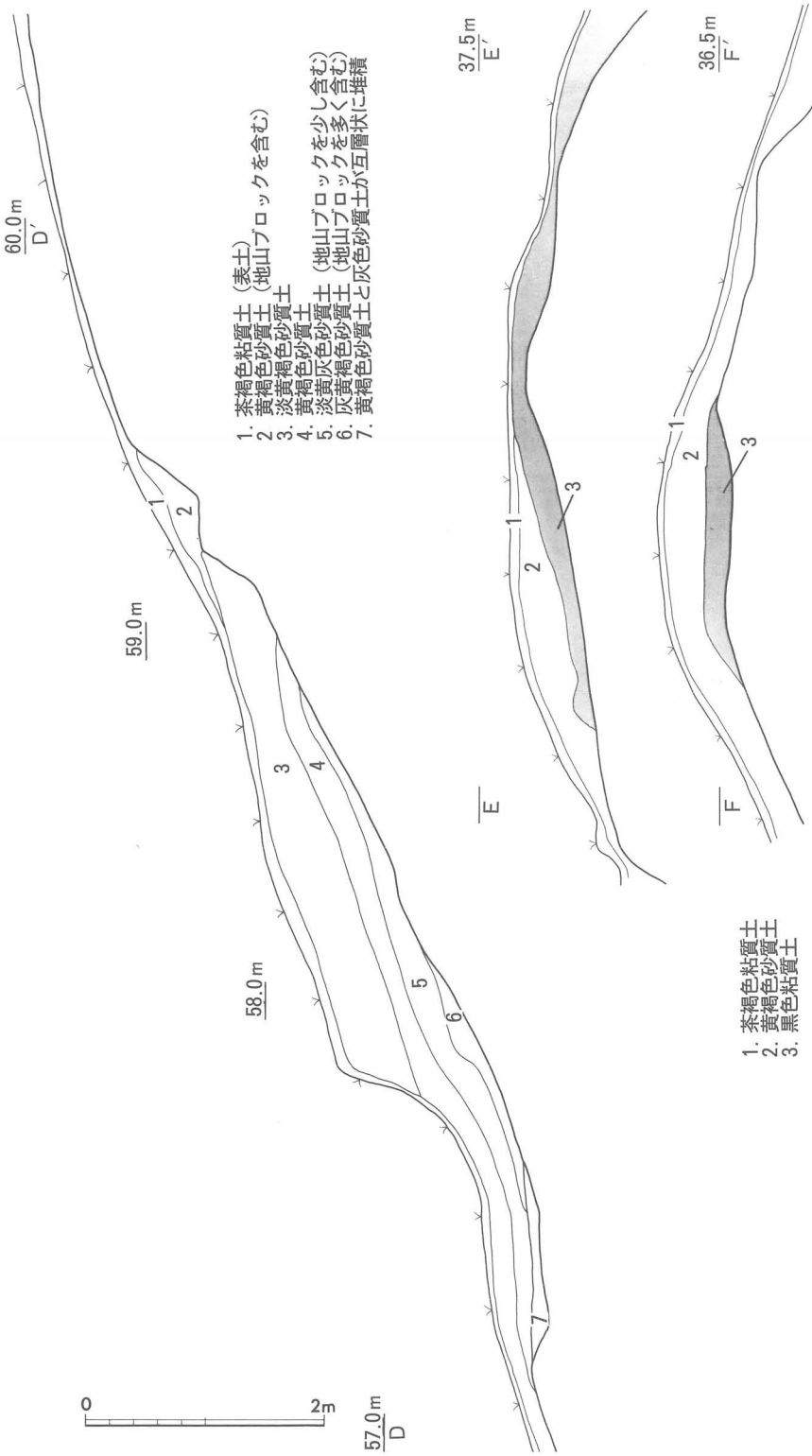
細かく土層を見ると、10層に20～30cmのやや大きめの石を置く。一見すると土止め用の石にも見える。その上に6～8層を盛る。このときには上段も埋められ、平坦面を造っている。この平坦面の上に石製品は置かれているが、やや斜面下方に傾むく。2層に黒色土が堆積しており、一時、表土化していた可能性がある。

石製品には天井石がなく、内部の穴には凝灰岩や砂岩の小片を含んだ土が入っていた。内部の土砂を分析したが、骨や副葬品は検出できなかった。

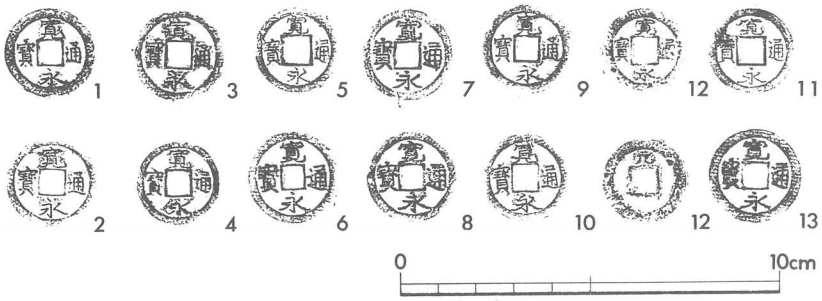
石製品は長さ100cm、幅50cm、厚さ23～31cmを測る。床面付近には幅3～5cmで面取りされている。側壁や床面は平坦であるが、角は丸みをもっている。上面は少し崩れているが、刳り込みなどは初めからなかった



第202図　半分城跡土層図（S＝1／60）



第203図　半分城跡土層図（S＝1／60）



第204図　半分城跡出土古銭拓影（S＝1／2）

と思われる。中央には長さ66cm、幅25cm、深さ11～15cmの穴が穿たれている。穴は一部オーバー・ハングしている。床面は側壁周辺ではかなり凸凹で、工具痕も残る。工具痕は幅５cm程度の平刃である。外側の表面は風化しているので、工具痕は確認できなかった。

加工段１（第107図）

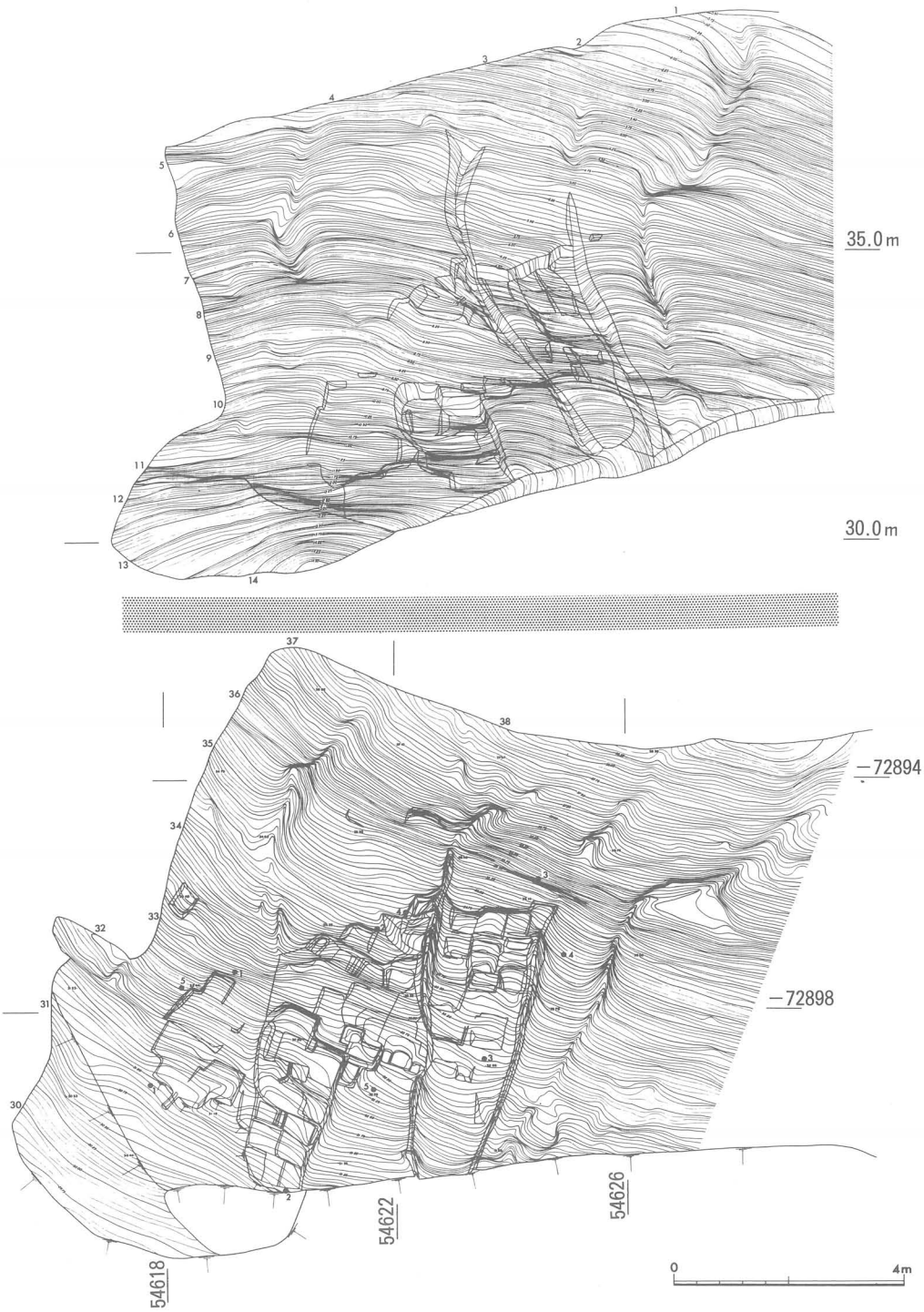
頂部の南東尾根上で確認できた。標高は59.5ｍ付近で、頂部との比高は３ｍある。規模は幅４ｍ、長さ10.5ｍの長方形である。

加工段２（第201図）

頂部から北側に伸びる尾根上で確認できた。急で、狭い尾根をＬ字形にカットし、平坦面を削り出している。頂部との比高差は4.5ｍで、規模は３×８ｍの半月状を呈する。加工段からは大井谷から前方の出雲平野を見下ろすことができる。

加工段３（第201図）

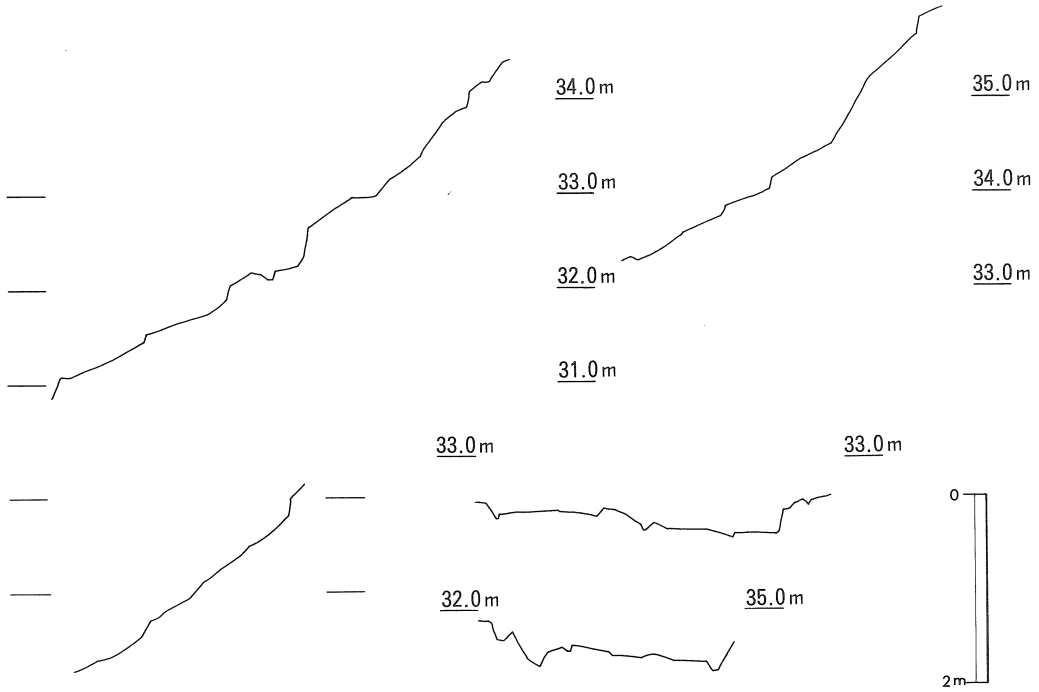
大井谷から入る小さい谷奥の北西斜面に存在する。標高58.5ｍ付近で、頂部との比高差は４ｍを測る。斜面をＬ字形にカットし、平坦面を削り出している。規模は１×７ｍである。



第205図　上塩冶横穴墓群第22・23支群石切場平面図（下）・正面図（上）（S＝1／120）

道状遺構（第107、202、203図）

溝は上塩冶横穴墓群第12支群上から上塩冶横穴墓群22－21号穴の上を通り、南へ伸びる尾根上まで続く。D－D′では幅1.5～2mの溝状になり、その上部には厚さ1.2mの盛土がされている。幅3mの尾根を深さ0.6～0.8mのU字形に掘り込んでいる。溝は頂部の南側から南尾根に続いており、一部消失している箇所もある。A－A′やC－C′では旧表土が一部残っている。堆積した土層を観察すると、砂質の黄色土と黒色土が水平堆積し、下層の土は地山と見間違うほど固い。この堆積土の上面は幅2.5～3mの平坦面を形成している。この堆積は自然堆積の可能性もあるが、人工的なものであ



第206図　上塩冶横穴墓群第22・23支群石切場断面図（S＝1／80）

れば、U字形に溝を掘り、そこに土を積み上げ、しっかりした道状の遺構を築いているとも考えられる。時期は不明である。

盛土

頂部の南側斜面は厚さ1.2mほどの盛土を行っている。黄褐色土と褐色土を盛りが、土は砂質の土であり、地山の土と同質のものである。盛土により、上部には幅4mの平坦面が長さ15mにわたり形成されていた。盛土の下からは前述した道状遺構溝が確認できた。

その他

第12支群の尾根上から古銭が表土中から出土した。古銭は一列に並んで見つかった。周囲を精査したが、土坑や石組みなどの遺構は検出できなかった。

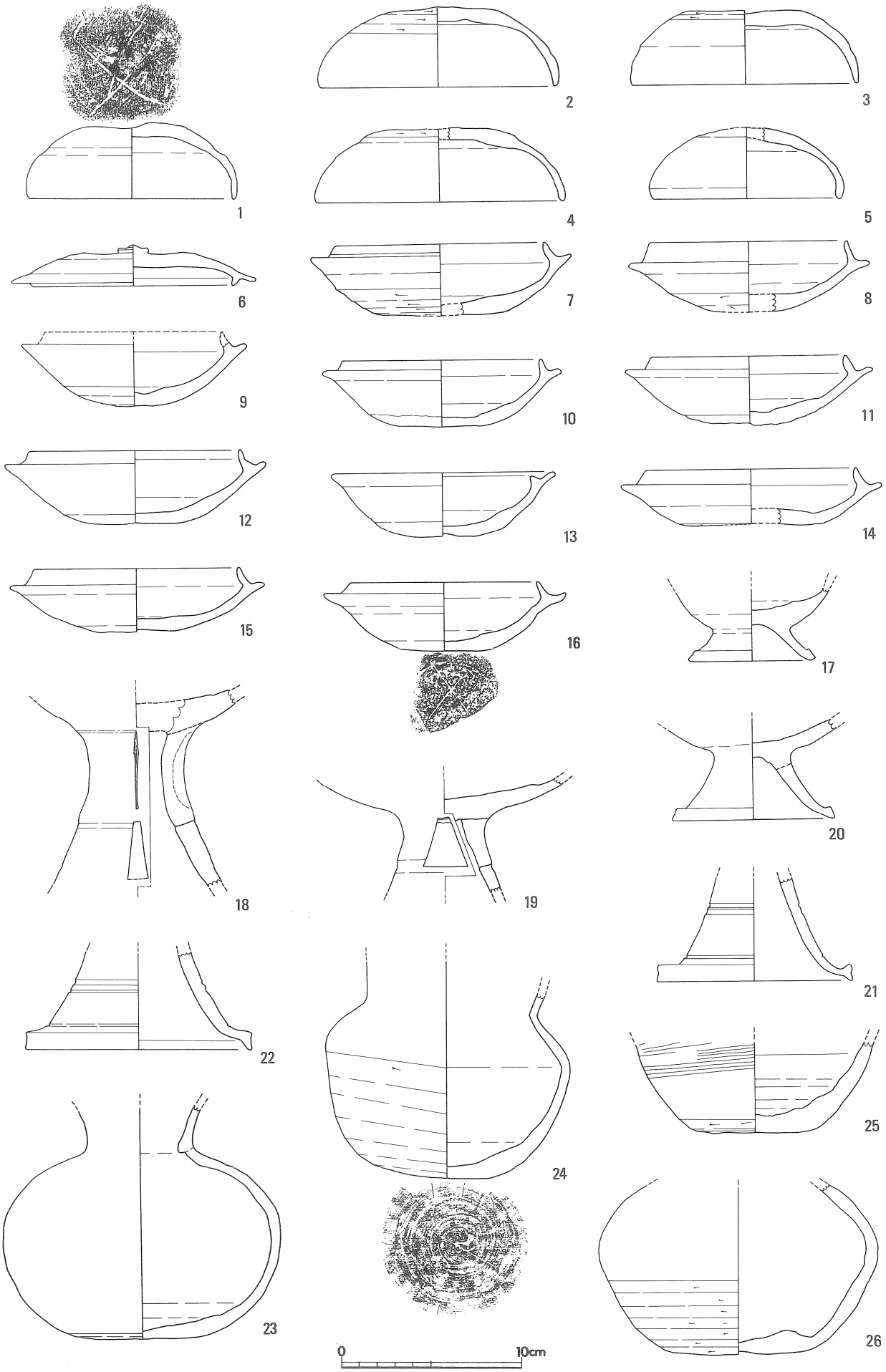
古銭（第204図）

古銭は全て寛永通宝である。比較的保存状態はよい。古寛永通宝(6～8・13)と新寛永通宝(1～5・9～12)があり、(12)は裏側に「元」の文字が見られる。

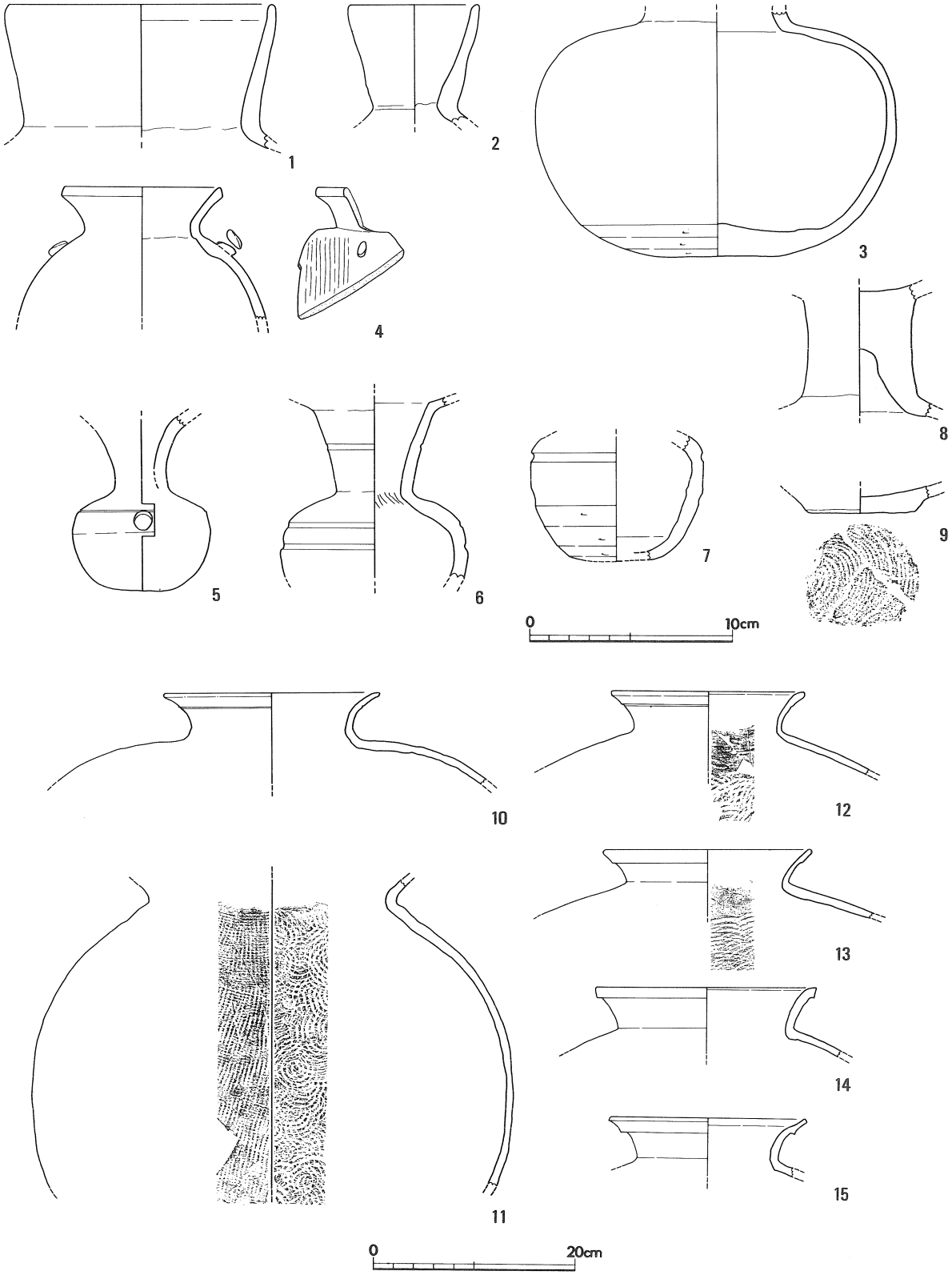
6．石切場跡

石切場跡は上塩冶横穴墓群第22、23支群の位置する谷奥、南向き斜面にある。調査前には10～20cmの表土があり、確認できなかった。表土を除去すると、凝灰岩の岩盤に6×7mの範囲で石切場跡が確認できた。急斜面に小規模な石切場が築かれ、単独に存在する。表面は風化しており、丸くなっていた。

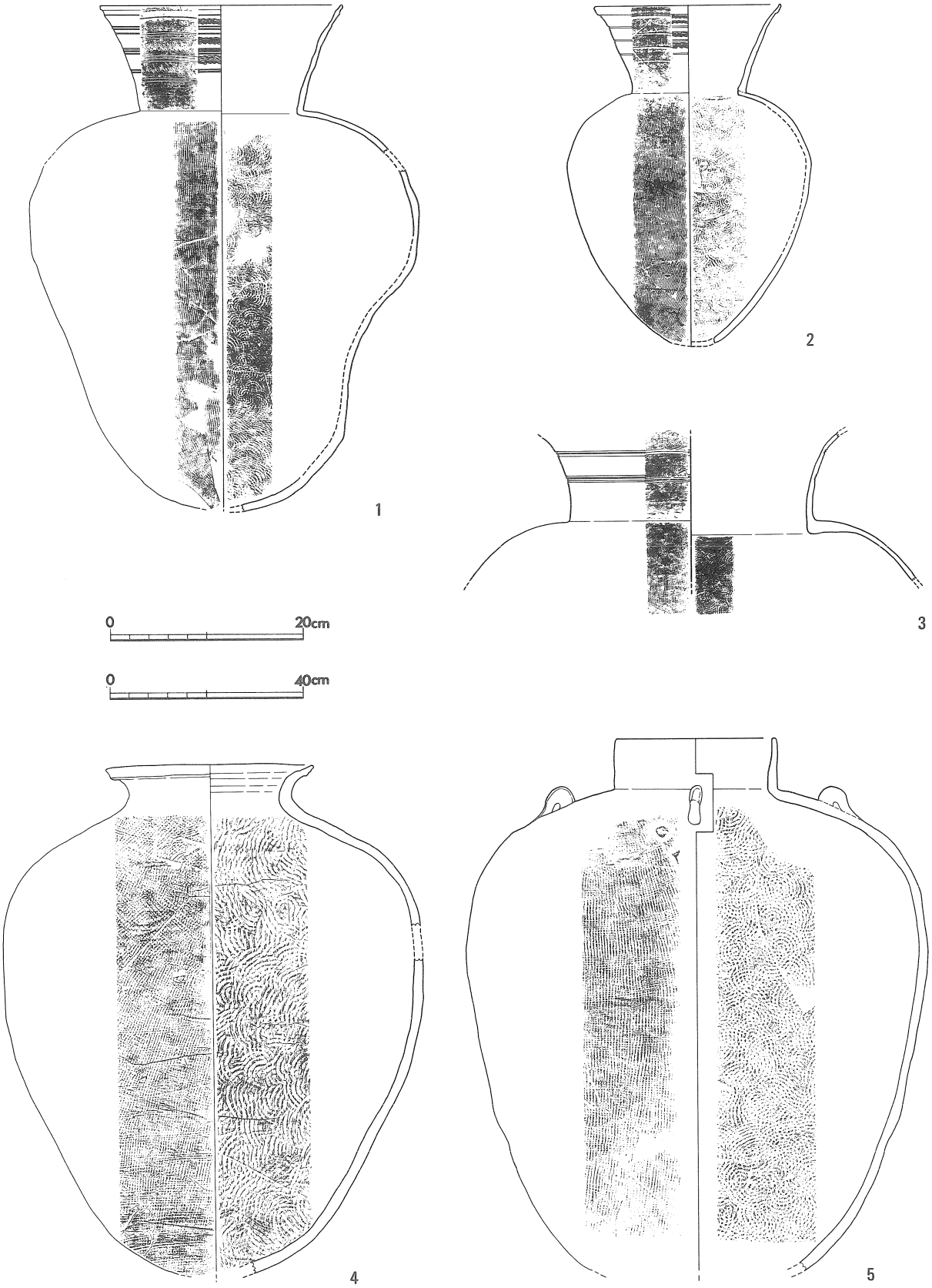
土層の堆積はほとんどが表土で、深いところで20cmほどであった。標高は30～35mである。岩盤に



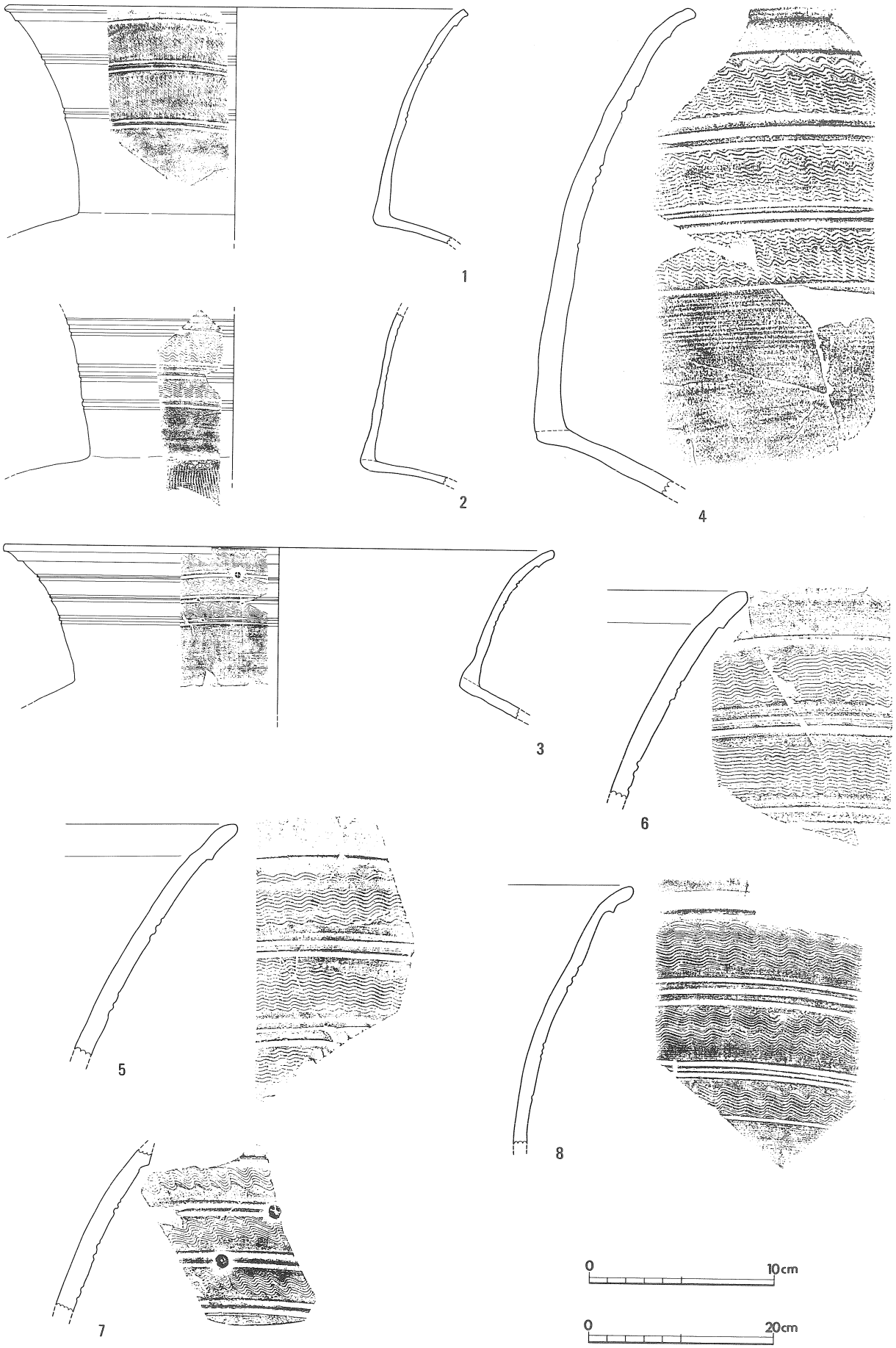
第207図　上塩冶横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図（S＝1／3）



第208図　上塩冶横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図　1～9（S＝1／3）10～15（S＝1／6）



第209図　上塩冶横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図　1～3（S＝1／2）4•5（S＝1／6）



第210図　上塩冶横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図　1～3（S＝1／6）4～8（S＝1／3）

は等高線に直行するように三カ所にクラックがあり、それに沿って、一辺40×40mと60×80cmの方形の石を切り取っている。切り出し方法は周囲に幅8～10cmの溝を必要な深さまで掘る。溝に残っている工具痕を見ると、幅2～5cmの平刃である。基本的に同じ深さで、掘られているが、2－2′の下部は周囲より深く、石の切り出しは2段階であった可能性もある。しかし本来の地形が不明であり、石切りが小規模のため、地形の制約で深くなっている可能性もある。

7．上塩冶横穴墓群第22・23支群谷部の調査

谷部はトレンチ調査の結果を受け、谷の入り口付近を調査した。調査の結果、表土の下に、20cmほどの黒色土があり、その中から須恵器や中世の土師器などが出土した。さらに、その下は凝灰岩や砂岩片を多量に含んだ層が30～50cm堆積していた。その上下では遺構を確認できなかった。さらにその下にも厚さ10～20cmの黒色土が堆積し、多量の須恵器が出土した。黒色土を除去すると、無遺物層の茶褐色土に達する。茶褐色土上は幅5mの断面U字形の溝になっていた。

須恵器は大きなもので0.4×1mの砂岩や凝灰岩に接して、比較的まとまって検出された。須恵器には甕、壺、蓋坏、高坏、瓶などがあった。

遺物（第207～210図）

(207－2～4)は天井部にヘラケズリを施している。(207－6)は天井部につまみを持ち、口縁部はかえりがある。(207－7・8)の坏身は底部にヘラケズリをもつ。(207－18)は二段二方向の透かしを持つ。

(208－8)は土師器の高坏である。(209－9)は底部糸切りで、底部と体部には明瞭な段がある。

甕は破片が多量に出土し、復元できるものもある。(209－5)は四耳を持ち、口縁部が直口で、上方に伸びる。(207－3・7)は口縁部に浮文が数カ所に施されている。同一個体の可能性がある。

注

1　島根県教育委員会他『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』　1980

2　西尾克己・角田徳幸「出雲・上塩冶横穴群第22支群」『島根県埋蔵文化財調査報告書』XII　1986

3　島根県教育委員会林健介氏のご教示による。

4　金製品は奈良県立文化財研究所村上隆先生に分析をお願いした。

5　銅碗は奈良県立文化財研究所村上隆先生に分析をお願いしました。

6　石材分析は島根大学澤田先生にお願いした。また、類例として林43号墳出土棗玉の分析もお願いした。林43号墳出土玉については玉湯町教育委員会勝部衛氏にご協力いただきました。

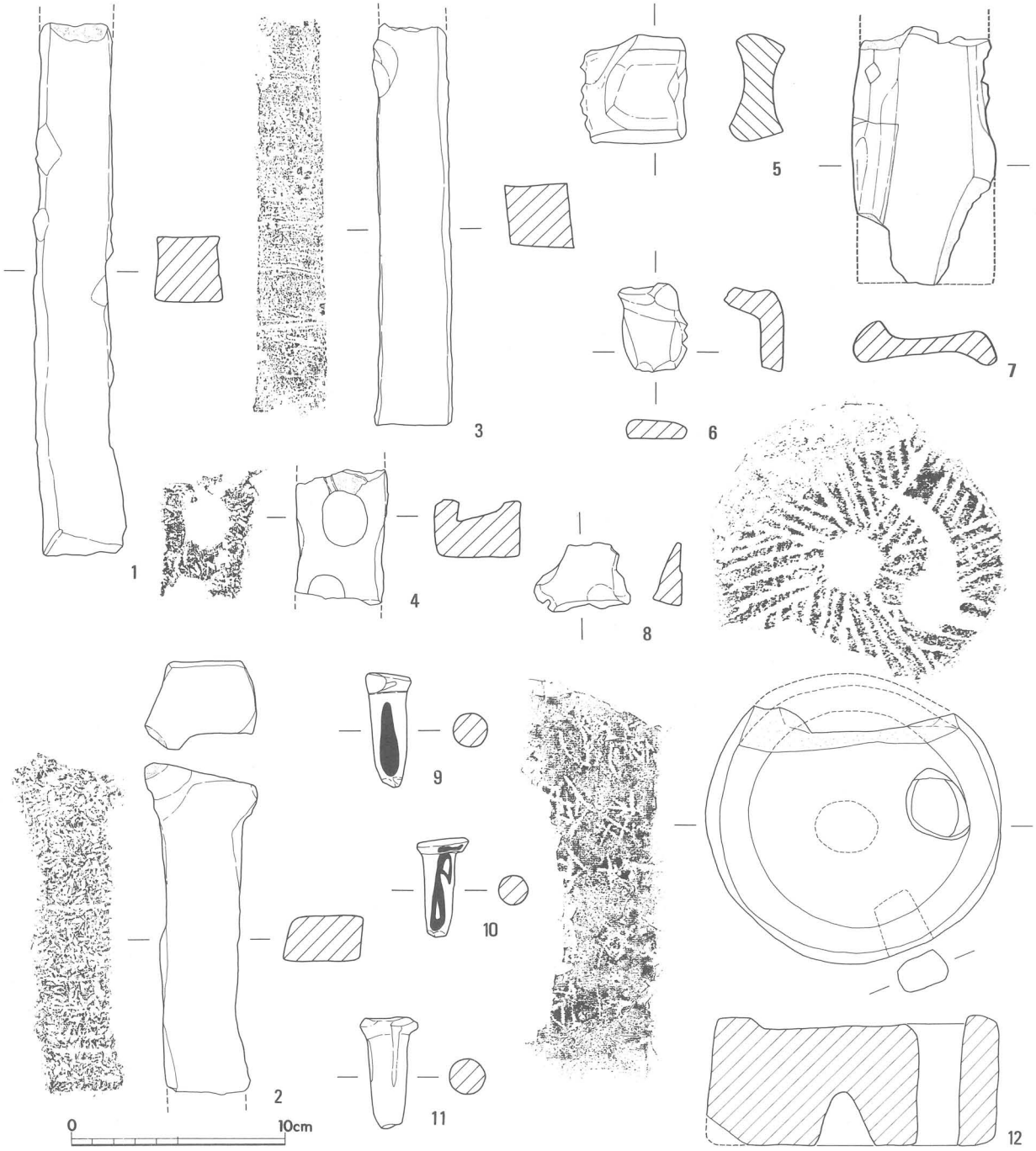
7　出雲市教育委員会『中国電力高圧送電線鉄塔工事にともなう大井谷城跡・半分城跡発掘調査報告書』　1979年

X　半分瓦窯跡

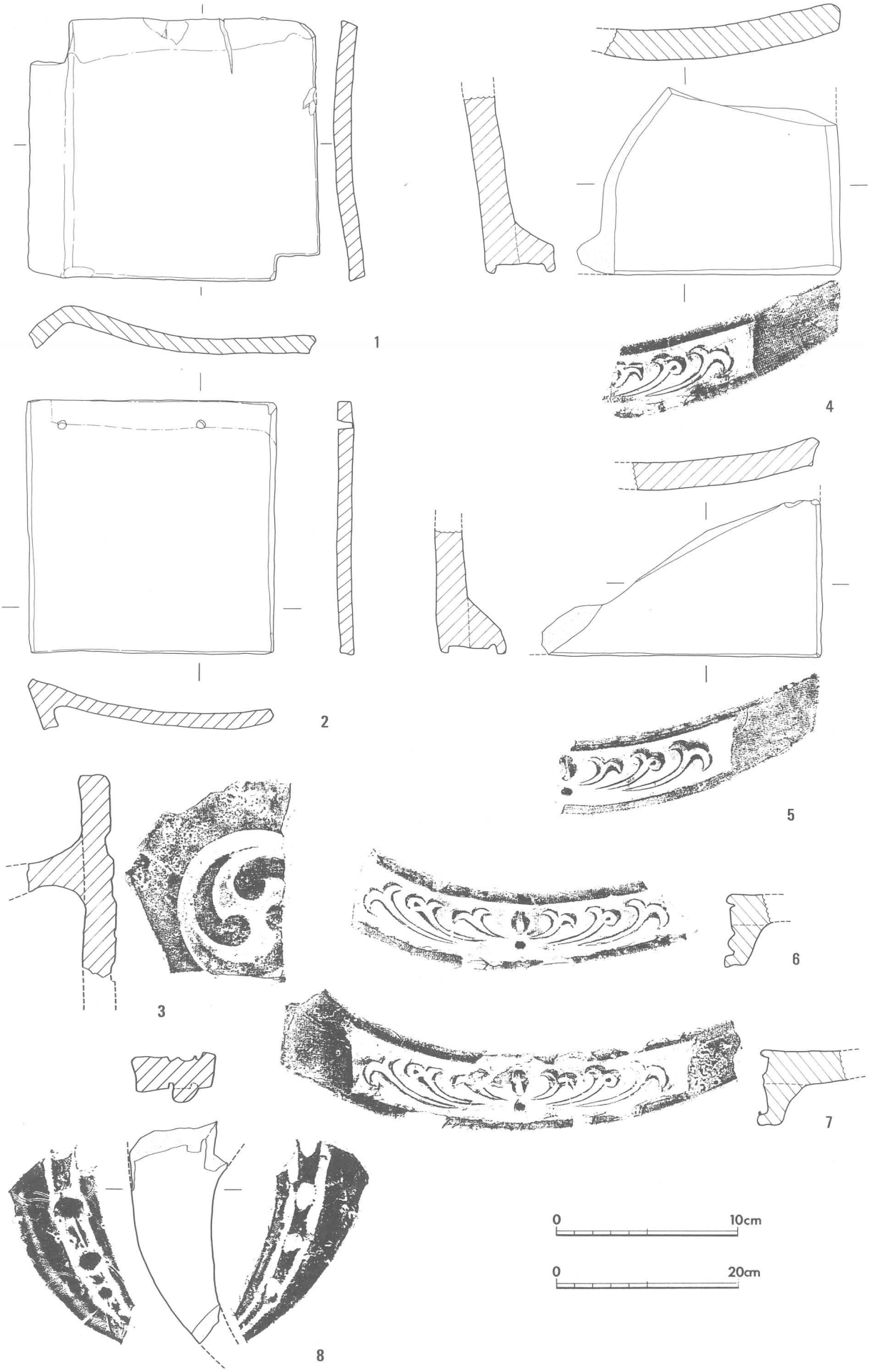
調査を行ったが、窯跡などの遺構は確認できなかったので、遺物をコンテナ２箱分採集するにとどめた。遺物の分布は浄福寺北側の丘陵上や周囲の水田・畑跡（三田谷Ⅰ遺跡）にも広がっている。

聞き取り調査によると、３軒の家が３基の共同窯を使用し、１つ使うと次は別の窯を使い、作業は浄福寺南側の家の周囲で、乾燥は寺の東側の広場で行われた。戦後まで使用され、昭和30年代に他へ移動し、窯跡は完全に壊したと言う。土は現在の出雲工業高校周辺で採集されていた。(注)

注　半分瓦窯跡については出雲市上塩冶町半分地区の内田一信氏にご教示いただきました。



第211図　半分瓦窯跡出土遺物実測図（１）（Ｓ＝1／3）



第212図　半分瓦窯跡出土遺物実測図（2）1、2（S＝1／6）その他（S＝1／3）

XI まとめ

今回、数カ所で発掘調査を行い、その結果を報告してきた。特に、上塩冶横穴墓群では47穴もの横穴墓を発掘した。また、上塩冶横穴墓群ではこれまで数度の発掘が行われているので、調査研究の状況を年表風にまとめてみた。

上塩冶横穴墓群調査研究年表

1717（享保２）年　黒沢長尚の神門郡塩冶の条に「古城山麓に岩窟大小二十はかりあり上朝山塩冶境なり城主しれす」の記述があり、岩窟が横穴墓の可能性がある（文献１）

1887（明治20）年　ウィリアム・ガウランド　出土土器の調査（文献２）

1925（大正14）年　野津左馬之助『島根縣史』４で墳穴として２ケ所紹介（文献３）

1951（昭和26）年　山本清『出雲市誌』「上塩冶方面の横穴群など」として５箇所記載（文献４）

1954（昭和54）年　門脇俊彦「横穴考」発表（文献５）

1955（昭和30）年　美多実　第６支群（エーゲ横穴墓群）発掘調査　**初めての発掘調査**

1956（昭和31）年　門脇俊彦「出雲国大井谷横穴群の研究」を発表（文献６）

池田満雄『出雲市の文化財』１集に概要載せる（文献７）

８支群21穴確認

1962（昭和37）年　近藤正　第32支群（工業高校裏横穴墓群）発掘調査

山本清「横穴の型式と時期について」発表（文献８）

1970（昭和45）年　山本清　２カ所の家形石棺を紹介（文献９）

1978（昭和53）年　島根県教育委員会　第17支群（岸宅裏支群）発掘調査

出雲市教育委員会　第27支群（半分城跡横穴墓群）発掘調査

1979（昭和54）年　島根県教育委員会　第22支群１号穴発掘調査

出雲市教育委員会　第27支群報告書（文献10）

渡辺貞幸「風土記の丘」館報に土師器紹介（文献２）

詳細な分布調査

1980（昭和55）年　門脇俊彦「上塩冶横穴群」報告（文献11）

集大成を行い、32支群107穴報告

池田満雄「出雲平野周辺地域の考古学的研究の歴史」で学史を詳細にまとめ、上塩冶横穴墓群にふれる（文献11）

門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」発表（文献12）

1984（昭和59）年　山本清　第32支群の装飾大刀を紹介（文献13）

1986（昭和61）年　島根県教育委員会　第22支群１号穴報告（文献14）

1988（昭和63）年　山本清　石棺を紹介し、同時に支群の同定をする（文献15）

1991（平成３）年　西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓」発表（文献16）

建設省による斐伊川放水路事業に伴う事前調査開始

出雲市教育委員会　第33支群発掘調査

1992（平成４）年　　島根県教育委員会　第14・15・20・21支群発掘調査
1993（平成５）年　　島根県教育委員会　第16支群発掘調査
　　出雲市教育委員会　第30支群発掘調査
1994（平成６）年　　島根県教育委員会　第７・35・36支群発掘調査
1995（平成７）年　　島根県教育委員会　第20・21支群報告書（文献17）
　　島根県教育委員会　第22・23・37支群発掘調査
1996（平成８）年　　出雲市教育委員会　第17・34支群発掘調査（文献18）
　　島根県教育委員会　第７・12・28・33支群発掘調査
1997（平成９）年　　島根県教育委員会　第14・15・16支群報告書（文献19）
　　出雲市教育委員会　第18・19・38支群（文献18）
1998（平成10）年　　島根県教育委員会　第７・12・22・23・33・35・36・37支群報告書（本書）

上塩冶横穴墓群遺構・遺物

Ⅰ、遺構について

１．支群

現在の支群名は1980年の報告で、はじめて使用された。(注1) それによると、支群は同一斜面に存在する横穴墓群を支群と位置づけている。しかし、近年の発掘調査は丘陵を全面的に発掘するため、横穴墓が１穴で存在するものや同一斜面でありながらかなり離れた地点で発見されるものがあり、支群の付け方が曖昧になる場合がある。前者の例では22－21号穴、第35支群、第37支群、後者の例では23－１～３号穴と４～７号穴や第12支群などがある。

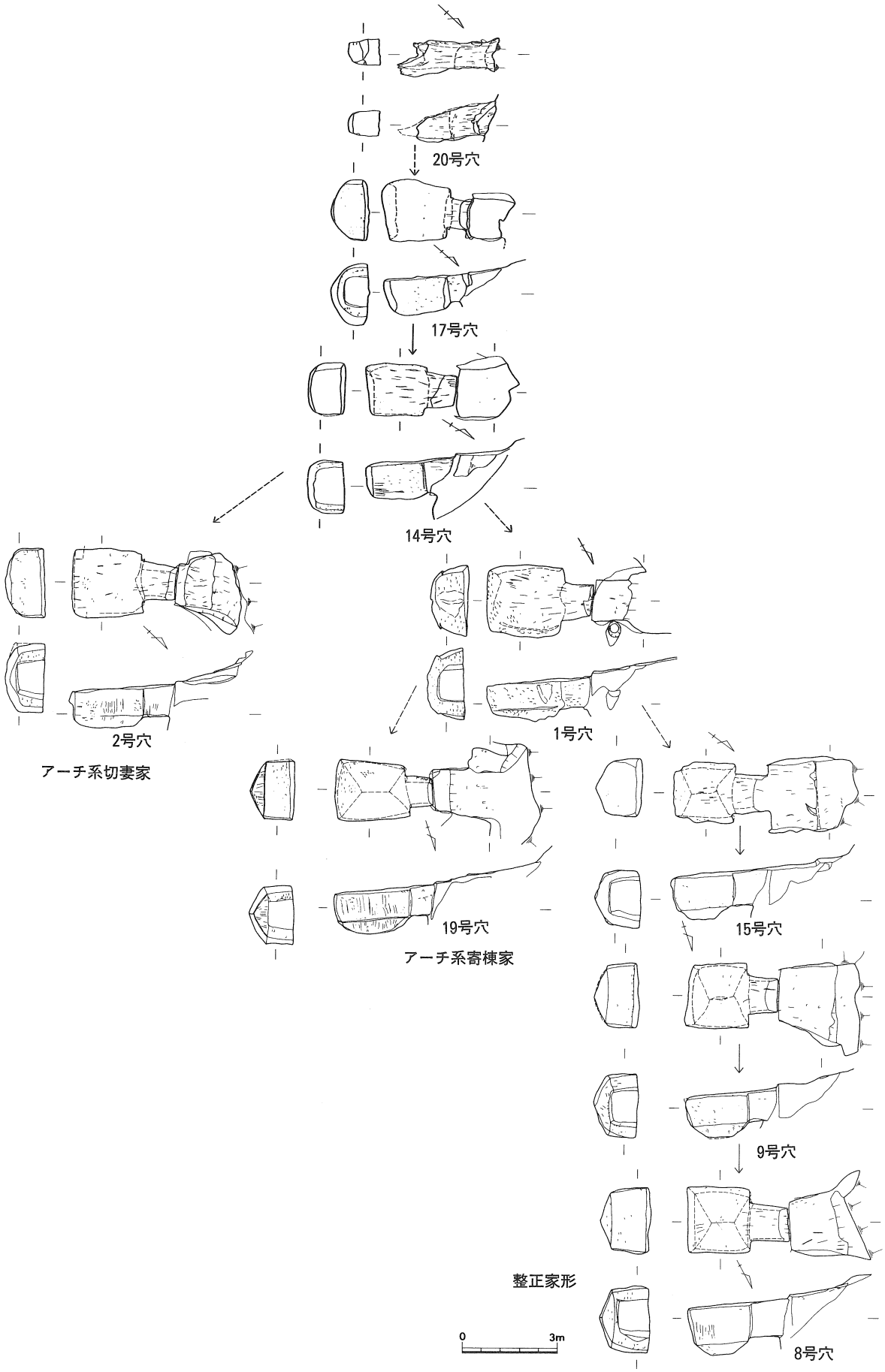
支群を細かく見ると、１～５穴程度の横穴墓がまとまって一つのグループを形成していることがわかる。第22支群を例にとると、１～５号穴、６・７・17号穴、８～11号穴、12・13号穴、14～16号穴、18～20号穴、21号穴のグループに分けられ、このグループがまとまって、一つの支群が形成されていると見える。第20支群では１～５号穴の小グループで１つの支群を形成している。小グループと支群の違いは何かを今議論するだけの知見は持っていないが、この問題の解決が新たに横穴墓が発見され、支群名を付ける際に大きなウエイトを占めると思われる。

２．立地

上塩冶横穴墓群は丘陵頂部付近から水田に接するような丘陵裾部の低い場所まで存在し、現在、38支群が知られ、島根県下最大級の横穴墓群である。(注2) また、横穴墓時期や形態や岩質は密接な関係がある。(注3) 上塩冶横穴墓群の導入期である出雲４期(注4) の横穴墓は丘陵先端付近の軟質な土（凝灰質砂岩層や礫層）に掘られているが、５期になると凝灰岩にも掘られるようになる。この時期、玄室形態が家形のものが現れており、横穴墓の掘られる岩質と形態は密接な関係がある。

一方、横穴墓と丘陵上の遺構との関係では、一部の横穴墓上の丘陵には後背墳丘が存在することは周知の事実である。東出雲町島田池古墳群では出雲３期から６期前半まで後背墳丘が存在し、５期から６期前半の後背墳丘はコ字形に溝を巡らした簡単なものであるという。(注5)

上塩冶横穴墓群では盛土を行った確実な後背墳丘は見つかっていないが、第35・36支群では丘陵が



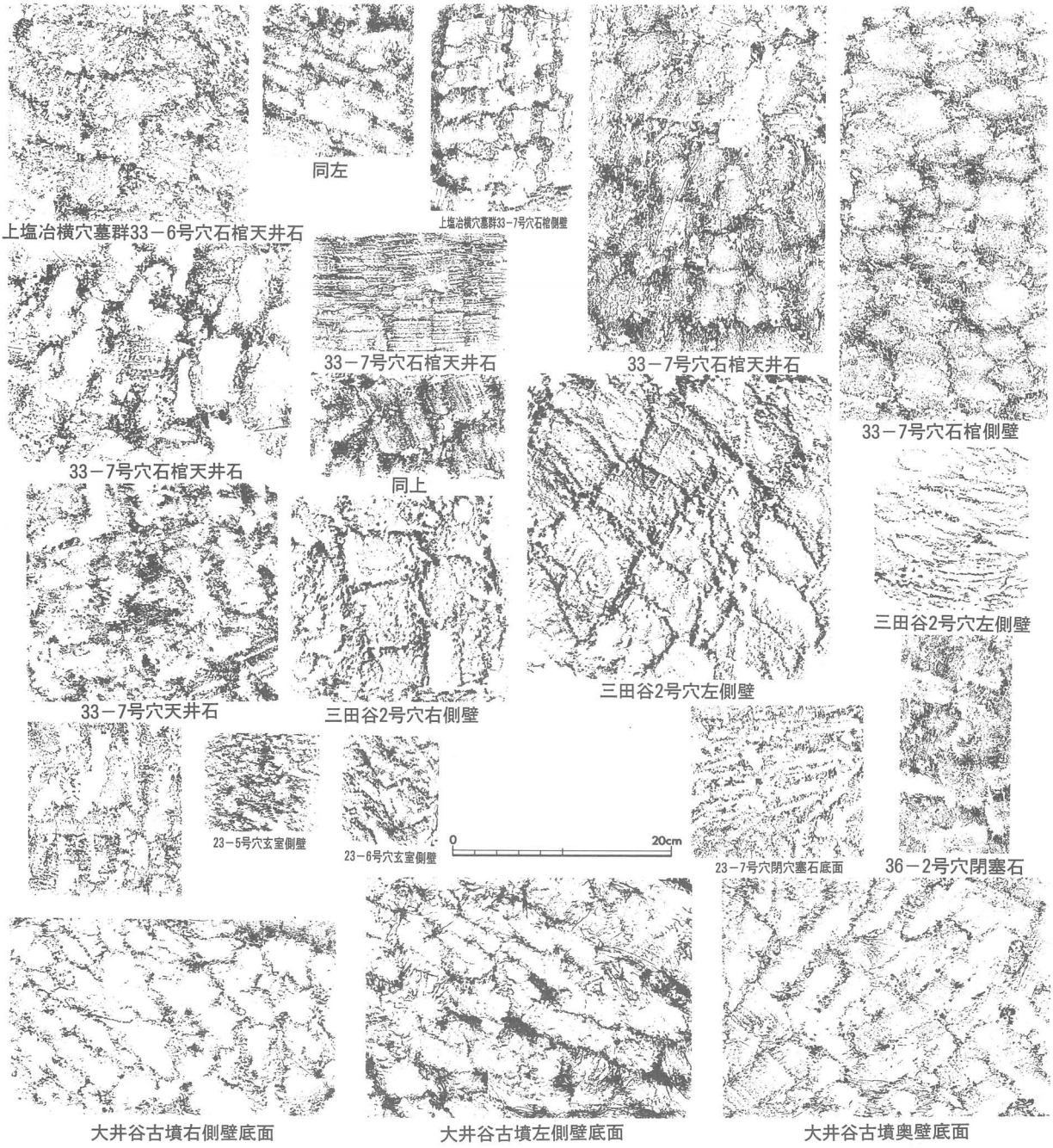
第213図　上塩冶横穴墓群第22支群製作工程推定図

独立峰的な尾根を意識して、横穴墓が掘られた可能性がある。また、23－４号穴の尾根上には削り出しの径５ｍの円墳状高まりがあり、その溝から須恵器甕片が出土した。23－６号穴の甕片と接合し、尾根上の高まりから主体部が検出できなかったことから、後背墳丘の一種と考えた。さらに、第14～16支群で尾根上頂部でも須恵器甕片が出土している。(注6) 23－４～６号穴の時期は出雲５期から６期であり、島田池横穴墓群の例から後背墳丘の終わり頃と思われる。

３．玄室形態（第213図）

出雲東部の家形平入りに対して、上塩冶横穴墓群は家形妻入りが主流と言われている。(注7) 今回の調査でも追認できたが、他の形態もあることもわかってきた。

第22支群は典型的な家形妻入りが多い。その中で、２・14号穴はアーチ系切妻家形(注8)を呈し、５・10・19号穴はアーチ系寄棟家形、18号穴は家形平入りである。小グループで形態のまとまりはなく、



第214図　工具痕拓影（Ｓ＝1／6）

小グループ内にもいろいろな形態の横穴墓が存在している。全ての横穴墓が開口していたので、時期的な変遷は不明である。第23支群ではアーチ系寄棟家形やアーチ系切妻家形などがあり、アーチ系家形でまとまりがある。

第22支群において、工具痕と形態に注意し、山陰横穴墓調査検討会の研究に従い、玄室を中心に、アーチ形、アーチ系寄棟家形、アーチ系切妻家形、整正家形に分類した（表４）。また、その分類ごとに横穴墓の製作過程を想定してみた（第213図）。しかし、製作途中や未調整の横穴墓もあり、分類の困難なものも多く、今後、検討をくりかえしたい。以下、分類と製作工程を含めて報告する。

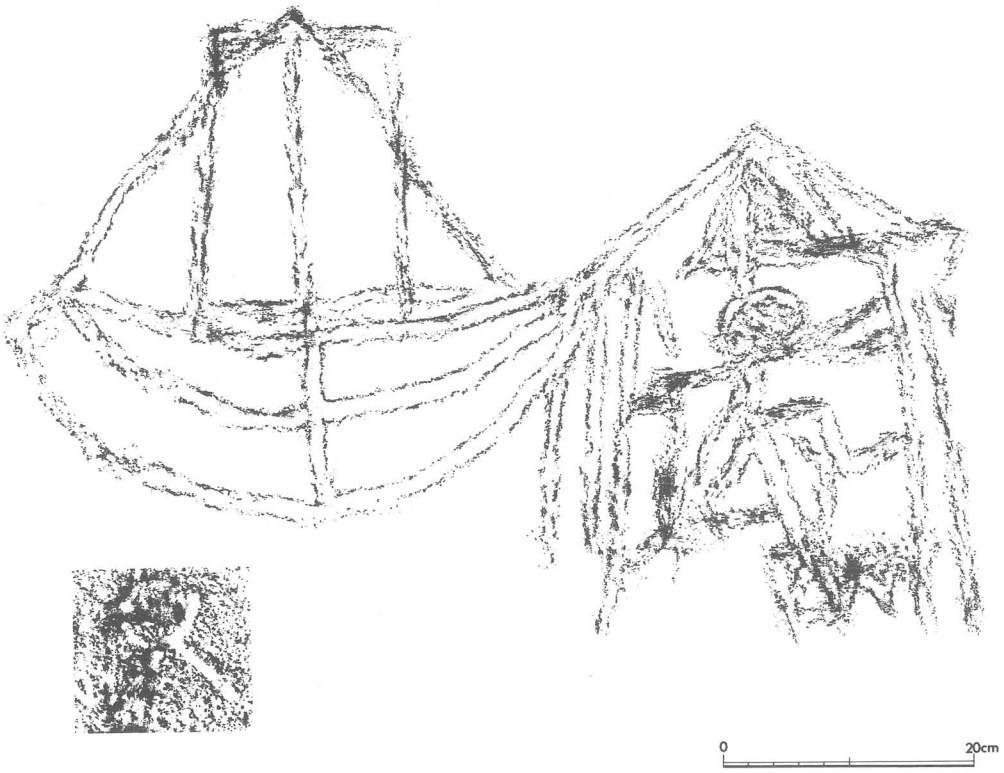
Ａ、アーチ系切妻家形

第22支群で最も製作当初の形態をとどめているのは20号穴である。床面、天井、側面など全てに溝状痕（多くが平刃で施す）があり、横穴幅は中央で狭くなっているが、玄室や玄門部等の明確な区別はない。

その後の形態は、直接繋がるか不明であるが、17号穴が工具痕が粗い。奥壁と側壁の区別がつき、横断面は半円形である。側壁や床面に溝状痕が残り、刺突痕も施されている。各コーナーは丸く、軒線はない。玄門部には天井と側壁の界線はない。この段階はアーチ形である。17号穴に類似するのが14号穴である。基本的には同じである。工具痕は溝状痕と刺突痕である。側壁の奥壁側には傾斜を変えただけの軒線が施されている。刺突痕で界線が表現されている。この段階でアーチ系切妻家形となる。しかし、まだ、肋骨状技法の工具痕はない。その肋骨状技法があるのが２号穴である。玄室の奥壁側には溝状痕が残り、玄門部側には丸刃による肋骨状技法が施されている。

Ｂ、アーチ系寄棟家形

典型的な横穴墓は19号穴である。軒線や棟線は明確で、天井は寄棟になる。天井部から側壁にかけては丸刃による肋骨状技法が施される。その前の段階は不明であるが、考えられるものとしては１号



第215図　上塩冶横穴墓群23－７号壁画拓影（Ｓ＝1／6）

穴を指摘できる。１号穴の軒線は平刃で表現され、溝状痕や刺突痕があり、平刃で強く削っている。奥壁は垂直に立ち、やや縦長長方形プランを呈する。ほぼ完成した状態の横穴墓としては５、10号穴がある。溝状痕や刺突痕が残るが、天井を中心に壁表面は平刃で調整され、一部には丸刃で縦方向に調整され、肋骨状を呈している。天井部の形態は妻側を残し、他の面を削っている。この天井形態は整正家形でも同じで、大谷氏のⅢ段階である。(注９)

C、整正家形

当初の段階は不明であるが、可能性としてはアーチ系寄棟家形と同じで、20号穴→17号穴→14号穴→１号穴である。他の形態が縦長長方形であり、整正家形は方形プランが多く、20号穴から１号穴と直接繋がるかは不明である。

整正家形といえはじめるのは、15号穴である。床面には溝状痕があり、側壁を中心に刺突痕が残る。調整では平刃も使用している。形態は各コーナーが丸く、壁面は凸凹である。棟線は壁面の傾斜を変えている。11号穴も天井や側壁はまだ調整されておらず、凸凹である。床には溝状痕があり、壁面には刺突痕や平刃による強い打痕が残る。９号穴は平刃で壁の表面を一部調整している。12、16号穴は９号穴より、調整が進んでいるが、まだ表面は凸凹である。

４、７、８、13号穴はほぼ完成したものであり、各コーナーや界線は明瞭に表現され、壁面の立ち上がりも垂直に近い。工具痕は床に溝状痕が残り、壁の表面は平刃で調整されている。

他の支群を見ると、第20支群や第21支群には整正家形が多く、調整され、完成しているものが多い。(注10) また、14－９号穴(注６) は平天井を呈し、15－５号穴(注６) は縦長長方形で、断面方形の変わった形態のものもあり、上塩冶横穴墓群の中で、視野を広くして形態分類する必要がある。

４．屍床

他の形態的特徴として屍床がある。22－４号穴は奥壁に沿って屍床があり、22－７号穴は階段状になる。22－10・18、23－２号穴は両側に削り出した屍床を持ち、23－５・７号穴は両側に有縁屍床があり、23－４号穴は片側に削り出しの屍床を持つ。両側に削り出す屍床をもつものは20－１～３号穴や21－３、７、10号穴(注10) など、整正家形に多い。

横穴墓名	所　在　地	かれたもの	描かれた場所	文献
十王免１号穴	松江市山代町	船、人物、山代、佐た	玄室全壁	20
十王免２号穴	松江市山代町	矢、五輪塔、人物、帆船	右側側壁以外の側壁	20
十王免７号穴	松江市山代町	矢、人物	玄室側壁	20
狐谷６号穴	松江市山代町	矢をもつ人物、動物	玄室側壁	21
狐谷12号穴	松江市山代町	帆船、人物	玄室側壁	21
狐谷15号穴	松江市山代町		玄室前壁	21
島田池４－４号穴	東出雲町出雲郷	帆船、大佛、鳥居、建物	玄室側壁	22
深田谷横穴墓	出雲市芦渡町	人物、	玄室側壁	23
飯ノ山横穴墓	西郷町	人物、動物	奥壁	24
上塩冶横穴墓群 23－７号穴	出雲市上塩冶町	人物、建物、帆船	玄室全壁	

表３　島根県内の横穴墓に描かれた壁画一覧表

また、22－10号穴の床面は頭部に当たる部分が枕状に掘り窪められていた。横穴墓や屍床での類例としては大田市久手町大師堂山横穴墓、(注11) 福岡県中間市宮田山７号穴、安来市飯生町飯生八幡山２号穴、安来市飯梨町鷺の湯病院跡２号穴、(注12) 安来市矢田町矢田２－１号穴、(注13) 松江市山代方墳、(注14) 福岡県王塚古墳、(注15) 宮崎県平清水２号穴、南平１号穴、南平２号穴、一本木横穴墓、吾平原横穴墓、春姫登横穴墓(注16) などがある。時期がわかるもので、一番古いものは王塚古墳であり、分布は九州地方に多い。しかし、石枕は古墳時代前期から中期にかけても存在し、土器枕(注17) などは弥生時代にも存在していることから、これらを含めて系譜などは考えなければいけない。

５．石棺

33－６、７号穴からは家形石棺が検出された。33－６号穴は出雲４期で、出雲平野で横穴墓に内蔵される石棺では一番古い。石棺の形態は特徴的で、天井には分銅形の棟線を持ち、側壁と天井石が一枚の石で造られている。小口側には縄掛突起も大きく存在している。分銅形の天井石は大念寺古墳にも見られ、大古墳に採用された形態が横穴墓にも採用されたと考えられる。ただ、出雲５期の33－７号穴の天井石はすでに棟線が線状になり、同時期と考えられる石室墳の石棺が幅広の棟を持つことから、横穴墓の石棺は石室墳より早く線状の棟線になった可能性もある。しかし、33－７号穴の石棺については天井石の色や工具痕が２枚の石で違い、追葬や再利用の可能性があり、また、空間が狭いための技法とも考えられ、慎重に検討しなければならない。

６．玄門部・前庭部

第22・35支群の玄門部は天井と側壁の界線が明瞭で、断面方形を呈する。第23支群では側壁は垂直気味に立ち上がるが、天井頂部で丸い釣り鐘状を呈する。前庭部は幅広のものが多く、22－４号穴など前庭部床面を人工的に埋め、平坦面を造ったと考えられるものもある。出雲東部においても、前庭部先端を盛土で形成したものがあり、(注5、18) 横穴墓の一般的なものであろう。

22－13号穴は二重羨道になっており、出雲東部に分布する「意宇型」横穴墓(注14) に似る。出雲６期の横穴墓であり、出雲東部から直接伝播したと考えるより、石棺式石室の影響を受けた地蔵山古墳、小坂古墳、大梶古墳(注14) などの横穴式石室を内部主体に持つ古墳との関連を考えたほうが自然ではないだろうか。羨道部の天井形態など不明な点も多く、類例を待ちたい。

第23支群は玄室床面と玄門部床面が段差を持ち、玄門部と玄室を区別している。神門横穴墓群や立花町鬼隈横穴墓群には同じ場所に石を置いたり、溝や段を持つ横穴墓があり、(注8、19) 玄室と玄門部を区別する意識がある可能性がある。

第33支群の前庭部は墓道と表現した方がよく、幅0.6～1.15mと狭く、奥行き2.8～3.3mと長い。この支群は出雲４、５期の出雲西部でも導入期のものが多く、礫層に掘られている。出雲東部でも導入期の横穴墓は墓道を持っている。(注5・18) この特徴は礫層で天井部が崩れやすいと言う地質的な要因とともに横穴墓の導入段階の形態と思われる。

各横穴墓は急な斜面に位置することが多く、横穴墓に行くための墓道の存在は考えられる。今回斜面を発掘し、22－６号穴、22－12号穴、23－４号穴の周辺から岩盤を削った平坦面を確認した。また、22－10号穴や22－15号穴の前庭部前方には凝灰岩の砕片が堆積した幅0.5～１mの平場があった。これらは、横穴墓掘削時に使用した可能性もあるが、横穴墓使用時にも通路として使用していたものと考えられる。

支群名	横穴墓	玄室形態	主軸方向	岩盤	閉塞方法	出土土器					備考
						4期	5期	6期	6期d	7期	
7	1	ドーム形	S－15°－W	凝灰岩	押さえ石						
	2	ドーム形	S－43°－W	凝灰岩	押さえ石			○			
	3	家形	S－51°－W	凝灰岩							
	4		S－19°－W	凝灰岩							未使用
12	1	アーチ形	N－66°－E	砂岩	押さえ石						
	2	アーチ形？	N－51°－E	砂岩				○	○		
	4	ドーム形	N－59°－E	砂岩							
22	1	アーチ系切妻家形	N－61°－W	凝灰岩			○	○			未成形
	2	アーチ系切妻家形	N－45°－W	凝灰岩	凝灰岩切石			○	○		石床
	3	整正家形	N－40°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚		○	○	？		
	4	整正家形	N－47°－W	凝灰岩	凝灰岩切石		○	○			屍床
	5	アーチ系寄棟家形	N－39°－W	凝灰岩	凝灰岩切石		○	？			
	6	整正家形	N－33°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚		○	○			
	7	整正家形	N－12°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚		○				屍床
	8	整正家形	N－62°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚			○			
	9	整正家形	N－72°－W	凝灰岩	凝灰岩切石			○			
	10	アーチ系寄棟家形	N－67°－W	凝灰岩							屍床
	11	整正家形	N－69°－W	凝灰岩				○？	○？		
	12	整正家形	N－54°－W	凝灰岩							
	13	整正家形	N－34°－W	凝灰岩				○			
	14	アーチ系切妻家形	N－31°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚			○			
	15	整正家形	N－35°－W	凝灰岩				○			
	16	整正家形	N－40°－W	凝灰岩				○	○	○	
	17	アーチ形	N－41°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚			○	？		
	18	整正家形平入	S－61°－W	凝灰岩	凝灰岩切石			○	○		屍床
	19	アーチ系寄棟家形	N－73°－W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚		○	○			
	20		N－44°－W	凝灰岩							未使用
	21	ドーム形	S－56°－W	砂岩			○				
23	1	アーチ形	S－35°－E	砂岩	凝灰岩・砂岩切石		○				
	2	アーチ系寄棟家形	S－34°－E	砂岩			○	○	○		屍床
	3	アーチ形	S－23°－E	砂岩				○	○	○	
	4	アーチ形	S－30°－E	凝灰岩	凝灰岩切石			○			屍床
	5	アーチ形	S－11°－E	砂岩	凝灰岩切石		○	○	○		屍床
	6	アーチ系切妻家形	S－7°－E	砂岩					○		
	7	アーチ系切妻家形	S－26°－E	砂岩					？		屍床
33	3	丸天井	S－60°－E	礫層	押さえ石？			○			
	4		S－64°－E	礫層			○	○			
	5		S－51°－E	礫層	自然石		○				
	6	丸天井	S－47°－E	礫層	砂岩切石	○	○				家形石棺
	7		S－46°－E	礫層	砂岩切石		○				家形石棺
	8	丸天井	S－40°－E	礫層		○	○				
35	1	整正家形	S－55°－E	砂岩	砂岩切石		○	○			
36	1	ドーム形	S－5°－W	砂岩	押さえ石			○			
	2	整正家形	S－11°－W	砂岩	凝灰岩切石			○	○		
	3	ドーム形	S－5°－W	砂岩				○	？		
37	1	アーチ形	S－68°－E	砂岩							

表4 上塩冶横穴墓群形態一覧表　玄室形態や出土土器の時期は山陰横穴墓調査検討会『出雲の横穴墓』1997

丸天井はドーム形、アーチ形のどちらかわからないときに使用した。

出土土器の○はその時期の蓋坏の存在を表す。

6期dは「B1」がある時に○をした。6期については検討を要する。

主軸方向は横穴墓によって磁北と座標軸方向の違いがある。

支群名	横穴墓	須恵器	土師器		装身具		鉄　器				その他
			坏	高坏	玉類	耳環	大刀	刀子	鉄鏃	鉄釘	
7	1		◎								陶磁器
	2	○									銅製つまみ
	3									?	陶磁器
	4										
12	1	○									
	2	○									
	4										
22	1	○	○				●		○	○	
	2	○	◎			○	●		○		
	3	○	◎							○	
	4	○						○			
	5	○						○	○		
	6	○									
	7	○		○	○	○	○	○	○		古銭
	8	○	○								
	9	○		○	○	○				○	金糸、金製の環
	10										
	11	○	◎								
	12						○				馬具
	13	○								○	
	14	○	◎					○	?	○	馬具
	15	○	◎						○		馬具
	16	○		○	○				○		
	17	○					○				
	18	○								○	
	19	○						○	○		鉄斧
	20										
	21	○									
23	1	○	◎			○	○		○		
	2	○	○					○	○		
	3	○	○								
	4	○				○			?		
	5	○			○	○	○	○	○		鉄斧、銅碗、鎹
	6	○			○		○				
	7	○		○	○		●				馬具
33	3	○								○	
	4	○								○	
	5	○			○	○					
	6	○					○	○	○		鉄斧
	7	○		○		○	○	○			鉄斧
	8	○				○		○			
35	1	○	○		○	○		○		○	紡錘車
36	1	○					●				
	2	○					○				
	3	○						○	○		馬具
37	1										鉄滓

表５　上塩冶横穴墓群出土遺物一覧表　　◎中世土師器　●装飾大刀

7．閉塞方法

閉塞方法のわかるものを表4にまとめた。切石の凝灰岩や砂岩を使用するものが多く、その中でも1枚で閉塞するものと複数の石を使用するものがある。整正家形の横穴墓は切石1枚で閉塞するものが多い。しかし、他の支群を見るとそうとも限らない。36－2号穴は砂岩に掘られているが、閉塞石は凝灰岩であり、23－7号穴は凝灰質砂岩に掘られているが砂岩の閉塞石を使うなど、石材の移動の問題もある。また、閉塞施設としては砂岩や自然石がまとまって出土する横穴墓がある。玄門部前の溝や出土状況から切石の閉塞石や閉塞板などを押さえるためのものと思われる。

8．壁画

23－7号穴から壁画と格子文を確認した。県内例は表3で10箇所確認できる。人物や帆船が多い。23－7号穴は奥壁に人物、右側壁に帆船、建物の中に人物が描かれている。船は三角マストあるいは方形のマストである。壁画の線は玄室の天井部に書かれた横線や縦線と同じ深さや風化度合いであり、同時期と思われる。出土遺物として須恵器などの横穴墓使用時の遺物の他に、北宋銭や近世の磁器があり、また、開口していることから、壁画が描かれた時期は不明といわざるを得ない。さらに、島根県内の他例も壁画が描かれた時期は確実なものはなく、今後の類例の増加に待ちたい。

9．その他

第22支群ＳＫ01や第23支群ＳＫ01はどちらも谷の先端側に位置し、横穴墓群の一番端である。この周辺は凝灰岩や砂岩が崩壊し、層自体も薄くなる。横穴墓の掘削途中とも考えられるが、性格は不明である。また、7－4号穴は凝灰岩と砂岩の境に位置し、横穴墓の中心が礫層にある。この場所には横穴墓は作れず、この遺構の性格は不明である。

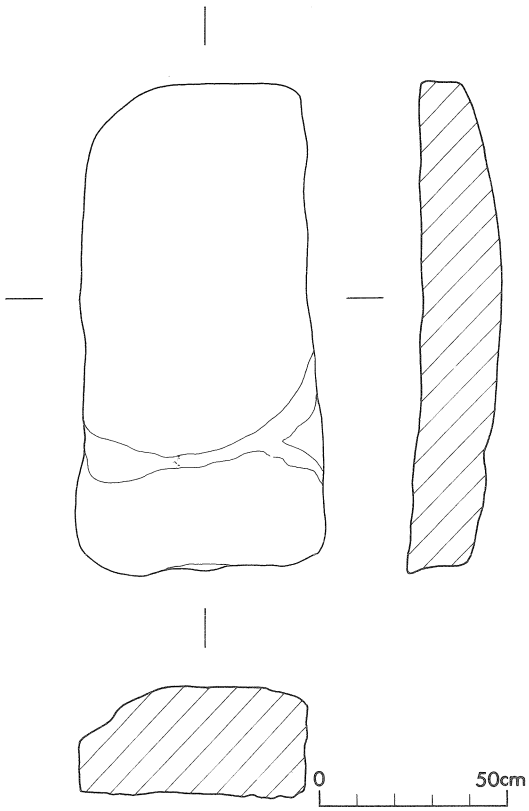
Ⅱ、遺物について

今回の調査では47穴の横穴墓を検出した。しかし、横穴墓は全て開口したり、盗掘を受けており、出土した遺物が全て横穴墓の埋葬にかかる遺物とは考えられない。よって、横穴墓の築造時期や追葬時期などを考えるには問題が多いと思われる。遺物の詳細を表5にまとめた。

1．石製品

22－16号穴の前庭部から長さ1.3m、幅0.2×0.6mの直方体の切石が出土した。同様なものが21－1号穴の玄室から2個出土している。(注10) 1つは長さ60cm、18×33cmを測り、もう1つは長さ58cm、14×29cmを測る。これらは横穴墓の掘られた凝灰岩と同質であり、閉塞に使用されたものか、棺台かは不明である。

22－1号穴と2号穴の間からも長方形の石材が検出で



第216図　上塩冶横穴墓群22－6号穴
出土石材実測図（S＝1／20）

きた。石棺の天井石と推測されるが、閉塞石の可能性も指摘されている。(注20) 石材を動かすと裏面は平坦で、石棺の蓋石と同じような形態・規模である。周囲から遺物はなく、時期や用途は不明である。

2．赤色顔料

上塩冶横穴墓群33－7号穴出土の坏身（第84図14）内には赤色顔料が付着していた。赤色顔料については島根県の類例は飯塚康行氏によってまとめられている。(注21) 横穴墓の例として、出雲市祝廻横穴墓（坏身）、(注22) 松江市弥陀原4号穴（坏蓋2個の内面）、(注23) 松江市奥山B－1号穴（坏身の底部内面）、(注24) 大田市松田谷Ⅱ－4号穴（坏身坏蓋各1個）、(注25) 海士町高津久横穴墓群（須恵器内）(注26) がある。飯塚氏は大まかに3区分し、これらの使用法を「副葬品的な使用」と位置づけて、「塊状に顔料を副葬した3類から横穴墓に見られるような坏類に納めて副葬する」流れがあるとした。今回の上塩冶横穴墓群33－7号穴出土例もこの流れに当てはまると思われる。さらに、33－7号穴からは赤色顔料を塗布した高坏が出土している。他の例も詳細に見ると、赤色顔料を塗布した高坏や玄室内に散布した弥陀原4号穴などがあり、他の用途で使用した赤色顔料を入れた蓋坏を横穴墓に副葬したと思われる。

3．金製品（表6）

22－9号穴からは金糸とともに金製の環が大小の2点出土した。両方の表面にはきざみ目が施されていた。全国でも2例と少なく、特異なものである。類例としては7世紀前葉から後葉にかけての岡山県北房町定東塚古墳があり、大小2点出土している。(注27) 定東塚古墳からは金糸も出土しており、9号穴との出土遺物の組成が似る。使用方法は不明であるが、朝鮮半島では冠に勾玉を繋ぎ留める金具(注28) や刀子の鉏に類似した金具(注29) がある。

金糸は島根県2例目で、前回出土した21－10号穴は裏側斜面に位置する。他県の例を見ると、6世紀中頃の甲山古墳が最も古く、6世紀後半から7世紀の古墳に副葬されるものが多い。また、古墳の

表6　金糸出土古墳一覧表

名　　称	所　在　地	主　体　部	出土位置	時　期	文献
上塩冶横穴墓群21－10号穴	出雲市上塩冶町	横穴墓	玄室東側ベッド上、中央付近		17
上塩冶横穴墓群22－9号穴	出雲市上塩冶町	横穴墓	玄室東から玄門部		
阿武山古墳	大阪府高槻市	石棺式石室	頭から肩部、肩甲骨上の樹皮の上	7C	25
塚廻古墳	大阪府河南町	石棺式石室	羨道付近	7C3／4	26
池尻15号墳	兵庫県加古川市	横穴式石室			27
甲山古墳	滋賀県野洲町	横穴式石室	石棺のそば	6C中	28
志島10号墳	三重県				
上総金鈴塚古墳	千葉県木更津市	横穴式石室		6C末～7C中	29
瓢塚40号墳	千葉県成田市	箱形石棺	足下付近	7C初～前葉	30
石川稲荷山古墳	群馬県高崎市	横穴式石室	玄室左側	6C後～6C末	31
マケン堀Ⅱ－C支群19号穴	鳥取県西伯町	横穴墓	人骨の下	6C後～7C前	32
定東塚古墳	岡山県北房町	横穴式石室		7C	33

規模を見ると、古墳が存在する地域の有力な古墳であることが多く、規模もその地域では相対的に大きい。この傾向から鳥取県マケン堀横穴墓群や上塩冶横穴墓群の性格をうかがうことができる。

上塩冶横穴墓群では22－１号穴(注20)や33－１号穴(注30)から金銅装大刀、22－２号穴や23－７号穴や32－６号穴と思われる横穴墓(注31)から銀装大刀が出土している。上塩冶横穴墓群の周囲には同時代の横穴式石室が少なく、また、他の副葬品や石棺の存在から見ても上塩冶横穴墓群にはかなり有力者も横穴墓に埋葬されていると考えられ、安来地方の横穴墓もかなりの有力者が埋葬されており、類似した性格を見てとれる。(注18) 上塩冶横穴墓群でも、三田谷に面した横穴墓と大井谷に存在する横穴墓とでは副葬品や規模で画一的でなく、三田谷の横穴墓の優位性が指摘されている。(注６)

４．須恵器

上塩冶横穴墓群からは多数の須恵器が出土し、それらはすでに上塩冶横穴墓群第20・21支群(注10)や上塩冶横穴墓群第14～16支群(注６)で出土した蓋坏類を中心に分類されている。また、近畿地方の須恵器との関係は、前者ではＴＫ217併行、後者ではＴＫ209からＴＫ217併行と考えられている。

今回の調査では出雲４期から７期までの須恵器が出土した。35－１号穴や36－１・３号穴からはあまり見ない低い高台を持つ坏身が検出された。また、受け部のない坏身でも底部がケズリのままのものとケズリ後ナデが施されているものがあり、傾向として前者の方が口径が大きい。今回は坏蓋と坏身のセット関係を検討できなかった。

横穴墓出土遺物であり、追葬など一括性に乏しい資料ではあるが、各種形態が出土しており、６世紀後半から７世紀代の須恵器の変化をうかがうことができる。蓋坏のセット関係は第33支群の資料や22－11号穴出土の土器（第168－31～33）が参考になる。

上塩冶横穴墓出土須恵器で一番古手のものは33－６号穴出土須恵器で、坏蓋は口径11.8～12.6㎝、器高3.7～4.5㎝、坏身は口径9.9～10.7㎝、器高3.5～4.1㎝を測り、天井部や底部はヘラケズリが施されている。次は33－７・８号穴のヘラケズリが見えない蓋坏である。坏蓋の口径は11.8～13.5㎝、器高4.0～4.5㎝、坏身の口径は10.5～11.7㎝、器高3.7～4.1㎝を測る。なお、33－７号穴の蓋の中には有蓋高坏の蓋も入っているが、規模や形態は酷似している。口径と器高が小さくなる傾向があり、その後は蓋坏の逆転した形態のものが出現し始める。この出現期は未だ押さえられていないが、八束郡八雲村折原上堤東遺跡ＳＫ06出土遺物(注32)や渋山池遺跡ＳＢ11出土遺物(注33)などを参考に上塩冶横穴墓群でも検証していく必要がある。さらに、高台付身（坏Ｂ）の出現時期も問題である。(注34) 今後の課題としておきたい。

５．銅椀

古墳出土の銅碗は毛利光氏により分類され、(注35) 23－５号穴出土品は無高台の小型品と思われ、この形態は７世紀に出土し始めるという。島根県での銅碗の出土は邇摩郡仁摩町明神古墳、(注36) 隠岐郡知夫村多沢横穴墓(注37)がある。明神古墳は横穴式石室で、家形石棺を内蔵している。遺物は玄室内の２か所にまとまっており、銅碗は北西隅に須恵器や金銅装大刀などと共に出土している。多沢横穴墓は削り出しの屍床をもち、玉類や大刀、耳環、土師器、７世紀代の須恵器と共に銅碗の蓋が出土している。

Ⅲ、上塩冶横穴墓群のまとめ

上塩冶横穴墓群は島根県下最大級の横穴墓群で、出雲４期から出雲８期まで継続している。出雲４期から築造が始まり、当初は礫層など軟質な土層に掘られた。形態としては縦長長方形プランで、丸天井系で、横穴墓の中には石棺を内蔵するものもある。周辺の横穴墓では地蔵堂北横穴墓群(注38)や井上横穴墓群、(注39)祝廻横穴墓(注22)などがあり、出雲平野でも点々と分布し、数も少ない。

出雲５期になり、急激に数を増加させ、凝灰岩にも掘り込まれ、併せて切妻家形、寄棟家形、整正家形などの家形や正方形プランも出現する。(注4、40)さらに、出雲６期には追葬も合わせ、上塩冶横穴墓群は最盛期を迎える。この時期、石棺や装飾大刀や金製品を持つものがあり、横穴式石室墳の減少と横穴墓の増加には密接な関係があると思われる。周辺の遺跡でも出雲４期から続く神門横穴墓群などは上塩冶横穴墓群に匹敵する大横穴墓群になる。出雲平野東部でも斐川町平野西横穴墓群(注41)やその周辺の横穴墓群が当てはまる。墓域を決めたかのように横穴墓が集まり、大横穴墓群を形成するのもこの時期である。出雲東部では横穴墓数が減少していくこの時期、出雲平野の横穴墓の数は増加している。

出雲７期の須恵器を出土する横穴墓は急激に減少する。また、前代の土器とともに出土していることから初葬とは考えられず、追葬と思われる。さらに、上塩冶横穴墓群では今のところ見つかっていないが、糸切りを持つ須恵器も横穴墓から出土し、(注42)出雲８期まで横穴墓は使用されていたと考えられるが、数は少ない。

上塩冶横穴墓を中心に出雲平野の横穴墓を概観した。しかし、上塩冶横穴墓群以外の横穴墓群の様相が不明であり、今後の発掘調査で、新たな知見が得られると思われる。

古墳名	所在地	墳形	墳丘規模	玄室規模 幅×長さ	石室主軸	時期	備考	文献
若塚古墳	安来市久白町	方墳	11	.15×1.95	S－2°－W			34
イガラビ２号墳	松江市大井町	方墳	6.64×6.4	1×1.6	S－17.5°－E	６期	列石	35
イガラビ３号墳	松江市大井町	方墳	4.7×4.1	0.7×1.7	S－22.5°－E	6,8期	列石	35
イガラビ４号墳	松江市大井町			1×1.95				35
イガラビ５号墳	松江市大井町	方墳	4.5×4	0.9×1.5		８期		35
イガラビ６号墳	松江市大井町		5.3×5	1.1×2.8	S－18°－E	６期？		35
イガラビ８号墳	松江市大井町	方墳	7×5.5	0.9×2.6		６期		35
池の奥２号墳	松江市大井町	方墳	9×9.4	1.28×1.85				35
廻原１号墳	松江市朝酌町	方墳	10	0.74×1.61	S－8°－W			34
阿弥陀寺古墳	松江市福富町			1.5×1.6	S－7°－E			34
古妙見古墳	松江市坂本町			1.2×1.8	S－13°－E			34
鏡北廻古墳	宍道町東来待	方墳	10数	1×1.8	S－2°－W			34
講武岩屋古墳	鹿島町北講武			1.35×1.8	S－28°－E			34
大井谷古墳	出雲市上塩冶町	方墳	7×7.5	1.05×1.65	S－11.5°－E	６期	列石	
高野１号墳	斐川町下阿宮			0.95×1.93	S－11°－W			34
高野２号墳	斐川町下阿宮			0.9×1.8	S－11°－E			34
高野３号墳	斐川町下阿宮			1.2×2.4	S－11°－W			34
布子谷古墳	斐川町阿宮	方墳	10	1.3×1.9	S－6°－W			34
武部西古墳	斐川町武部			1.1×1.95	S－13°－E			34
切石古墳	佐田町朝原			0.85×2.5	S－20°－E			34

表７　古墳一覧表　　時期は山陰横穴墓研究会『出雲の横穴墓』　1997

Ⅳ、上塩冶横穴墓群と横穴式石室

上塩冶横穴墓群の所在する墓域内には、三田谷１、２号墳、大井谷古墳などがある。三田谷２号墳は出雲３～４期で、上塩冶横穴墓群が形成される直前あるいは一部かかる時期のものであった。また、大井谷古墳は周辺から出雲６期の須恵器が出土しており、上塩冶横穴墓群が盛行していた時期に当たる。

同時期や同形態の石室を表７に集めた。安来市若塚古墳や松江市廻原１号墳などの単独墳と松江市イガラビ古墳群のような群集するものに分けられる。大井谷古墳は周囲を発掘したが、１基しかなく単独墳と思われる。大井谷古墳は、上塩冶横穴墓群の墓域内にあり、横穴式石室と横穴墓が混在した状況で、花田氏の分類では龍王山型になり、７世紀に登場するという。(注43) 大井谷古墳の副葬品は不明であり、横穴墓との被葬者の違いについては今後の課題にしたい。

大井谷城跡・半分城跡

大井谷城跡では南１郭、南２郭を中心に調査した。南１郭は主郭の背後に位置するが、細片ながら中国製青磁や鉄釉などが出土したが、建物跡はなく、造成面のみであった。一方、南２郭は掘立柱建物跡を確認したが、遺物はない。また、半分城跡では加工段のみ確認した。これらの遺構遺物の違いは各郭の機能の違いと思われ、他の郭の時期や遺構が不明な現地点では、各郭の機能は即断できない。

島根県内で同時期の可能性がある山城跡は時期を決める出土遺物が少なく、検索は困難であるが、斐川町大井城跡、松江市茶臼山城跡がある。これらの山城跡からは瀬戸美濃系陶器や青磁や白磁が出土しており、山頂部で、何らかの活動が行われていた可能性がある。

表８　島根県における発掘調査された山城

遺跡名	所在地	加工段	掘立	礎石	土坑	柵	その他	土師器	備前	青磁	白磁	青花	美濃	古釘	銭	その他	文献
琢道城跡	邑智郡瑞穂町	○			○		ピット										36
堀越城跡	邑智郡瑞穂町	○			○		通路状遺構、堀切			○		○					37
長源地本谷城	邑智郡瑞穂町	○															38
滝ノ屋谷城跡	邑智郡瑞穂町				○		石列、ピット							○			39
桜尾城跡	邑智郡瑞穂町	○			○		ピット、堀切										39
森迫城跡	邑智郡瑞穂町				○		ピット										39
内ケ原城跡	邑智郡瑞穂町				○		ピット、溝	○	○							石臼	39
日和城跡	邑智郡石見町		○		○	○	溝		○	○		○				鉄鎧	40
丸山城跡	邑智郡川本町			○				○	○		○	○	○			褐釉	41
七尾城跡	益田市七尾町			○				○				○					42
半分城跡	出雲市上塩冶町	○			○	○	土塁	○						○		石臼、鉄鎌	43
大井谷城跡	出雲市上塩冶町	○	○			○	石列、堀切	○		○						瓦器、鉄釉	43
富田城跡	能義郡広瀬町	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		肥前系陶磁器	44
松江城跡	松江市殿町	○	○	○	○		門、トイレ	○				○		○	○	肥前系陶磁、萩焼、鞴、砥石	45
稲葉城跡	松江市西尾町			○	○		ピット	○		○				○	○	砥石	46
荒隈城跡	松江市国屋町	○				○	土塁	○		○	○			○	○	砥石、鏡、硯、陶器	47
茶臼山城跡	松江市山代町	○					縦穴遺構	○	○	○	○			○	○	瓦質土器、砥石、鉄片	48
池平城跡	八束郡鹿島町																49
大井城跡	簸川郡斐川町	○			○		空堀、土塁				○					瀬戸、常滑系	50
大谷城跡	大原郡加茂町	○					集石、ピット	○				○			○		51
佐世城跡	大原郡大東町																52
三刀屋城跡	飯石郡三刀屋町	○					石垣、石列	○								陶磁器	53
じゃ山城跡	飯石郡三刀屋町								○	○						常滑	53
羽森城跡	飯石郡掛合町																54

注

1　島根県教育委員会他『出雲・上塩冶地区を中心とする埋蔵文化財調査報告』　1980

2　第61図の１や２にも横穴墓が存在する。１は丘陵先端の凝灰岩に存在する。

3　松山智弘「出雲平野の横穴墓に見られる造墓技術について」『島根考古学会誌12』　1995

4　大谷晃二「出雲地方の須恵器編年図」『出雲の横穴墓』山陰横穴墓研究会　1997
　大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌11』　1994

5　島根県教委委員会他『島田池遺跡・鷸貫遺跡』　1997

6　島根県教育委員会他『大井谷石切場跡・上塩冶横穴墓群第14支群・上塩冶横穴墓群第15支群・上塩冶横穴墓群第16支群』　1997

7　門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」『古代文化談叢７』　1980

8　松山智弘「出雲平野における横穴墓の形態変遷」『出雲の横穴墓』山陰横穴墓研究会　1997

9　東森市良他「安来市・飯梨穴神古墳」『島根考古学会誌13』　1996

10　島根県教育委員会『上塩冶横穴墓群第20・21支群』　1995

11　山本清「古墳の示す三瓶周辺の文化」『山陰文化研究紀要３』1962

12　大谷晃二『彩色横穴墓の謎に迫る　安来市穴神横穴墓シンポジウム』　1995

13　山本清「安来・矢田横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』　1995

14　出雲考古学研究会『石棺式石室の研究』　1987

15　京都帝国大学文学部考古学研究報告15『筑前国嘉穂郡王塚装飾古墳』　1940

16　長津宗重「日向の横穴墓」『おおいた考古４』　1991

17　豊岡市立郷土資料館他『七川塚古墳群』　1978

18　島根県教育委員会他『岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡（Ｆ区)』　1997

19　福岡県立花町教育委員会『鬼隈横穴群』　1987

20　西尾克己・角田徳幸「出雲・上塩冶横穴群第22支群」『島根県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅡ』　1986

21　松江市教育委員会他『釜代１号墳外発掘調査報告書Ⅰ』　1994

22　西尾良一・黒谷達典「祝廻横穴」『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』　1980

23　岡崎雄二郎・飯塚康行「松江・弥陀原横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ』　1991

24　島根県教育委員会『奥山遺跡発掘調査報告書』　1998

25　島根県教育委員会『大田市松田谷横穴群』　1982

26　西尾克己「高津久古墳について」『隠岐の文化財15』　1998

27　岡山大学考古学研究室定古墳発掘調査団『定古墳発掘調査現地説明会資料』　1997

28　岡山大学新納泉助教授のご教示による。

29　平田洋司「森の宮遺跡の銀装刀子」『葦火58』　1995

30　出雲市教育委員会松山智弘氏のご教示による。

31　山本清「横穴被葬者の地位をめぐって」『島根考古学会誌１』　1984

32　八雲村教育委員会『折原上堤東遺跡発掘調査報告書』　1994

33　島根県教育委員会他『渋山池遺跡・原の前遺跡』　1997

34　菱田哲郎「近畿地方西部・山陰・山陽」『古代の土器研究　第５回シンポジウム７世紀の土器』　1997

35　毛利光俊彦「古墳出土銅碗の系譜」『考古学雑誌64－1』　1988

36　「新指定文化財二件」『季刊文化財57』島根県文化財愛護協会　1982

37　内田律雄「原始・古代の遺跡」『新修知夫村誌』　1996

38　出雲市教育委員会『地蔵堂横穴墓群発掘調査報告書』　1994

39　出雲市教育委員会『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書19』　1997

40　西尾克己他「出雲西部における横穴墓の様相」『湖陵町誌研究１』　1992

41　斐川町教育委員会『平野遺跡群発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』　1983・84

42　放れ山横穴墓群から出土している。島根県教育委員会平石充氏のご教示による。

43　花田勝広「畿内横穴墓の特質」『古文化談叢22』　1990

文献

1　『大日本地誌体系　雲陽志』雄山閣　1971

2　渡辺貞幸「ガウランド氏と山陰の古墳」『八雲立つ風土記の丘37』　1979

「安井の村付近のドルメン群に隣接する横穴墓」出土のロクロ使用の土師器３つを紹介

3　野津左馬之助『島根縣史４』　1925

4　山本清「上塩冶方面の横穴群など」『出雲市誌』1951

5　門脇俊彦「横穴考」『島根史学４』　1954

6　門脇俊彦「出雲国大井谷横穴群の研究」『私たちの考古学８』　1956

7　池田満雄「上塩冶地区の横穴」『出雲市の文化財１』　1956

8　山本清「横穴の型式と時期について」『島根大学論集11』　1962

9　山本清「山陰の石棺について」『山陰文化研究紀要10』　1970

『出雲の古代文化』　1989

半分遠藤山横穴、工業高校裏横穴の家形石棺を紹介

10　出雲市教育委員会『半分城跡横穴群発掘調査報告』　1979

11　島根県教育委員会他『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』　1980

12　門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」『古文化談叢７』　1980

上塩冶横穴墓群を代表させ、出雲市周辺に分布する横穴墓は四注式系整正妻入形とする

13　山本清「横穴被葬者の地位をめぐって」『島根考古学会誌１』　1984

14　角田徳幸・西尾克己「出雲・上塩冶横穴群第22支群」『島根県埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』　1986

15　山本清「出雲地方における石棺を内蔵する横穴について」『斉藤忠先生記念論集　考古学叢考下』　1988

16　西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓」『おおいた考古』４　1991

17　島根県教育委員会『上塩冶横穴群第20・21支群』　1995

18　出雲市教育委員会『時代を越えて－斐伊川放水路発掘調査現地説明会資料－』　1997

出雲市教育委員会『タイムかぷせる－斐伊川放水路発掘調査だより－』　1996～98

19　島根県教育委員会『大井谷石切場跡・上塩冶横穴墓群第14・15・16支群』　1997

20　島根大学考古学研究会「十王免横穴群発掘調査報告」『菅田考古10』　1968

21　島根県教育委員会「狐谷横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』　1977

22　島根県教育委員会他『島田池遺跡・鷸貫遺跡』　1997

23　池田満雄「芦渡町深田谷横穴」『出雲市の文化財２』　1960

24　勝部明生「飯の山横穴」『隠岐』　1968

25　大阪府教育委員会「阿武山古墳」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告書７』　1936

26　北野耕平・富野「大阪府平石塚廻古墳」『日本考古学協会３２』　1982

27　加古川市教育委員会『印南野』　1965

28　野洲町教育委員会『甲山古墳発掘調査現地説明会資料』　1996
29　千葉県教育委員会『上総金鈴塚古墳』　1951
30　千葉県企業庁『公津原』1975
安藤鴻基「千葉県成田市瓢塚40号墳の資料吟味」『千葉県立房総風土記の丘年報13』　1990
31　高崎市教育委員会『石原稲荷山古墳』　1981
32　西伯町教育委員会『マケン堀古墳群　北福王子遺跡』　1990
33　岡山大学考古学研究室定古墳発掘調査団『定古墳発掘調査現地説明会資料』　1997
34　出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える６』　1987
35　松江市教育委員会他『イガラビ古墳群他』　1990
36　瑞穂町教育委員会『琢道城跡発掘調査概報』　1989
瑞穂町教育委員会『琢道城跡発掘調査報告書』　1992
37　瑞穂町教育委員会『慶光坊遺跡（堀越城跡）発掘調査報告書』1995
38　瑞穂町教育委員会『長源地本谷城跡発掘調査報告書』　1997
39　島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』　1991
40　石見町教育委員会『日和城跡調査報告書』　1996
41　川本町教育委員会『丸山城跡』　1997
42　益田市教育委員会『益田氏関連遺跡群－Ⅰ・Ⅱ－』　1993、1994
43　出雲市教育委員会『中国電力高圧送電線鉄塔工事にともなう大井谷城跡・半分城跡発掘調査報告書』1979
44　広瀬町『史跡富田城跡環境整備に伴う発掘調査報告』　1977
広瀬町教育委員会『史跡富田城跡菅谷地区』1985
島根県教育委員会『史跡富田城関連遺跡群発掘調査報告書』　1983
45　松江市教育委員会『史跡松江城－昭和54年度環境整備事業報告書』　1980
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和57年度環境整備事業報告書』　1983
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和59年度保存修理事業報告書』　1985
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和60年度保存修理事業報告書』　1986
松江市教育委員会『史跡松江城上御殿跡発掘調査報告書』　1987
松江市教育委員会『史跡松江城発掘調査－二の丸番所跡』　1993
46　松江市教育委員会『岩穴平・稲葉城跡』　1981
47　松江市教育委員会『荒隈城跡』　1982
48　島根県教育委員会『風土記の丘地内発掘調査報告Ⅶ』　1990
49　鹿島町教育委員会『島根原子力発電所２号機資材運搬道路新設に伴う氏平遺跡発掘調査概報』　1983
50　斐川町教育委員会『大井城跡発掘調査報告書』　1983
51　蓮岡法瞳「加茂・大谷城跡」『島根県埋蔵文化財発掘調査報告書Ｘ』　1983
52　大東町教育委員会『丸子山城跡・福富城跡・佐世城跡』　1988
53　三刀屋町教育委員会『三刀屋城跡調査報告書Ⅰ～Ⅲ』　1982～1987
三刀屋町教育委員会『平成元年度予防治山事業の施行に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　1990
三刀屋町教育委員会『三刀屋氏とその城跡』　1985
54　掛合町教育委員会『羽森城跡・羽森１号炉跡発掘調査報告書』　1997

土器・陶磁器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
6－1	9	上沢Ⅱ遺跡	皿 （土師器）	口径8.2 器高6.2 底径1.5	外面：底部糸切り その他：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	橙色	底部内面に形押し文様あり
6－2	9	上沢Ⅱ遺跡	坏 （陶器）	口径5.7 器高2.2 底径3.0	外面：底部露胎 その他：施釉 内面：全面施釉、3本単位の擂目	密	良好	釉色：黄色 断面：淡黄灰色	
6－3	9	上沢Ⅱ遺跡	徳利 （陶器）	口径2.8	外面：回転ナデ 内面：強いロクロ目 全面施釉	密	良好	淡黄灰色	外面に一部文様あり
6－4	9	上沢Ⅱ遺跡	擂鉢 （陶器）	口径 器高 底径17.8	外面：釉なし 内面：全面施釉、細かい擂目	密	良好	釉色：茶褐色 断面：淡黄灰色	肥前系
6－5	9	上沢Ⅱ遺跡	徳利 （陶器）	高台径10.2	外面：回転ナデ 内面：強いロクロ目	密	良好	淡黄灰色	外面に大山の文字 全面施釉
22－1	9	大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	深鉢 （縄文）		外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	
22－2	9	大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	深鉢 （縄文）		外面：ナデ 内面：巻き貝条痕のちナデ	砂粒を多く含む	良好	茶褐色	
22－3	9	大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	深鉢 （縄文）	底径7.2	外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	
22－4		大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	深鉢 （縄文）	底径9.2	外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	暗灰茶褐色	上げ底
22－5		大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	深鉢 （縄文）	底径11.2	内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	上げ底
22－6	9	大井谷城跡 ２Ｃ区黒色土	甕 （土師器）	口径18.2	外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ	2㎜程度の砂粒を多く含む	良好	淡黄茶色	
22－7	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	口径13.8	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22－8	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	口径12	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22－9	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	底径5.8	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22－10	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	（土師器）		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜程度の砂粒を含む	良好	茶褐色	
22－11	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	底径4.8	外面：不明 内面：不明	密	良好	淡黄褐色	
22－12	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	底径3.6	外面：不明 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22－13	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	坏 （土師器）	底径3.6	外面：底部糸切り、他は回転ナデ 内面：ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
22－14		大井谷城跡 Ｃ区	坏蓋 （須恵器）	口径8.5 底径3.0	外面：口縁部回転ナデ、天井部ケズリ後ナデ 内面：口縁部回転ナデ、ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
22－15		大井谷城跡 ２Ｃ区	甕 （須恵器）		外面：タタキ 内面：タタキ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	淡黄灰色	
22－16	9	大井谷城跡 ２Ｃ区	甕 （須恵器）		外面：タタキ 内面：タタキ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	淡黄灰色	
27－1	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.0 器高3.4	天井部外面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約2／3残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
27－2	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.8 器高3.8	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	全体の約6／7残存、天井部外面自然釉少々付着
27－3	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.5 器高2.0	天井部外面：回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	全体の約4／5残存
27－4	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.0 器高2.2	天井部外面：ヘラケズリ後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	灰色	全体の約7／8残存、外面に7㎜、4㎜程度の礫を1個含む
27－5		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径(10.8) 器高(3.15)	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	灰色	全体の約1／2残存、風化が著しい 反転復元
27－6		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径(10.6) 器高	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を若干含む	やや不良	灰色	口縁部のみ1／6残存 反転復元
27－7	17	35－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.2 器高2.1	天井部外面：ヘラケズリ一部ナデ 天井部内面：ナデ、 その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	外面部に自然釉付着
27－8		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.1 器高2.3	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他:回転ナデ	1㎜未満の砂粒が密に集まる	良好	青灰色	外面部に自然釉少々付着
27－9	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.0 器高3.8	天井部外面：ナデ、カキ目 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約2／5残存 反転復元
27－10	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.0 器高2.2	天井部外面：回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	やや不良	濃青灰色	全体の約3／4残存、ヘラケズリ後ナデ部0.5㎜幅のスジあり
27－11	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.8 器高3.2	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
27－12	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.6 器高4.0	天井部外面：回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の白い砂粒を少し含む	良好	灰色	炭化物少々付着
27－13	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.6 器高4.0	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜未満の砂粒を少し含む	良好	灰色	
27－14	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.0 器高3.6	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	約9×4㎜の礫を1個含む	良好	灰色	
27－15	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.5 器高2.5	天井部外面、内面：ナデ その他：回転ナデ	1～3㎜程度の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	全体の約3／5残存
27－16	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.4 器高3.15	天井部外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜の白い砂粒を数個含む	良好	青灰色	
27－17		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.2 器高	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を若干含む	良好	青灰色	体部から口縁部にかけて全体の約1／5残存
27－18		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.2 器高	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を若干含む	不良	灰色	体部から口縁部にかけて全体の約1／3残存
27－19	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.8 器高3.25	天井部外面：回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約1／2残存
27－20		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.8 器高	天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の砂粒を少々含む	不良	灰色	体部から口縁部にかけて全体の約2／5残存
27－21	21	35－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径8.6 器高3.4	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の白い砂粒を少し含む	良好	青灰色	
27－22	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.5 器高2.8	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の白い砂粒を少々む	良好	灰色	
27－23	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.3 器高2.4	天井部外面：回転ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラケズリ、天井部内面：ナデ、その他:回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	灰色	全体の約9／10残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
27－24		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.3 器高	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の白い砂粒を多く含む	不良	灰色	ツマミ部分のみ欠損
27－25		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.2 器高2.3	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	全体の約4／5残存
27－26	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.0 器高2.9	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	天井部内面に約7㎝のヘラ記号アリ
27－27	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.0 器高2.6	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	
27－28	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.9 器高2.5	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の砂粒を含む	良好	濃青灰色	
27－29	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.8 器高3.1	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の砂粒を数個含む	良好	灰色	全体の約7／8残存
27－30	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.8 器高2.7	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の白い砂粒を少し含む	良好	青灰色	
27－31	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.6 器高3.2	天井部外面：回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の白い砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約7／8残存 炭化物少々付着
27－32	17	35－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径7.6 器高3.1	天井部外面：一部ナデ、回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	外面1／3程度禿げ白灰色
27－33	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.6 器高3.05	天井部外面：回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	灰色	全体の約7／8残存 内面炭化物少々付着、風化著しい
27－34		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.6 器高	天井部外面:ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を若干含む	やや不良	青灰色	全体の約1／3残存 反転復元
28－1	17	35－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径7.5 器高3.1	天井部外面：ヘラケズリ後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
28－2	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.5 器高2.8	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ、回転ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
28－3		35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.5 器高	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部のみ1／6残存 反転復元
28－4	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.4 器高2.7	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の白い砂粒を少し含む	良好	青灰色	
28－5	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.4 器高2.25	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他:回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	炭化物少々付着 反転復元
28－6	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.2 器高2.6	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	天井部内面ヘラ記号アリ
28－7	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.2 器高2.5	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面 その他：回転ナデ	0.5㎜未満の砂粒を若干含む	良好	淡灰色	全体の約1／4残存
28－8	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.0 器高2.8	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面 その他：回転ナデ	1㎜未満の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
28－9	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.0 器高2.75	天井部外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	炭化物少々付着
28－10	17	35－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径6.8 器高2.3	天井部外面：ヘラケズリ後丁寧なナデ 天井部内面 その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
28－11	17	35－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径6.2 器高2.5	天井部外面：回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.1㎜程度の白い砂粒を多く含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
28－12	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径11.6 器高	底部外面：ケズリ後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約1／3残存 反転復元
28－13	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径11.0 器高4.0	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
28－14	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.3 器高	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	反転復元、全体の約1／5残存、底部内面にヘラ記号アリ
28－15	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.5	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜前後の砂粒を数個含む	良好	濃青灰色	全体の約1／4残存
28－16	17	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径8.7 器高3.4	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	
28－17	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高3.5	底部外面：粗いナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜程度の白い砂粒を数個含む	良好	灰色	全体の約3／4残存 反転復元
28－18	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.3 器高3.05	底部外面：ケズリ後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜程度の白い砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約2／5残存 反転復元
28－19	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.1 器高3.7	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約4／5残存 内外面に炭化物少々付着
28－20	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高3.5	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	底部外面ヘラ記号アリ
28－21	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高2.9	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	全体の約3／5残存
28－22	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.8 器高3.0	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜未満の白い砂粒を含む	良好	灰色	
28－23	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を数個含む	良好	青灰色	全体の約1／2残存 反転復元
28－24	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.0	底部外面：ナデ(板状工具) 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	全体の約2／3残存
28－25	17	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高(3.2)	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	全体の約1／2残存
28－26		35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.5 器高2.5	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	全体の約4／5残存
28－27		35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.2 器高3.25	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以上の砂粒は認めない	良好	青灰色	全体の約1／3残存
28－28		35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高	外面：底部回転ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約1／4残存 自然釉付着 反転復元
28－29		35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	0.5㎜未満の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	全体の約1／4残存 反転復元
28－30	17	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高2.95	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約3／4残存
29－1	18	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.3	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、の他回転ナデ	2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	
29－2	18	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.5 器高3.5	外面：底部手持ケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	
29－3	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高3.5	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	緻密	良好	青灰色	内面に炭化物付着

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
29－4	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高3.5	外面：底部ケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約5／6残存
29－5	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.5 器高2.6	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約2／3残存 底部自然釉付着
29－6		35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.2 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を若干含む	良好	青灰色	口縁部の約1／4残存 反転復元
29－7	18	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.1 器高3.2	外面：ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	2～3㎜の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
29－8	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高3.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	全体の約1／4残存 反転復元
29－9	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.3	外面：底部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	全体の約4／5残存
29－10	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.05	外面：底部ケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約1／2残存 ヘラ記号あり
29－11	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.4 器高2.5	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	全体の約9／10残存
29－12	18	35－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径3.3 器高8.0	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜前後の白い砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	全体の約3／5残存
29－13	18	35－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径7.8 器高2.75	外面：底部体部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以内の砂粒を多く含む	良好	青灰色	口縁部が外側に広い
29－14	18	35－1 前庭	坏身 （高台付） （須恵器）	口径11.4 器高3.9	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ口縁部回転ナデ	1～3㎜の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約2／3残存
29－15	18	35－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径10.0 底径5.1 器高6.0	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
29－16	18	35－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径 底径6.5 器高	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以内の砂粒を含む	良好	灰色	脚部のみ
29－17	18	35－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径9.4 底径 器高	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以内の砂粒を含む	良好	濃青灰色	坏部のみ
29－18	18	35－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径16.0 底径 器高	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以上の砂粒を含む	良好	青灰色	坏部のみ 2段2方向透し
29－19	18	35－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径15.4 底径9.4 器高11.9	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	1段2方向線状透し 体部外面にヘラ記号
29－20		35－1 前庭	はそう （須恵器）	口径 底径 器高	外面：底部タタキ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	反転復元
29－21	18	35－1 前庭	壺 （須恵器）	口径7.2 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以内の砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
29－22	18	35－1 玄室	壺 （須恵器）	口径8.5 器高17.4	外面：底部ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜以内の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
29－23	18	35－1 前庭	壺 （須恵器）	口径8.7 底径11.0 器高27.6	外面：体部カキ目、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以内の砂粒を多く含む	良好	青灰色	頸部にヘラ記号
29－24	18	35－1 前庭・玄室	坏身 （土師器）	口径14.2 器高	外面：横方向のミガキ 内面：体部下部風化、上部暗文		良好	淡赤褐色	暗文2段 底部外面に黒斑あり

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
40－1	20	36－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.8 器高4.0	外面：天井部ナデ 内面：天井部ナデ その他：回転ナデ	緻密	良好	青灰色	ヘラ記号あり
40－2	20	36－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径7.4 器高2.2	外面：天井部ケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以上の砂粒を数個含む	良好	濃青灰色	
40－3	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.8 器高	内面：天井部ナデ その他：回転ナデ	外面に4㎜程度の白い礫を数個含む	良好	青灰色	全体の約2／5残存
40－4	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.5 器高2.9	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：天井部ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	全体の2／3残存
40－5		36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.5 器高	外面：口縁部回転ナデ、天井部ケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	2㎜程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	全体の約1／4、口縁部のみ残存
40－6	20	36－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径8.0 器高3.0	外面：天井部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ、 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	
40－7	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.0 器高2.9	外面：天井部ヘラケズリ後回転ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色 （やや黄味を含む）	
40－8	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.8 器高2.9	外面：つまみ部ナデ、天井部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
40－9	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.8 器高2.7	外面：天井部ケズリ後回転ナデ、ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	緻密2㎜程度の白い砂粒を少々含む	良好	青灰色	
40－10	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.5 器高2.8	外面：天井部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
40－11	20	36－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.3 器高3.2	外面：つまみ部口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜前後の砂粒を数個含む	良好	青灰色	ヘラ記号あり
40－12		36－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高3.5	外面：底部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を若干含む	良好	青灰色	全体の約1／6残存
40－13	20	36－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.3	外面：底部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
40－14		36－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.1	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	
40－15		36－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高	外面：底部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜以下の砂粒を若干含む	やや不良	青灰色	全体の約2／5残存
40－16	20	36－1 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高3.1	外面：底部回転ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	緻密	良好	青灰色	
40－17	20	36－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.8 器高3.2	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜未満の砂粒を若干含む	良好	灰色	
40－18		36－1 前庭	坏身 （高台付） （須恵器）	口径11.1 器高3.8 高台径7.2	外面：底部ケズリ切り、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少量含む	良好	青灰色	全体の約2／3残存
40－19		36－1 玄室	坏身 （高台付） （須恵器）	口径10.9 器高4.05 高台径7.6	外面：ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	2㎜未満の白い砂粒を多く含む	良好	青灰色	
40－20	20	36－1 玄室	坏身 （高台付） （須恵器）	口径10.4 器高3.95 高台径7.2	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
40－21		36－1 前庭	坏身 （高台付） （須恵器）	口径10.4 器高3.9 高台径7.0	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	2㎜前後の砂粒を少量含む	良好	灰色	全体の約1／2残存、反転復元
40－22	20	36－1 前庭	坏身 （高台付） （須恵器）	口径9.8 器高4.0 高台径7.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
40－23	20	36－1 前庭	はそう （須恵器）	口径10.0 器高13.5	外面底部：ケズリ後ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜の砂粒を若干含む	良好	灰色	削りを行うが丸底である
40－24		36－1 玄室	壺 （須恵器）	口径7.0 底径 器高7.2	外面：口縁部から体部回転ナデ、底部ケズリ後タタキ、その他ケズリ 内面：回転ナデ	2㎜以内の砂粒を含む	良好	濃青灰色	
40－25	20	36－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径8.7 底径6.6 器高8.65	内面坏底部：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	透し2段、下の透しは裏につながっていない
40－26	20	36－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径16.6 底径13.2 器高	外面：回転ナデ 内面：ナデ	1㎜以上の砂粒を認めない	良好	濃青灰色	全体の約1／4残存
40－27	20	36－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径15.0 底径9.9 器高12.6	内面坏底部：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	濃青灰色	2ヵ所線状の透し
40－28	20	36－1 玄室	壺 （須恵器）	口径7.4 底径5.7 器高16.2	外面：口縁部から体部回転ナデ、底部ナデ、その他ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	3㎜未満の砂粒を若干含む	良好	青灰色	底部にヘラ記号あり
40－29	20	36－1 前庭	壺 （須恵器）	口径6.8 底径7.3 器高17.7	外面：口縁部から頸部回転ナデ、肩部カキメ、体部回転ナデ及びカキメ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	平底
41－1	21	36－2 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.6 器高2.9	外面：ツマミ部ナデ、その他回転ナデ、 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	3㎜前後の白い砂粒を数個含む	良好	青灰色	
41－2	17	36－2 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.9 器高2.75	外面：ツマミ部天井部口縁部回転ナデ、体部一部ヘラケズリ後回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部一部破損
41－3	21	36－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.8 器高3.3	外面：ツマミ部ナデ、体部ケズリ後回転ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみ内部にヘラ記号あり
41－4	21	36－2 玄室	坏身 （高台付） （須恵器）	口径14.4 器高4.4 底径7.7	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜までの砂粒を多く含む	良好	青灰色	底面にヘラ記号あり
41－5	21	36－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径8.4 器高3.6	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
41－6		36－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径8.5 器高3.5	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	3㎜前後の砂粒を数個含む	良好	青灰色	
41－7	21	36－2 玄室	高坏 （須恵器）	口径16.6 器高12.7 底径9.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜までの砂粒を多く含む	良好	青灰色	
41－8	21	36－2 前庭	高坏 （須恵器）	口径9.4 器高5.3 底径5.3	外面：体部一部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	2㎜前後の白い砂粒を数個含む	良好	青灰色	
41－9	21	36－2 玄室	壺 （須恵器）	口径7.4 器高19.2 底径7.1	外面:口縁部から体部下部まで回転ナデ、体部下部ケズリ後ナデ、底部回転ヘラケズリ、内面:口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜程度の砂粒を含む	良好	青灰色	
41－10	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径13.2 器高	外面：天井部ケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を若干含む	良好	灰色	全体の約1／7残存
41－11	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.4 器高2.8	外面：天井部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少々含む	不良	青灰色	全体の約4／5残存、約1／2がいびつに歪む自然釉付着、炭化物付着
41－12	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.8 器高3.1	外面：ツマミ部回転ナデ、口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	2㎜程度の白い砂粒を1個含む	良好	濃青灰色	内面中央部にヘラ記号あり
41－13	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.4 器高	外面：回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	自然釉付着 全体の約3／4残存
41－14	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.2 器高2.3	外面：ツマミ部ナデ、口縁部回転ナデ、その他ヘラ切り後ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	濃青灰色	全体の3／4残存
41－15	22	36－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.4 器高3.0	外面：天井部ケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1～3㎜前後の砂粒を含む	良好	灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
41－16	22	36－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.4 器高3.8	外面：底部ケズリ切り後粗ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜前後の砂粒を若干含む	やや不良	濃青灰色	内面中央部にヘラ記号あり 炭化物付着
41－17	22	36－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.8 器高3.7	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～3㎜程度の砂粒を含む	良好	濃青灰色	
41－18	22	36－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高3.3	外面：底部回転ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	0.5～1㎜程度の砂粒を若干含む	良好	灰色	全体の約4／5残存 底部にヘラ記号あり
41－19	22	36－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.4 器高3.5	外面：口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜未満の砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	
41－20	22	36－3 前庭	坏身 （高台付） （須恵器）	口径11.4 器高3.8 高台径8.6	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、回転ナデ	2㎜未満の砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約4／5残存
41－21		36－3 前庭	高坏 （須恵器）	口径12.0 器高 底径	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	0.5～1㎜程度の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	口縁部のみ残存
41－22	22	36－3 玄室	高坏 （須恵器）	口径10.8 器高9.7 底径7.6	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	2㎜前後の砂粒を若干含む	良好	青灰色	透し2方向の線状
41－23	22	36－3 玄室	壺 （須恵器）	口径8.5 器高18.5 底径6.3	外面：口縁部から体部回転ナデ、体部下部底部ヘラケズリ後ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	肩部に自然釉付着
43－1	19	35－1 前庭	甕 （須恵器）	口径22.5 器高57.7	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
43－2	19	35－1 前庭	甕 （須恵器）	口径19.2 器高51.5	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	肩部に自然釉付着
43－3		36－3 前庭	甕 （須恵器）	口径40.4 器高100	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	口縁部、体部、底部は接合しない
60－1		7－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.6 器高4.3	外面：天井部ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
60－2	34	7－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.9 器高4.0	外面：天井部ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
60－3	34	7－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.2	外面：底部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	底部にヘラ記号あり
60－4	34	7－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	底径9.4 器高3.7	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜の砂粒を少し含む	良好	青灰色	外面に自然釉
60－5		7－3 玄室	皿 （磁器）	底径4.0	外面：底部露胎、その他施釉 内面：底部中央から口縁部にかけて施釉、砂目跡、釉かきとり、施釉	密	良好	白色	高台は段になっている
60－6		7－1 玄室	皿 （磁器）	口径11.4 底径3.2 器高4.2	外面：底部から体部露胎、口縁部施釉 内面：底部円形に釉のかきとり、口縁部施釉	密	良好	乳白色	伊万里系磁器 内面にやや緑色を帯びた呉須で文様あり
60－7		7－1 玄室	碗 （磁器）		外面：施釉 内面：施釉	密	良好	緑灰色	高台底部黒茶色になっている
60－8	33	7－1 玄室	坏 （土師器）	口径7.0 底径5.5 器高2.0	外面：底部糸切り その他回転ナデ 内面：回転ナデ	3㎜未満の砂粒を少々含む	良好	淡黄茶色	口縁部に炭付着 （灯明皿?）
60－9	34	大井谷古墳	坏蓋 （須恵器）	口径10.4	外面：回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
60－10	34	大井谷古墳	坏蓋 （須恵器）	口径10.3	外面：回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	良好	青灰色	外部にヘラ記号あり
60－11	33	大井谷古墳	坏身 （須恵器）	口径10.4 器高3.2	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部部ナデ、その他回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
60－12	34	大井谷古墳	壺 （須恵器）	口径13.6 器高31.5	外面：口縁部回転ナデ、その他タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	底部焼成後穿孔
60－13		7支群	坏 （土師器）	底径5.6	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精良	良好	黒褐色	
60－14		7支群	坏 （土師器）	底径5.2	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
60－15		7支群	坏 （土師器）	底径4.6	外面：底部糸切り 内面：風化	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	反転復元
60－16	33	7支群	坏 （土師器）	脚径7.4	外面：底部糸切り 内面：風化	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	赤褐色	
60－17		7支群	坏 （土師器）	底径4.8	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精良	良好	褐色	
60－18		7支群	坏 （土師器）	底径9.2	外面：底部糸切り 内面：風化	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	赤褐色	反転復元
60－19		7支群	坏 （土師器）		外面：風化 内面：風化	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	赤褐色	反転復元
60－20		7支群	坏 （土師器）		外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精良	良好	淡黄褐色	
60－21	33	7支群	壺 （土師器）		外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精良	良好	淡黄褐色	
60－22		7支群	深鉢 （縄文）		外面：風化 内面：風化	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
60－23		7支群	深鉢 （縄文）	底径4.6	外面：風化 内面：風化	1㎜程度の白色砂粒雲母を含む	良好	黄灰色	
60－24		7支群	甕 （土師器）	口径16.0	外面：ヨコナデ、一部ハケ目 内面：ヨコナデ、一部ハケ目	3㎝以下の小石を含む	良好	赤褐色	
60－25		7支群	甕 （土師器）	口径21.4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	2㎜程度の小石を含む	良好	淡赤褐色	
60－26		7支群	甕 （土師器）	口径21.6	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	2㎜程度の小石を含む	良好	褐色	
82－1	62	33－3 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.1 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒砂粒を含む	良好	濃青灰色	外面にヘラ記号あり
82－2	62	33－3 玄室	坏身 （須恵器）	口径8.9 器高4.1	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	青灰色	外面にヘラ記号あり、自然釉付着
82－3	62	33－3 玄室	平瓶 （須恵器）	口径5.2 器高12.2	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、肩部カキ目、口縁部体部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	
82－4	62	33－3 玄室	高坏 （須恵器）	口径8.2 器高8.3 脚径6.0	外面：回転ナデ 内面：ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	線状の透し　1段3方向
82－5		33－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径 器高 脚径6.0	外面：口縁部回転ナデ、その他不明 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜程度の砂粒を含む	良好	黄灰色	外面全体に自然釉付着
82－6	63	33－4 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高3.7	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
82－7	63	33－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.0 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多く含む	良好	青灰色	外面にヘラ記号あり

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
82－8		33－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径13.4 器高	外面：口縁部回転ナデ、その他不明 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰色	反転復元
82－9	63	33－4 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.5 器高3.7	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を含む	良好	青灰色	
82－10	63	33－4 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.2 器高3.9	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白・黒色砂粒を多く含む	良好	青灰色	外面に自然釉付着
82－11	63	33－4 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.8 器高3.9	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
82－12	63	33－4 前庭	提瓶 （須恵器）	口径 器高	外面：ナデ 内面：タタキ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	
82－13	63	33－4 前庭	横瓶 （須恵器）	口径13.0 器高	外面：口縁部から頸部回転ナデ、その他タタキ後カキ目 内面：回転ナデ	所々に1㎜大の砂粒を含む	良好	淡青灰色	底部穿孔
82－14	63	33－4 前庭	平瓶 （須恵器）	口径7.6 器高	外面：口縁部から頸部回転ナデ、肩部カキ目、その他不明 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
82－15	63	33－4 前庭	平瓶 （須恵器）	口径7.4 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部カキ目 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	黄灰色	
82－16	62	33－5 前庭	横瓶 （須恵器）	口径10.2 器高21.8	外面：口縁部から頸部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	片側に円形の穴あり
82－17	62	33－5 玄室	壺 （須恵器）	口径6.0 器高8.8	外面：底部ナデ、その他回転ナデ、縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	白色砂粒を少し含む	良好	淡灰色	頸部にヘラ記号
82－18	62	33－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.2 器高4.1	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
82－19	62	33－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.4 器高4.2	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜大の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
82－20	62	33－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.5 器高3.7	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5～1㎜の黒い粒子を含む	良好	淡灰色	
82－21	62	33－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径13.4 器高3.8	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	
82－22	67	33－8 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.0 器高3.7	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
82－23	67	33－8 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.5 器高3.7	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
82－24	67	33－8 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.0 器高4.0 底径	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
82－25	67	33－8 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.5 器高3.6	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜の白褐色粒子を多く含む	良好	青灰色	
82－26	67	33－8 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高4.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白・灰色砂粒を多く含む	良好	青灰色	外面全体に自然釉（黄褐色）付着
82－27		33－8 玄室	はそう （須恵器）	口径（10.0） 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	灰色	反転復元
83－1	64	33－6 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.8 器高4.5	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
83－2	64	33－6 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4.0	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
83－3	64	33－6 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.1 器高3.7	外面：天井部ヘラケズリ後ナデ、体部一部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
83－4	64	33－6 玄室	坏蓋 （高台付） （須恵器）	口径11.9 器高4.2 高台径6.8	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多く含む	良好	濃青灰色 （やや黄色）	
83－5	64	33－6 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.4 器高4.5	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
83－6	64	33－6 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.6 器高3.5	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
83－7	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.4 器高3.5	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
83－8	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高3.6	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
83－9	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.9 器高4.1	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
83－10	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.7 器高4.0	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	
83－11	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.4 器高4.0	外面：底部ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜のやや大きな白色砂粒を含む	良好	青灰色	
83－12	64	33－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高4.0	外面：底部ヘラ切り後ナデ口、縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	底部外面にヘラ記号
83－13	64	33－6 前庭	提瓶 （須恵器）	口径8.3 器高21.6	外面：カキメ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	焼成後、底部穿穴
83－14	64	33－6 玄室	高坏 （須恵器）	口径10.7 器高14.4 脚径9.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	3方向2段
83－15	64	33－6 前庭	はそう （須恵器）	口径 器高	外面：カキメ、底部ケズリ 体部刺突文 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	
83－16		33－6 玄室・前庭	甕 （須恵器）	口径16.2 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む		灰白色	
84－1	66	33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.2 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5㎜大の黒い粒子を多く含む	良好	灰色	
84－2		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.2 器高4.5	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
84－3	66	33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.9 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5～2㎜大の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
84－4		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.5 器高4.4	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多量に含む	良好	青灰色	外面全体に自然釉付着
84－5		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.8 器高4.05	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
84－6		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.5 器高4.1	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	
84－7	65	33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.3 器高4.3	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	青灰色	
84－8	65	33－7 玄室	坏 蓋 （須恵器）	口径12.9 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
84－9		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.2 器高4.1	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
84－10		33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.1 器高3.5	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
84－11	65	33－7 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.2 器高4.0	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜大の白・黒色砂粒を含む	良好	青灰色	
84－12		33－7 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.7 器高3.9	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	灰色	
84－13	65	33－7 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高4.0	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
84－14	65	33－7 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.5 器高4.1	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	2～3㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
84－15	65	33－7 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径8.6 器高2.9	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、つまみ部回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多く含む	良好	青灰色	
84－16	65	33－7 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.2 器高3.5	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	0.5㎜以下の黒い粒子を多量に含む	良好	濃青灰色	
84－17		33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径12.2 器高11.4 脚径11.4	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段二方向かなりひずんでいる
84－18	66	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径12.0 器高10.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	三角透し、一段二方向
84－19		33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径11.0 器高10.3 脚径11.3	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段二方向
84－20	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径10.6 器高10.4 脚径11.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜前後の白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段二方向
84－21	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径10.9 器高10.4 脚径11.3	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段二方向
84－22	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径11.7 器高9.9 脚径10.7	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	三角透し、一段三方向
84－23	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径10.2 器高10.3 脚径8.6	外面：回転ナデ 内面：自然釉付着のため調整不明	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色 （外面全体に自然釉）	反転復元 二段三方向透し
84－24	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径9.3 器高11.4 脚径6.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色 （自然釉付着）	線上の透し、一段三方向
84－25	65	33－7 玄室	高坏 （須恵器）	口径8.3 器高8.6 脚径7.6	外面：底部ケズリ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	三角透し、一段三方向
84－26		33－7 前庭	壺 （須恵器）		外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元 肩部に自然釉
85－1	65	33－7 玄室・前庭	提瓶 （須恵器）		外面：カキ目 内面：口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡灰色	
85－2	65	33－7 玄室	提瓶 （須恵器）	口径7.0 器高17.8	外面：口縁部回転ナデ、その他カキ目 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
85－3		33－7 前庭	壺 （須恵器）	口径10.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元 二段三方向透し
85－4	65	33－7 玄室	平瓶 （須恵器）	口径7.4 器高15.6	外面：底部ナデ、口縁部から体部下部まで回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
85－5	65	33－7 玄室	壷 （須恵器）	口径7.6 器高17.6 脚径7.0	外面：底部回転ナデ、口縁部から肩部回転ナデ、その他ヘラケズリ後回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部青海波文タタキ	1～2㎜の白色砂砂粒を多く含む	良好	灰色	
85－6	66	33－7 玄室	高坏 （土師器）	口径17.0 器高13.8 脚径12.2	外面：脚部の一部回転ナデ、その他ハケ目 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	外面に朱色顔料
85－7	66	33－7 玄室	高坏 （土師器）	口径(16.5) 器高13.7 脚径12.5	外面：脚部の一部ケズリ後ヨコナデ、その他ヨコナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄褐色	外面に朱色顔料
85－8		33－7 玄室	高坏 （土師器）	口径15.4 器高12.7 脚径12.2	外面：脚部の一部回転ナデ後クシ目、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
85－9	65	33－7 玄室	高坏 （土師器）	口径15.5 器高12.5 脚径11.8	外面：脚部の一部回転ナデ後クシ目、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
85－10	65	33－7 玄室	高坏 （土師器）	口径16.0 器高12.0 脚径15.5	外面：口縁部回転ナデ、その他ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
88－1	67	三田谷2号墳	甕 （須恵器）	口径45.0 器高109.6	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88－2	67	三田谷2号墳	甕 （須恵器）	口径21.0	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1㎜程度の白色砂粒を含む	やや不良	淡灰色	底部穿孔
88－3		三田谷2号墳	甕 （須恵器）		外面：体部タタキ 内面：体部タタキ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88－4	67	33－7 前庭	甕 （須恵器）	口径19.1 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88－5		33－7 前庭	甕 （須恵器）	口径50.4 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	
90－1	68	ＳＸ０１	坏蓋 （須恵器）	口径12.8 器高4.4	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜大の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
90－2	68	ＳＸ０１	坏蓋 （須恵器）	口径13.0 器高3.7	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5～2㎜大の白色砂粒を多く含む	良好	淡灰色	軟質
90－3	68	ＳＸ０１	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高4.3	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
90－4	68	ＳＸ０１	坏身 （須恵器）	口径11.6 器高4.6	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜前後の白色砂粒を多く含む	良好	(外)黄灰色 (内)濃青灰色	
90－5	68	ＳＸ０１	壷 （須恵器）	口径7.6 器高10.5	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	外面の一部に自然釉付着
90－6	68	ＳＸ０１	はそう （須恵器）	口径12.0 器高12.0	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、体部の一部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	微少の白色砂粒を少量含む	良好	青灰色	全体の約1／2残存
99－1		三田谷2号墳	坏蓋 （須恵器）	口径14.4 器高3.7	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	青灰色	
99－2		三田谷2号墳	坏蓋 （須恵器）	口径13.8 器高3.65	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	きめ細かい	良好	青灰色	
99－3		三田谷2号墳	坏蓋 （須恵器）	口径11.9 器高4.2	外面：天井部丁寧なヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
99－4	69	三田谷2号墳	坏蓋 （須恵器）	口径12.9 器高4.1	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	反転復元
99－5		三田谷2号墳	坏蓋 （須恵器）	口径13.0 器高3.3	外面：天井部ヘラケズリ後板目ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒色粒子を多く含む	良好	濃青灰色	坏身の可能性あり

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
99－6	69	三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径12.5 器高4.0	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部、口縁部回転ナデ	きめ細かい	良好	淡黄灰色	
99－7	69	三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径13.1 器高4.8	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
99－8	69	三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径12.5 器高3.5	外面：天井部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
99－9		三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径11.8 器高3.8	外面：天井部丁寧なヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
99－10	69	三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径12.4 器高	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多量に含む	良好	黄灰色	反転復元
99－11		三田谷２号墳	坏蓋（須恵器）	口径11.9 器高3.9	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多量に含む	良好	黄灰色	反転復元
99－12		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径13.2 器高3.6	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	反転復元
99－13	69	三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径14.8 器高3.8	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	きめ細かい	良好	青灰色	
99－14		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.4 器高3.5	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を少量含む	良好	黄灰色	反転復元
99－15		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.7 器高4.3	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多量に含む	良好	濃青灰色	
99－16		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.4 器高4.3	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多量に含む	良好	淡黄灰色	
99－17	69	三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径14.2 器高3.3	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	きめ細かい	良好	淡黄灰色	
99－18		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.5 器高4.1	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多量に含む	良好	黄灰色	
99－19	69	三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.2 器高3.7	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多量に含む	良好	黄灰色	
99－20		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.1 器高4.3	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	青灰色	
99－21	69	三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径10.7 器高3.2	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	青灰色	
99－22		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.0 器高4.0	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	
99－23		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径10.9 器高4.2	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	黄灰色	反転復元
99－24		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径10.6 器高3.8	外面：底部荒いヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を少量含む	良好	青灰色	
99－25		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径10.7 器高4.0	外面：底部ヘラ切り後ナデ口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	黄灰色	坏蓋の可能性あり
99－26	69	三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径(12.2) 器高	外面：回転ナデ（底部は板状工具による押さえ） 内面：回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多量に含む	良好	青灰色	外面にヘラ記号あり 反転復元
99－27		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径12.6 器高4.1	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の黒い粒子を多量に含む	良好	濃黄灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
99－28		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径10.7 器高3.6	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を含む	良好	黄灰色	外面に自然釉付着
99－29		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.5 器高3.4	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	黄灰色	反転復元
99－30		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.3 器高3.3	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	黄灰色	
99－31		三田谷２号墳	坏身（須恵器）	口径11.4 器高4.1	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白・黒色砂粒を多量に含む	良好	青灰色	
100－１		三田谷２号墳	壷（須恵器）	口径 器高	外面：底部ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	白色砂粒を少し含む	良好	紫灰色	反転復元
100－２		三田谷２号墳	壷（須恵器）	口径10.0 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	濃灰色	反転復元
100－３		三田谷２号墳	高坏（須恵器）	口径 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	(外)青灰色 (内)濃青灰色	3方向透し 反転復元
100－４	69	三田谷２号墳	高坏（須恵器）	口径 器高	外面：坏部回転ナデ 内面：ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	3方向透し 反転復元
100－５		三田谷２号墳	提瓶（須恵器）	口径12.0 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色・黒色砂粒を含む	良好	黄灰色	全面に自然釉付着 反転復元
100－６		三田谷２号墳	甕（土師器）		外面：ハケメ 内面：風化	1～3㎜程度の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
100－７	69	三田谷２号墳	高坏（土師器）		外面：ナデ 内面：ナデ、脚部ケズリのちナデ	1～3㎜程度の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
100－８		三田谷２号墳	高坏（土師器）		外面：ナデ 内面：ナデ	1～3㎜程度の白色砂粒を含む	良好	明黄褐色	
100－９		三田谷２号墳	高坏（土師器）		外面：ナデ 内面：ナデ、脚部ケズリのちナデ	1～3㎜程度の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
100－10	69	三田谷２号墳	高坏（土師器）		外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
106－１	70	ＳＫ０１	坏身（土師器）	口径13.2 器高4.7	外面：底部糸切り、その他回転ナデ 内面：底部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	淡黄褐色	
106－２	70	ＳＫ０１	坏身（土師器）	口径13.0 器高3.9 底径6.6	外面：底部回転糸切り、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄褐色	反転復元
106－３	70	ＳＫ０１	小碗（青磁）	口径11.0 器高4.4 高台径3.8	外面：体部ナデ、底部ケズリ 内面：ナデ	密	良好	淡緑青色	
106－５	70	33支群	坏身（須恵器）	口径12.6 器高4.1	外面：底部糸切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
106－６		33支群	こね鉢（瓦質）		外面：ナデ 内面：ハケメ	密	良好	暗灰色	
106－７		33支群	壺（須恵器）	口径9.4 器高 底径	外面：口縁部から肩部回転ナデ、その他不明 内面：口縁部から肩部回転ナデ、その他不明	密	良好	黄灰色	反転復元

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
113－1		12－1 玄室	甕片 （須恵器）		外面：タタキ 内面：タタキ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	
113－2		12－1 玄室	甕片 （須恵器）		外面：タタキ 内面：タタキ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	
113－3	138	12－2 玄室	壷 （須恵器）	口径7.8 器高19.2	外面：口縁部から頭部回転ナデ、肩部カキメ体部回転ナデ及びカキメ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	内面にヘラ記号あり
113－4	138	12－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.9 器高3.9	外面：天井部ヘラ切りナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	内面にヘラ記号あり
113－5	138	12－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.6 器高4.1	外面：天井部ヘラ切りナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	内面に竹管状刺突文あり
113－6	138	12－2 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.4 器高3.9	外面：つまみ部口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	内面にヘラ記号あり
113－7	138	12－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高3.5	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	内面にヘラ記号あり
113－8	138	12－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.5	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	外面底部に竹管状刺突文
113－9	138	12－2 玄室	坏身 （高台付） （須恵器）	口径12.4 器高4.8 高台径6.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元
166－1	139	22－2 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高3.5	外面：口縁部回転ナデ 天井部ヘラケズリ後回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	完形
166－2	139	22－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.5 器高12.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.0～1.5㎜大の白い砂粒を含む	良好	濃青灰色	
166－3	139	22－2 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高3.4	底部外面：回転ヘラケズリ後回転ナデ 底部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜程度の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	残存1／2以上
166－4	139	22－2 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高3.1	底部外面：ヘラ削り後回転ナデ 底部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を少量含む	良好	青灰色	残存1／2以下 反転復元
166－5		22－2 前庭	坏身 （須恵器）	口径(9.3) 器高	その他：回転ナデ	微砂粒を含む	良好	灰色	小片 反転復元
166－6		22－2 前庭	壷 （須恵器）	口径 器高	その他：回転ナデ	密、白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	
166－7	139	22－2 前庭	坏 （土師器）	口径14.6 器高4.8	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ	2㎜程度の砂粒を微量に含む	良好	赤褐色	反転復元
166－8	140	22－3 前庭・玄室	碗 （須恵器）	口径11.0 器高	外面：底部ヘラケズリ後回転ナデ その他回転ナデ 内面：回転ナデ	1～5㎜程度の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	ほぼ完形 天井部外面にヘラ記号
166－9	140	22－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.0 器高4.1	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	残存1／2以上
166－10	140	22－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.8 器高3.6	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ	1㎜大の砂粒 1～2㎜大の砂粒を含む	良好	黄灰色	1／2以下 反転復元
166－11	140	22－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径(9.0) 器高	天井部外面：不明 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色微砂粒を含む	良好	黒灰色	外面に自然釉付着
166－12	140	22－3 前庭	蓋 （須恵器）	口径7.5 器高2.7	外面：不明 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	
166－13	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.2 器高4.2	外面：底部ヘラ切後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	2㎜程の白色砂粒を含む	良好	灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
166－14	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.3 器高3.9	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	
166－15	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒黒い粒子を含む	良好	青灰色	完形
166－16	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.9 器高3.6	底部外面：回転ヘラ削り後ナデ 底部内面：回転ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
166－17	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.9 器高4.5 高台径7.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5～1㎜大の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	1／2以上 反転復元
166－18	140	22－3 前庭	坏身 （須恵器）	高台径11.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
166－19	140	22－3 前庭	平瓶 （須恵器）	口径9.2 器高15.6	底部外面：回転ヘラ削り 底部内面：ナデ その他：カキ目、下方はカキ目後一部ナデ	白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	1／2以下
166－20	140	22－3 前庭	壺 （須恵器）	口径 器高	底部外面：回転ヘラ削り その他：回転ナデ	密、白色砂粒を若干含む	良好	黄灰色	1／2以上 底面にヘラ記号あり
166－21	140	22－3 前庭	はそう （須恵器）	口径11.4 器高13.7	外面：底部ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	反転復元
166－22	140	22－3 玄室	坏 （土師器）	口径18.0 器高4.8	底部外面：糸切り 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	淡黄灰色	完形 底部に穴が開いている
166－23		22－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.4	外面：ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜以下の白色砂粒を若干含む	良好	黄白色	反転復元
166－24	140	22－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径11.0 器高4.2	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	
166－25	140	22－4 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.3	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
166－26		22－4 前庭	坏身 （須恵器）	口径 器高	回転ナデ	密、白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	小片
166－27		22－4 前庭	壺 （須恵器）	口径(7.6) 器高	回転ナデ	密	良好	濃灰色	小片 全面に自然釉 反転復元
166－28		22－4 前庭	高坏 （須恵器）	脚径11.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	反転復元 外面に自然釉付着
167－1	141	22－3 前庭	甕 （須恵器）	口径21.6 器高55.4	外面：口縁部回転ナデ、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	5㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以上 底部穿孔
167－2	141	22－3 前庭	甕 （須恵器）	口径18.0	外面：口縁部回転ナデ、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	1／2以上 反転復元、外面肩部に自然釉付着
167－3	141	22－2、3 前庭	甕 （須恵器）	口径46.0	外面：肩部平行タタキ、その他回転ナデ 内面：肩部タタキ、その他回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
167－4		22－2、3 前庭	甕 （須恵器）	口径	外面：体部平行タタキ、その他回転ナデ 内面：体部タタキ、その他回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下
167－5		22－2、3 前庭	横瓶 （須恵器）	口径11.6	外面：口縁部・肩部回転ナデ、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	白色砂粒を若干含む	良好	灰色	反転復元 外面肩部に自然釉付着
167－6		22－2 前庭、玄室	甕 （須恵器）	口径19.8	外面：口縁部回転ナデ、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	1～3㎜の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	1／2以下 反転復元

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
168－1	141	22－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.4 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元 内面にヘラ記号あり
168－2		22－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径13.6	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	小片 反転復元
168－3		22－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	小片 反転復元
168－4		22－5 前庭	坏身 （須恵器）	口径(12.6) 器高3.5	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	黄灰色	1／2以下 反転復元
168－5		22－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径11.0	外面：口縁部回転ナデ、その他ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	小片 反転復元
168－6		22－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	小片 反転復元
168－7	141	22－5 前庭	壺 （須恵器）		外面：口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ 内面：回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
168－8		22－6 前庭	高坏 （須恵器）	口径13.2 器高	回転ナデ	砂粒を少し含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
168－9		22－6 前庭	坏身 （須恵器）	口径11.0 器高(3.75)	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	黄灰色	1／2以下 反転復元
168－10	141	22－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.7 最大径12.7 器高3.7	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168－11		22－6 前庭	壺 （須恵器）	口径 器高	底部内面：回転ナデ 底部外面：回転ヘラケズリ	砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以下
168－12		22－6 前庭	壺 （須恵器）	口径12.8 器高	回転ナデ	密	良好	黄灰色	小片 反転復元
168－13	141	22－7 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径11.6 器高4.3	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	完形
168－14	142	22－7 前庭・玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.8 器高3.8	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	1／2以上 反転復元 外面天井部にヘラ記号あり
168－15	142	22－7 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径11.4 器高4.5	天井部内外面：ナデ その他：回転ナデ	0.5～1㎜の砂粒を含む	良好	灰色	ほぼ完形
168－16	142	22－7 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.3 器高(3.6)	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	1／2以上 外面に自然釉付着
168－17	142	22－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高4.0	外面：底部ヘラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	完形 外面底部にヘラ記号あり
168－18	142	22－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.4 最大径12.8 器高4.2	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	完形 底部外面にヘラ記号あり
168－19	142	22－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.3 器高4.1	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜の白色・黒色粒子を多く含む	良好	灰色	1／2以上
168－20	142	22－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.2 器高4.2	外面：底部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を若干含む	良好	黄灰色	1／2以上
168－21	142	22－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高4.0	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	外面は灰色 内面は青灰色	完形 外面に自然釉付着
168－22	142	22－7 前庭・玄室	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高7.9 脚径6.4	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	1／2以上 反転復元 3方向1段透

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
168－23	142	22－7 前庭	平瓶 （須恵器）	口径6.2 器高	回転ナデ、カキ目	密	良好	青灰色	小片 反転復元
168－24	142	22－7 前庭	壷 （須恵器）	口径 器高	底部外面、その他：回転ヘラ削り	微小の白色砂粒を含む	良好	灰色	小片
168－25	142	22－8 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径7.0 最大径9.6 器高3.1	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ヘラ削り	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	青灰色	完形 外面にヘラ記号あり
168－26	142	22－8 前庭	坏身 （須恵器）	口径11.8 器高2.8	底部外面：ヘラ削り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	青灰色	1／2以上
168－27	142	22－8 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.4 器高3.3	底部外面：ヘラ削り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168－28	142	22－8 前庭	坏身 （土師器）	口径9.5 器高2.9	底部外面：ナデor指押圧 底部内面：不明 その他：ミガキ	精良	良好	橙色	
168－29	142	22－8 前庭	高坏 （須恵器）	口径 脚径 器高	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	濃青灰色	一方向の台形透し 脚部側面に自然釉付着
168－30	142	22－8 前庭	高坏 （須恵器）	口径9.2 脚径6.8 器高8.0	底部内面：ナデ その他：回転ナデ、沈線あり	1㎜度の白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
168－31	143	22－11 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.5 最大径13.6 器高3.1	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.0～1.5㎜大の白色・黒色砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168－32	143	22－11 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.2 最大径13.3 器高3.4	天井部外面：回転ヘラ切り後丁寧なナデ、天井部内面：静止ナデ、その他：回転ナデ	1㎜大の黒色砂粒を含む	良好	灰色	完形 口縁にゆがみあり
168－33	143	22－11 玄室	高坏 （須恵器）	口径12.7 高台径8.7 器高4.7	底部内外面：静止ナデ その他：回転ナデ	1㎜大白色砂粒、0.5～2㎜大の黒色砂粒を含む	良好	灰色	
168－34		22－13 前庭	坏身 （須恵器）	口径（10.6） 器高	回転ナデ	0.5～1㎜大の黒色砂粒を含む	良好	淡灰色	小片
168－35		22－13 前庭	高坏 （須恵器）	口径10.2 器高	底部内面：ナデ 底部外面その他：回転ナデ	0.5～1㎜大の黒色粒子を含む	良好	青灰色	残存1／2以下
169－1	143	22－9 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.4 器高3.7	天井部内外面：静止ナデ その他：回転ナデ	1～3㎜大の黒い粒子を含む	良好	濃茶褐色	ほぼ完形 外側にヘラ記号あり
169－2	143	22－9 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.0 器高4.3	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	濃青灰色	完形
169－3	143	22－9 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 最大径11.9 器高3.8	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰白色	完形
169－4	143	22－9 玄室	坏身 （須恵器）	口径9.6 最大径11.6 器高3.3	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色粒子を少し含む	良好	青灰色	
169－5		22－9 前庭	高坏 （須恵器）	口径（8.0）	回転ナデ 沈線あり	密	良好	濃青灰色	小片 反転復元
169－6	143	22－9 前庭	高坏 （須恵器）	口径 器高	底部内面：ナデ その他回転ナデ	密 すかすか	良好	濃青灰色	反転復元
169－7	143	22－9 前庭	高坏 （須恵器）	脚径7.2	回転ナデ	密	良好	濃青灰色	反転復元
169－8	143	22－9 玄室	はそう （須恵器）	口径9.2	回転ナデ	白色砂粒を多く含む 空気のすき間多い	良好	青灰色	反転復元
169－9	143	22－9 前庭	壷 （須恵器）	口径15.0 器高24.7	内側：タタキ 外側：タタキ後カキ目 口縁：回転ナデ	砂粒を若干含む	良好	青灰色	完形

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
169－10	144	22－14 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径11.0 器高4.1	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2~3㎜の砂粒を含む、1㎜以下の黒い粒子を多く含む	良好	青灰色	完形、外面の一部に自然釉、天井部外面にヘラ木号あり
169－11	144	22－14 玄室	高坏 （須恵器）	口径8.5 器高8.8 脚径6.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元 3方向1段透し
169－12	144	22－14 玄室	壷 （須恵器）	口径5.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	反転復元
169－13	144	22－15 玄室	坏身 （須恵器）	口径8.6 器高3.2	外面：底部ナデ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	
169－14	144	22－15 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.7 器高3.45	外面：つまみ部・口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
169－15	144	22－17 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径（10.2） 器高（3.8）	外面：天井部ヘラ切後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	反転復元
169－16		22－17 前庭	坏蓋 （須恵器）		外面：回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ 内面口：縁部回転ナデ、その他ナデ	1㎜以下の白色砂粒が若干含む	良好	黄灰色	反転復元
169－17		22－17 前庭	坏身 （須恵器）	口径（10.4） 器高（4.0）	外面：底部ヘラケズリ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1～5㎜の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
169－18	146	22－18 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径9.6 器高3.2 最大径11.3	天井部外面：回転ヘラ削り後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ヘラ削り	1~2㎜大の黒色砂粒、0.5~1㎜大の白色砂粒を含む	良好	灰色	完形 内面に7.5㎝の円形重ね焼き痕あり
169－19	146	22－18 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.6 器高2.8 最大径13.2	天井部外面：回転ヘラ削り後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜大の砂粒を含む	良好	暗灰色 （一部淡褐色帯びる）	完形、内面に径7.5㎝の円形の重ね焼き痕あり、同時期の高台の径と対応する
169－20	146	22－18 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.8 器高2.6 最大径13.4	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を少量含む	良好	青灰色	完形
169－21	146	22－18 玄室	蓋坏 （須恵器）	口径10.9 器高2.3	天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を少量含む	良好	紫色	完形 外面は全面に自然釉付着
169－22	146	22－18 玄室	坏身 （須恵器）	口径12.6 器高4.6 高台径7.7	底部外面：ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	紫色	ほぼ完形
169－23	146	22－18 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.8 器高3.9 高台径7.0	底部外面：ナデ 底部内面：回転ナデ その他：回転ナデ	1~2㎜大の砂粒を含む、1㎜大の黒色粒子を含む	良好	灰色	完形
169－24	146	22－18 玄室	坏身 （須恵器）	口径12.3 高台径7.8 器高4.9	底部外面：回転ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	暗灰色	完形
169－25		22－18 玄室	坏身 （須恵器）	口径12.0	外面：不明 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元 外面に自然釉付着
169－26	146	22－18 玄室	壷 （須恵器）	口径9.0 器高18.8 脚径7.7	底部外面：回転ナデ その他：削り後回転ナデ 外面体部カキ目、回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	完形、一部に自然釉付着、片部にタール状付着物あり
169－27	146	22－18 玄室	高坏 （須恵器）	口径16.7 脚径10.8 器高11.1	底部内面：ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ヘラ削り	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	青灰色	完形 外面にヘラ記号あり
169－28	146	22－18 玄室	高坏 （須恵器）	口径17.5 脚径12.6 器高14.0	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	完形 沈線あり 2方向2段透し
170－1	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.0 器高3.6	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	完形
170－2		22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.6 器高3.9	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を少量含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元
170－3	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.4 最大径10.8 器高2.7	天井部外面：ヘラ削り後回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：ヘラ削りナデ、回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
170－ 4		22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.8	外面：口縁部回転ナデ、その他ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
170－ 5		22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.4	外面：口縁部回転ナデ、その他ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	密	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
170－ 6	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径8.3 最大径10.5 器高2.7	天井部外面：削り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色、黒色砂粒を少し含む	良好	青灰色	内面にヘラ記号あり
170－ 7	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.3 器高2.8	天井部外面：ヘラ削り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元
170－ 8	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径11.6 器高2.8 最大径14.0	天像部外面：回転ヘラ削り後回転ナデ、天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	砂粒を含む	良好	灰色	完形
170－ 9	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径(10.6) 器高	天井部外面：回転ヘラ削り後回転ナデ、天井部内面：ナデ、 その他：回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元
170－10	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径14.2 最大径17.0 器高3.2	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	暗灰色	天井部外面に竹管文あり
170－11	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.9 器高3.8	天井部外面：回転ナデ、回転ヘラ削り後回転ナデ、天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
170－12		22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径(16.0) 器高	その他：回転ナデ	白色微砂粒を含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元
170－13	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径15.3 器高2.5	天井部外面：回転ナデ、ヘラ削り後ナデ、天井部内面：ナデ、その他：回転ナデ	1～3㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	残存1／2以上
170－14	145	22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径13.4 器高2.6	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ、ヘラ削り後ナデ	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	濃灰色	1/2以上、外側と内側の一部に自然釉付着、内面に径7.5㎝位の重ね焼きの跡あり
170－15		22－16 前庭	坏蓋 （須恵器）		外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ナデ、その他ヘラケズリ後回転ナデ、内面：回転ナデ	密	良好	灰色	小片 反転復元
170－16	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径8.9 器高4.5	底部内外面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	灰色	ほぼ完形
170－17		22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高3.4	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
170－18		22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.5 器高3.3	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	外：灰色 内：淡紫灰色	1／2以上 反転復元
170－19	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高3.6	外面：底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	1／2以上
170－20	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.0 器高3.2	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元
170－21	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.6 高台径4.7 器高4.7	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以上 反転復元
170－22	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	高台径7.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ（使用痕）口縁部回転ナデ	1㎜以下の白黒色砂粒を含む	良好	濃青灰色	1／2以下 反転復元 外面に自然釉付着
170－23	145	22－16 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.7 器高4.9 高台径7.2	外面：口縁部回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	
170－24	145	22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径8.6 器高5.0 脚径6.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	1／2以上 反転復元 2方向1段透し
170－25		22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径8.6 器高5.0 脚径4.7	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	1／2以上

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
170－26	145	22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径8.5 器高5.2 脚径4.6	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	1／2以上
170－27	145	22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径10.1	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜程の白色砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	1／2以上 2方向透し
170－28		22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径 器高 脚径8.0	回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
170－29	145	22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径8.6 器高8.4 脚径6.2	回転ナデ 底部内面：ナデ	白色砂粒を少し含む	良好	灰色	1／2以上 反転復元
170－30		22－16 前庭	高坏 （須恵器）	口径（16.0）	底部内面：静止ナデ その他：回転：ナデ	0.5～1㎜大の白色砂粒を含む	良好	暗青灰色	1／2以下 反転復元
170－31	145	22－16 前庭	高坏 （須恵器）		外面：回転ナデ 内面：脚部回転ナデ、その他ナデ	1㎜程度の白色砂粒を含む	良好	灰色	1／2以下 2方向透し
170－32		22－16 前庭	壷 （須恵器）	口径（8.8） 器高	内外面：回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
170－33	145	22－16 前庭	壷 （須恵器）	口径（8.6） 器高18.2	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、その他カキ目後ケズリ・ナデ 内面：回転ナデ	1～2㎜の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	1／2以上 外面底部に他個体の破片が付着 外面肩部・内面底部に自然物付着
170－34		22－16 前庭	壷 （須恵器）	口径 器高	底部外面：回転ヘラ削り 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
170－35		22－19 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.0 器高4.0	外面：天井部ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1～2㎜程の白色砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
170－36	144	22－19 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径9.4 器高2.7	外面：天井部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
170－37		22－19 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径13.4	外面：口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	反転復元
170－38		22－19 前庭	坏身 （須恵器）	口径10.0 器高3.6	外面：底部ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元
170－39		22－21 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰黄色	ヘラ記号あり
170－40		22－21 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の白色砂粒を多く含む	良好	淡灰黄色	完形 天井部外面にヘラ記号あり
170－41		22－21 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4.7	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	ほぼ完形 天井部外面にヘラ記号
170－42	144	22－21 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4.0	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	完形 天井部外面にヘラ記号
194－1	150	23－1 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4.2	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	完形 天井部外面にヘラ記号あり
194－2	150	23－1 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5～1㎜大の白色砂粒を含む	良好	灰色	反転復元 1／2以上
194－3		23－1 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.0 器高	回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	反転復元
194－4	150	23－1 玄室	高坏 （須恵器）	口径15.1 器高9.5 脚径9.0	底部外面：回転ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を含む	やや不良	黄灰色	完形 2方向1段
194－5	150	23－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径13.5 器高	天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	1／2以下

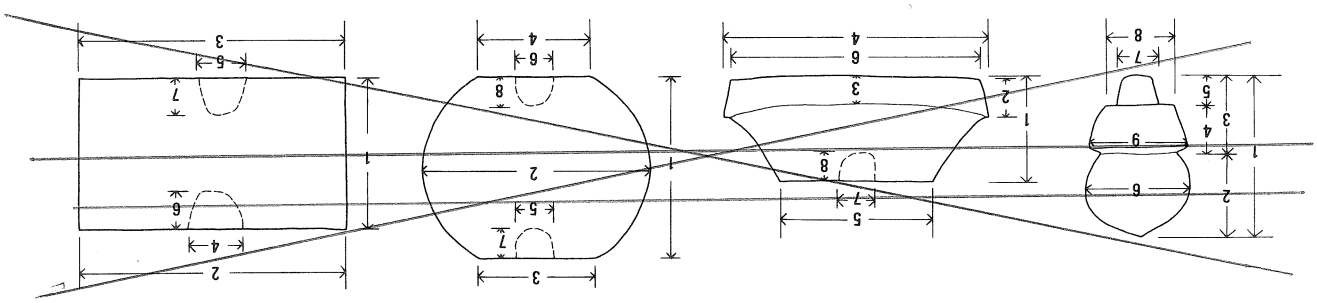
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
194－6	150	23－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径9.4 器高	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	濃青灰色	1／2以下 2方向の線状透し
194－7	150	23－1 前庭	高坏 （須恵器）	口径10.5 器高	底部内面：ナデ その他：回転ナデ、1条の沈線あり	0.5～1㎜大の黒色砂粒を含む	良好	黄灰色	全体の1／2以下 透し2段3方向 反転復元
194－8	150	23－1 前庭	高坏 （土師器）	口径13.2 器高	その他：回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	小片 反転復元
194－9	150	23－1 玄室	坏 （土師器）	口径 器高 底径7.0	底部外面：糸切り その他：回転ナデ	少し白色砂粒を含む	良好	淡赤褐色	小片 底部外面にわずかな段あり
194－10		23－2 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径（12.6） 器高	回転ナデ	密	良好	灰色	小片 反転復元
194－11		23－2・3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.8 器高3.1	天井部外面：回転ヘラケズリのちナデ、天井部内面ナデ、その他回転ナデ	1～1.5㎜大の砂粒を含む	良好	黄灰色	1／2以下 反転復元
194－12		23－2 玄室	坏 （土師器）	口径 器高	底部内面：回転ナデ 底部外面：ナデ	精良	良好	全面赤彩	小片
194－13		23－2 前庭	坏身 （須恵器）	口径（11.4） 器高	回転ナデ	密	良好	灰色	小片 反転復元
194－14	151	23－2 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.4 器高4.7 高台径6.6	底部外面：ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以上残存
194－15		23－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径10.6 器高	天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5～1㎜大の黒色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 口縁部は重ね焼きのため暗黄灰色
194－16	150	23－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径12.0 器高3.3	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ、その他回転ヘラ削り後回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以上残存 外面に自然釉付着
194－17	150	23－3 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径14.7 器高3.8	天井部内面：内面 天井部外面、その他：回転ケズリ後回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	淡白色	完形
194－18	150	23－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径12.6 器高6 高台形7.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ、 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外部　青灰色 内部　灰色	ほぼ完形
194－19	150	23－3 前庭	坏身 （須恵器）	口径13.1 器高5.4 高台形8.6	底部外面：ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	淡灰色	完形
194－20	150	23－3 前庭	高坏 （須恵器）	口径17.6 器高	その他：回転ナデ	砂粒を少し含む	やや不良	青灰色 （やや黄色）	全体の約1／2以下
194－21	150	23－3 前庭	壷 （須恵器）	口径7.4 器高19.1	底部外面：回転ヘラケズリ後回転ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色、外側に黄褐色の自然釉	完形 外面に自然釉付着
194－22	150	23－3 前庭	壷 （須恵器）	口径8.4 器高20.7 脚径7.7	底部外面：ヘラケズリ後ナデ その他：回転ナデ	1～2㎜大の砂粒を含む	良好	青灰色	完形
194－23	150	23－3 前庭	坏 （土師器）	口径9.2 器高3.45	全面風化のため調整不明	白色砂粒を多く含む	良好	橙色	もとは赤彩とされていたと思われる
194－24	151	23－4 前庭	坏蓋 （須恵器）	口径11.2 器高4.0	天井部外面：ヘラ切り後ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	灰色	
194－25	151	23－4 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径10.3 器高3.7	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	砂粒を含む	良好	暗灰色	完形
194－26	151	23－4・5 前庭	坏身 （須恵器）	口径9.1 器高3.5	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5～1㎜大の砂粒を多く含む	良好	青灰色	1／2以上
194－27	151	23－4	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高3.7	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ	1～2㎜大の砂粒を少々含む	良好	青灰色	完形

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
195－1	152	23－5 玄室	蓋 （須恵器）	口径12.5 器高4.4	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜大の黒い粒子を少量含む	良好	淡灰色	完形 天井部外面にヘラ記号あり
195－2	152	23－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好 （一部黒光り）	暗青灰色	完形
195－3	152	23－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径10.6 器高4.3 最大径11.1	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色 （一部黒変あり）	完形
195－4		23－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径 器高	底部外面：ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	残存1／2以下 反転復元
195－5	152	23－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.9 器高3.0 最大径15	天井部外面：ヘラケズリのちナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜程の砂粒を少し含む	良好	黄灰色	完形 天井部内面にヘラ記号あり
195－6	152	23－5 玄室	坏蓋 （須恵器）	口径12.2 器高2.8 最大径15	天井部外面：ヘラケズリのちナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1～3㎜の黒い粒子を多く含む	良好	灰色	ほぼ完形天井部内面にヘラ記号あり
195－7	152	23－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径13.7 器高 高台径7.3	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色 （黄味おびる）	完形 底部内面にヘラ記号あり
195－8	152	23－5 玄室	坏身 （須恵器）	口径14.0 器高5.2 高台径8.3	底部外面：ヘラ切り後回転ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	完形 底部内面にヘラ記号あり
195－9		23－6 玄室	坏身 （須恵器）	口径 器高	その他：回転ナデ	白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	小片
195－10		23－7 前庭	坏身 （須恵器）	口径 器高	その他：回転ナデ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	小片
195－11	152	23－7 前庭	高坏 （土師器）	口径 器高	底部外面：ケズリ 底部内面：ナデ その他：ナデ	砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	外面は全面赤彩
165－1		22－3 玄室	坏 （土師器）	口径8.0 器高1.95 底径3.6	外面：底部糸切り、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	精良	良好	黄褐色	
165－2		22－3 玄室	坏 （土師器）	口径8.4 器高1.7 底径4.8	外面：底部糸切り、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	精良	良好	淡黄褐色	
207－1	152	22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径11.4 器高3.9	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5～1㎜大の砂粒を少量含む	良好	淡灰色	外面にヘラ記号あり
207－2		22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径13.0 器高4.4	天井部外面：ヘラ削り 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	1／2以上
207－3		22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径12.6 器高4.0	天井部外面：ヘラ削り 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少含む	良好	灰白色	1／2以上 反転復元
207－4	152	22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径13.4 器高4.0	外面：天井部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
207－5		22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径10.4 器高3.9	外面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
207－6	152	22・23 谷	坏蓋 （須恵器）	口径11.0 器高2.2	外面：つまみ部口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
207－7		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.4 器高3.9	底部外面：ヘラ削り 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	1／2以下
207－8		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.0 器高3.9	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
207－9		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径 器高	外面：口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元

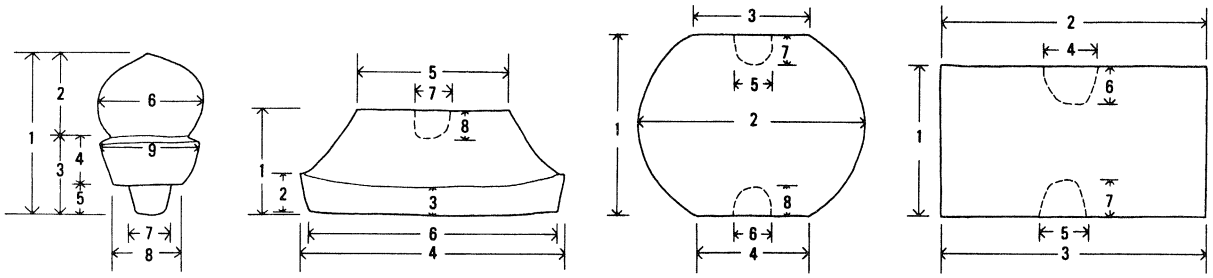
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
207－10		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.0 器高3.7	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	暗青灰色	
207－11	152	22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径10.8 器高3.8	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	
207－12		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.6 器高4.0	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1～2㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
207－13		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径9.6 器高3.5	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
207－14		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.4 器高3.1	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	良好	青灰色	反転復元
207－15		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径11.4 器高3.5	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰色	反転復元
207－16		22・23 谷	坏身 （須恵器）	口径10.4 器高3.8	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	黄灰色	底部にヘラ記号あり
207－17		22・23 谷	壷 （須恵器）	口径 脚径7.0 現高10.8	外面：回転ナデ 内面：脚部回転ナデ 底部ナデ	1～2㎜程度の砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
207－18		22・23 谷	高坏 （須恵器）	口径 器高 現高10.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1～2㎜程度の砂粒を含む	良好	濃青灰色	1／2以下 外面脚部に自然釉付着 2段2方向の透し
207－19		22・23 谷	高坏 （須恵器）	口径 器高 現高(6.3)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	1～2㎜程度の砂粒を含む	良好	灰色	1／2以上 2方向透し
207－20		22・23 谷	高坏 （須恵器）	脚径7	底部外面：回転ナデ 底部内面：ナデ後回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	1／2以下 反転復元
207－21		22・23 谷	高坏 （須恵器）	脚径10.6	その他：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	小片
207－22		22・23 谷	高坏 （須恵器）	脚径12.4	その他：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	小片 反転復元
207－23		22・23 谷	壷 （須恵器）	現高12.8 底径6.2	外面：頸部カキ目後回転ナデ、胴部カキ目底部カキ目後ヘラケズリ後ナデ 内面：ナデ	1～5㎜程度の砂粒を含む	良好	灰褐色	1／2以下
207－24		22・23 谷	壷 （須恵器）		底部外面：ヘラ削り 底部内面：回転ナデ その他：回転ナデ	0.5～2㎜程度砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	底部にヘラ記号あり
207－25		22・23 谷	壷 （須恵器）	現高5.0 底径4.8	外面：底部回転ヘラケズリ後ナデ、胴部カキ目 内面：ナデ	1㎜程度の砂粒を含む	良好	灰褐色	1／2以下 内面底部に自然釉付着
207－26		22・23 谷	壷 （須恵器）		底部外面：ヘラ削り後ナデ 底部内面：回転ナデ その他：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元 底部内面・肩部に自然釉
208－1	155	22・23 谷	壷 （須恵器）	口径(13.0)	その他：回転ナデ	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	小片 反転復元
208－2	155	22・23 谷	壷 （須恵器）	口径6.4	その他：回転ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元
208－3		22・23 谷	壷 （須恵器）	口径 器高	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、その他回転ナデ 内面：回転ナデ	2～3㎜の白色砂粒を含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元 内面底部、外面に自然釉付着
208－4	155	22・23 谷	横瓶 （須恵器）	口径7.6	外面：口縁部回転ナデ、その他カキ目 内面：回転ナデ	緻密	良好	灰色	小片 内面口縁部に自然釉付着 反転復元
208－5	155	22・23 谷	はそう （須恵器）	口径 器高	外面：口縁部踏め、頸部回転ナデ、その他回転ケズリ 内面：頸部回転ナデ	0.5～1㎜大の白黒・粒子を多く含む	良好	青灰色	

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
208－6	155	22・23 谷	はそう （須恵器）	口径 器高 現高9.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	灰褐色	1／2以下 反転復元
208－7	155	22・23 谷	はそう （須恵器）	口径 器高	外面：回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	1／2以下
208－8	155	22・23 谷	高坏 （土師器）		外面：不明 内面：不明	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
208－9	155	22・23 谷	坏 （土師器）	底径5.4	外面：底部糸切り、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	明赤橙色	
208－10		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径21.2 現高9.0	内外面：口縁部・頚部回転ナデ その他タタキ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	灰褐色	1／2以下 外面胴部に自然釉付着
208－11		22・23 谷	甕 （須恵器）	現高30.4	外面：頚部ナデ、その他平行タタキ 内面：タタキ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	灰褐色	1／2以下
208－12		半分城跡	甕 （須恵器）	口径19.0	外面：口縁部不明、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	1mm以下の白色粒子を若干含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元 外面・内面口縁部に自然釉付着
208－13		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径20.2	外面：回転ナデ・タタキ 内面：回転ナデ・タタキ	1mm以下の白色砂粒を若干含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元 口縁部に緑色の自然釉付着
208－14		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径21.6	外面：口縁部回転ナデ、その他平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他タタキ	1mm以下の白色砂粒を含む	良好	灰色	1／2以下 反転復元 外面・内面口縁部に自然釉付着
208－15		23－6 前庭	甕 （須恵器）	口径11.0	外面：口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	紫色	1／2以下 反転復元
209－1	155	22・23 谷	甕 （須恵器）	口径49.6 器高104.0	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1～5mmの白色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
209－2	155	22・23 谷	甕 （須恵器）	口径38.0 器高69.8	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1～2mm大の白色砂粒を含む	良好	灰褐色	底部穿孔
209－3		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
209－4	155	22・23 谷	甕 （須恵器）	口径21.3 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1～2mm程度の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
209－5	155	22・23 谷	甕 （須恵器）	口径16.8 器高	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部タタキ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰色	四耳あり
210－1		23－7 玄室	甕 （須恵器）	口径50.0	外面：肩部タタキ、その他回転ナデ 内面：肩部タタキ後ナデ、その他回転ナデ	緻密	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
210－2		22・23 谷	甕 （須恵器）		外面：体部平行タタキ、その他回転ナデ 内面：体部タタキ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色 断面紫色	1／2以下
210－3		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径(59.2)	外面：肩部平行タタキ、その他回転ナデ 内面：肩部タタキ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	1／2以下 反転復元
210－4		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径	外面：口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1mmの白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
210－5		22・23 谷	甕 （須恵器）	口径21.6 器高55.4	外面：口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ	1mmの白色砂粒を含む	良好	灰色	
210－6		22・23 谷	甕 （須恵器）		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好	青灰色	小片 外面に浮文あり
210－7		22・23 谷	甕 （須恵器）		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1～2mmの白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	小片 外面に浮文あり

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手法の特徴	胎　土	焼成	色　　調	備　　考
210－8		23支群 尾根上	甕 （須恵器）	口径11.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	黄褐色	1／2以下



五輪塔計測地点



五輪塔計測地点

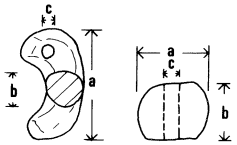
挿図番号	図版	器形	部位	法量（cm）									備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
102－1		五輪塔	空風輪			15.6	9.8	5.8	17.8	7.8	11.4	17.1	2つに割れる
2	159	〃	〃	29.4	15.1	14.3	9.1	5.2	16.1	6.4	10.1	14.6	
3	157	〃	〃	26.5	13.9	12.6	7.9	4.7	16.8	6.8	10.1	15.8	
4		〃	〃										
5		〃	〃										
6	157	〃	〃	24.1	12.9	11.2	5.7	5.5	14.1	6.5	9.8	13.8	
7		〃	〃		14.8		8.8					13.6	反転復元
8		〃	〃										2つに割れる
9	159	〃	〃	23.6	12.1	11.5	7.2	4.3	15.1	7.0	9.7	14.3	
10		〃	〃	31.8	15.0	16.8	11.0	5.8	16.6	4.6	11.0	15.8	
11		〃	〃	25.1		14.5	10.0	4.5	13.0	5.8	9.0	13.0	2つに割れる
12		〃	〃		14.6		10.0						
13		〃	〃				8.0			7.1			
14		〃	〃										
15		〃	〃										
16		〃	〃	26.7	12.4	14.3	9.8	4.6	14.9	3.5	10.0	14.3	
17		〃	〃										2つに割れる
18	157	〃	〃			14.1	9.5	4.6	14.0	5.9	7.9	12.6	
19		〃	〃				7.8				11.0		
20		〃	〃						15.3				
21		〃	〃				7.2						
22		〃	〃										
23		〃	〃		12.2				15.5				
24		〃	〃										
25		〃	火輪	16.0		6.4				8.5	4.0		
26	157	〃	〃	15.6	7.7	5.6	26.6			6.6	4.2		
27		〃	〃	17.4		5.4	28.0	12.4	23.0				
28	157	〃	〃	17.4	6.4						7.2		
29		〃	〃		8.8	6.8							
30		〃	〃		6.3								
31		〃	〃										
32		〃	〃	16.0		5.8		11.7			5.4		
33	157	〃	〃										
34	157	〃	〃		4.4	4.2							
35		〃	〃										
36		〃	水輪										

挿図番号	図版	器形	部位	法量（cm）									備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
102－37		五輪塔	水輪										
38		〃	〃		6.2		24.6						
39		〃	〃										
40		〃	〃	14.0	7.0	5.6	22.9			7.0	4.2		
41		〃	〃	15.8	8.6						6.1		
42		〃	〃										
43		〃	水輪										反転復元
44	158	〃	〃	16.2	23.4	14.8	18.5	7.7	8.2	3.0	3.1		
45	158	〃	〃	16.4	23.6	16.5	13.4	8.4		1.4	1.0		
46		〃	〃	15.8	23.0	14.8	14.2	7.6	7.4	1.4	1.1		
47		〃	〃	15.4	22.4	14.8	14.4	10.6	9.2	4.4	4.4		
103－1		〃	〃		30.7								
2	158	〃	〃	20.8	16.1	14.8	15.3	6.7	6.9	1.4	2.3		
3	159	〃	〃	16.4	26.9	18.9	18.4	10.7	11.4	2.8	3.8		
4		〃	〃					12.0	9.4				
5		〃	〃	11.0			16.8		14.4		3.4		
6		〃	〃	20.2						3.6	3.2		反転復元
7		〃	〃	17.8									反転復元
8		〃	〃										反転復元
9	158	〃	〃	16.4	24.6		15.8	9.6	9.0	4.0	4.4		
10		〃	〃	17.2	23.0								
11		〃	〃	17.2									反転復元
12		〃	地輪	26.0	30.0	30.4 31.2	18.0	7.3					
13	158	〃	〃	22.2	29.0 29.2	31.8 29.2	20.4	7.0					
14	159	〃	〃	18.2		25.6 25.0	15.5	8.4					墨書　アク
15•16		〃	〃	13.6	22.6	22.6	12.2	8.4					
17		〃	〃			21.0	12.8	4.4					
18	159	〃	〃	19.6	27.8 26.8	26.8 26.4	17.0	6.6					
19	158	〃	〃	18.2	26.0 26.1	25.9 26.0	17.6	10.2					
20		〃	〃	18.2	26.0		26.51 6.0	8.8					2つに割れている
21		〃	〃										
22		〃	基壇										
23	159	宝筐印塔											
24	159	宝筐印塔											

玉 計 測 値

挿図番号	出土地点	a (mm)	b (mm)	c (mm)	重量 (g)	色
30－ 5	35－1	23.9	6.9	2.4	3.43	赤橙色
30－ 4	35－1	7.05	5.55	2.2	0.44	紺色
86－25	33－5	10.0	0.55	0.25	2.21	白色
100－12	三田谷2号墳	7.3	6.4	1.5	0.66	紺色
100－11	三田谷2号墳	10.5	7.3	2.1	1.22	紺色
100－ 1	22－7	12.3	10.7	3.5	1.95	緑色
175－ 2	22－7	12.2	10.5	3.7	1.97	緑色
175－ 3	22－7	13.8	11.3	3.2	2.70	緑色
175－ 4	22－7	12.6	10.0	2.8	2.02	緑色
175－ 5	22－7	13.1	11.5	3.6	2.49	緑色
175－ 6	22－7	13.5	10.9	2.5	2.47	緑色
175－ 7	22－7	12.6	10.2	3.5	1.89	濃緑色
175－ 8	22－7	(20.0)	(9.4)	(1.7)	(0.80)	緑色
175－ 9	22－7	8.2	7.0	1.5	0.60	紺色
175－10	22－7	8.0	7.1	1.1	0.52	紺色
175－11	22－7	7.7	5.6	1.4	0.49	紺色
175－12	22－7	7.4	5.9	2.1	0.42	橙色
175－13	22－7	7.8	6.0	1.6	0.42	紺色
175－14	22－7	7.5	5.6	1.7	0.47	紺色
175－15	22－7	7.3	6.1	2.0	0.45	緑色
175－16	22－7	6.1	6.1	1.1	0.27	緑色
175－17	22－7	6.6	5.1	2.0	0.25	水色
175－18	22－7	6.3	6.4	1.4	0.25	水色
175－19	22－7	5.9	5.0	1.8	0.22	緑色
175－20	22－7	5.2	4.0	1.6	0.15	淡紺色
175－21	22－7	6.2	4.0	1.9	0.17	紺色
175－22	22－7	6.6	3.7	1.8	0.19	水色
175－23	22－7	5.0	(6.4)	1.0	(0.17)	紺色
175－24	22－7	5.0	3.1	1.5	0.10	紺色
175－25	22－7	5.2	3.2	1.2	0.12	紺色
175－26	22－7	5.2	2.9	1.5	0.10	淡紺色
175－27	22－7	4.6	2.8	1.3	0.08	紺色
175－28	22－7	4.8	2.8	1.1	0.09	紺色
175－29	22－7	4.7	1.5	1.1	0.06	紺色
175－30	22－7	4.5	2.5	1.5	0.06	紺色
175－31	22－7	4.5	1.9	1.5	0.05	紺色
198－ 1	23－5	12.2	10.0	2.6	1.95	茶色

挿図番号	出土地点	a（mm）	b（mm）	c（mm）	重量（g）	色
198－ 2	23－5	13.1	10.4	2.2	2.48	茶色
198－ 3	23－5	11.8	10.7	2.2	(1.86)	茶色
198－ 4	23－5	12.5	9.3	3.1	2.22	暗緑色
198－ 5	23－5	13.3	10.7	2.0	2.53	暗緑色
198－ 6	23－5	10.9	8.0	4.2	0.68	白色
198－ 7	23－6	8.5	5.7	1.5	0.58	紺色
198－ 8	23－7	13.2	2.8	2.2	0.83	淡緑色
198－ 9	23－7	7.3	4.7	1.7	0.39	紺色
198－10	23－7	7.4	4.5	1.9	0.34	紺色
198－11	23－7	6.8	5.8	2.0	0.39	紺色
198－12	23－7	7.0	3.5	1.9	0.25	淡紺色
198－13	23－7	5.9	2.7	0.9	0.15	淡紺色
198－14	23－7	6.3	3.0	2.2	0.19	紺色
198－15	23－7	6.0	3.2	1.7	0.15	淡紺色
198－16	23－7	6.4	3.2	1.2	0.15	淡紺色
198－17	23－7	5.3	2.8	1.5	0.09	淡紺色
198－18	23－7	6.8	3.4	1.7	0.25	紺色
198－19	23－7	6.0	3.1	1.1	0.12	紺色
198－20	23－7	6.1	3.7	1.4	0.17	淡紺色
198－21	23－7	6.0	3.3	1.8	0.16	紺色
198－22	23－7	6.0	3.2	1.5	0.15	紺色
198－23	23－7	5.4	2.7	1.1	0.10	淡紺色
198－24	23－7	5.3	4.4	1.4	0.15	紺色
198－25	23－7	5.2	4.2	1.0	0.13	紺色
198－26	23－7	5.0	3.1	1.4	0.10	紺色
198－27	23－7	5.4	3.0	0.7	0.13	淡紺色
198－28	23－7	5.3	2.8	1.2	0.11	淡紺色
198－29	23－7	5.1	4.6	0.8	0.17	紺色
198－30	23－7	5.7	3.0	1.4	0.14	紺色
198－31	23－7	5.6	2.5	1.3	0.11	紺色
198－32	23－7	4.8	3.0	1.1	0.09	淡紺色
198－33	23－7	5.2	2.8	0.5	0.12	紺色
198－34	23－7	5.2	2.2	1.0	0.11	紺色



玉類計測地点

上塩冶横穴墓群出土金製品の材質と製作技法

奈良国立文化財研究所
村　上　　隆

1．はじめに

1993年からの調査で金糸の出土した上塩冶横穴墓群第21支群10号穴に続いて、第22支群９号穴からも金糸と金環が出土した。両墓は一連の横穴墓群の中でも近くに位置し、お互いの関係にも注目される。ここでは、22－９号穴から出土した金糸及び金環の材質と製作技法について調査を行った結果を報告する。

2．調査方法

金製品の材質調査には、非破壊的手法によるエネルギー分散型微小領域蛍光Ｘ線分析装置㈱テクノス製ＴＲＥＸ640Ｓを用いた。分析条件は電圧45kv、電流0.3mA、300秒。また、微細構造の観察には、走査型電子顕微鏡㈱日本電子製JXA－840を用いた。

3．金製品

a）　金糸

22支群から出土した金糸は、からまった状態でかなり大量に出土した（図１）。一度に出土した量は、これまでに日本で出土した金糸の中でも多い方ではないであろうか。螺旋状に巻かれた金糸の中空の芯には、土とともに植物の細い根が部分的に入り込んでいたが、繊維や糸などの遺存は確認できなかった。金糸の長さは絡み合っているので全ての金糸を確認できないが、長いもので10cm程度、短いもので5㎜程度と一定しない。金糸としての太さは0.2～0.3㎜程度の筒状で、その形状は先に出土した21支群の金糸とほとんど変わらない。ただし、螺旋状にする前のリボン条の幅は、走査型電子顕微鏡による観察（図２）から、0.3～0.6㎜とバラツキがある。厚さ約10μm(0.01㎜)である。リボン条の切断面には、前回同様、截ち切った痕跡が確認された（図３）。以上の観察結果を総合すると、この金糸は厚さ10μm程度に延ばされた、大きさ10㎝角程度の金の薄板を上から截ち切るように幅0.3～0.6㎜のリボン条に截断し、これを螺旋状に巻いたものであることがわかる。巻き方は21支群のものと同様「Ｓ巻き」である。ただし、21支群の金糸に見られたような、金糸をさらに巻き込んで太いコイル状にしたものは確認できなかった。なお、金板を厚さ10μmまで延ばす作業の最終段階で、上から何かの道具で押し付けて擦って仕上げたと思われる。金糸の大半は、擦った表面が外側に巻かれるのが普通である（図２）が、中にはこの面が内側に巻かれ、擦るときに下側になっていた裏面が表になるように巻かれているものもあり（図４）、金糸製作の工程を考える上で興味深い。

ここで、注目すべきは、金糸の材質である。非破壊的手法による蛍光Ｘ線分析の結果、金：90.5%、銀：9.4%、銅0.1%の結果を得た（ランダムに、３本の金糸を抜き出して分析し、どれもほぼ同様の値を示した）。これは、21.7Ｋ（純度は24Ｋ）に相当する。銅が微量に含まれるのは、古代金製品の特徴であるが、３～４%程度の銀を含み、約23Ｋの金濃度を示した21支群の金糸とは組成が異なることがわかる。金糸の製作技術にはほとんど違いないが、このように金糸の組成が異なることはたいへん興味深い。これは、例えば、古代における金糸の使用方法、金糸の製作地、被葬者たちの金糸の入

手方法、被葬者同士の関係など、我々にさまざまなことを想起させてくれる。今後、これまでに日本各地で出土した金糸を比較検討していく中で、これらの疑問に答える糸口を見出したいと考えている。

b）金環

この横穴墓からは、上に述べた金糸とともに金環が大小1個づつ出土している。両方の金環とも、金を細い板状に成形し、その表面にキザミを入れて、連続した山型文様がつけられている(図５)。似たような連続文様であるが、大小で若干異なる。(図６(a)、(b))。それぞれ薄板の両端を鑞付けして環を作っていると考えられるが、今回の調査でこの鑞材を特定するまでには至らなかった。

それぞれの組成は、大きい方の環が、金：88.06％、銀：11.84％、銅：0.10％、小さい方が、金：88.11％、銀：11.80％、銅：0.09％となり、どちらも銅がほとんど含まれず、21.1Ｋに相当する金の濃度を示す。共にほとんど同じ組成を示すことから、この二つの金環は、同じ材料から同時に作られたものであると考えてよいだろう。しかし、大小を組み合わせた金環の用途解明は、金糸の用途の解明と共に今後の課題である。

４．まとめ

上塩冶横穴墓群22支群９号横穴墓から大量に出土した金糸は、山陰地方で３例目にあたる。また、一緒に出土した大小組み合わせの金環はこの地方では初めての出土である。金糸は21支群10号横穴墓から先に出土した金糸とよく似た形状を呈するが、金の含有量は少し少ない傾向が見られた。しかし、銅の含有量が少ないなど、古代の金製品の特徴を示している。また、金環は、大小ともにほぼ同様の組成を示し、同じ材料から作られたことがわかった。

今後さらに、我が国で出土した金製品の調査事例を増やし、古代における金製品の製作技法の解明と共に、製作地や流通などに関する考察もおこなっていきたいと考えている。

参考文献

（１）村上　隆・林　健亮・松本岩雄・中原　斉：「山陰地方で出土した古代金糸の材質と製法技法」、日本文化財科学会第12回大会研究発表要旨集、1995

（２）村上　隆：「島根県出雲市上塩冶10号横穴墓出土金糸の材質と製作技法について」、上塩冶横穴群第20・21支群、島根県教育委員会

図１

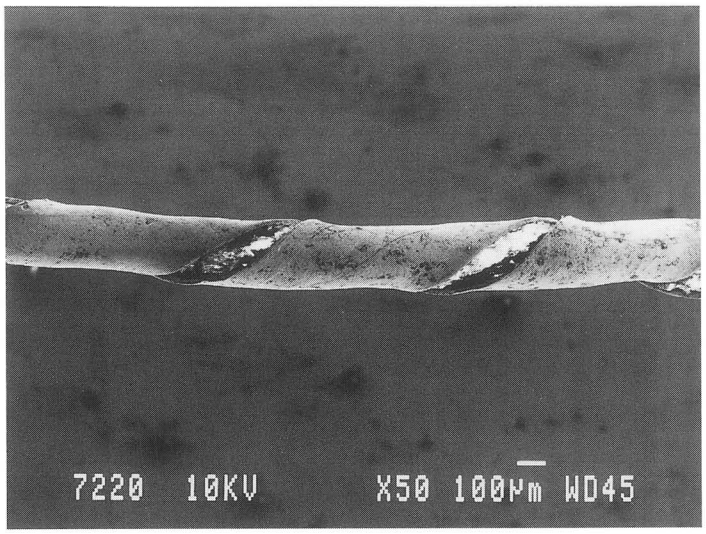


図 2

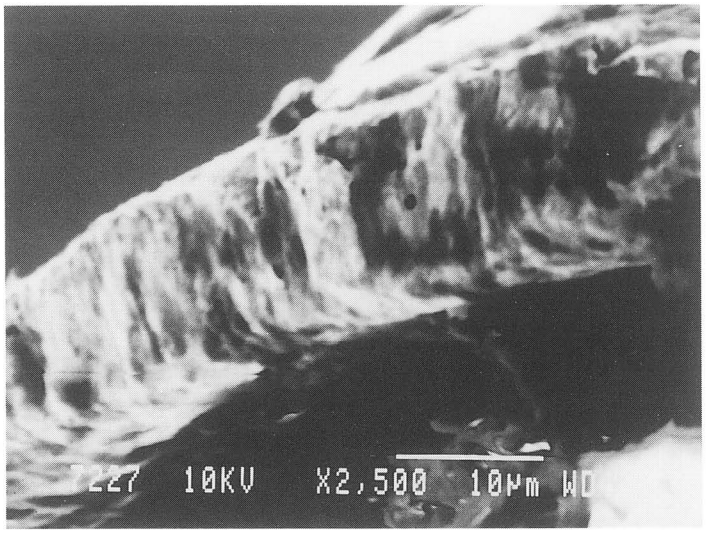


図 3

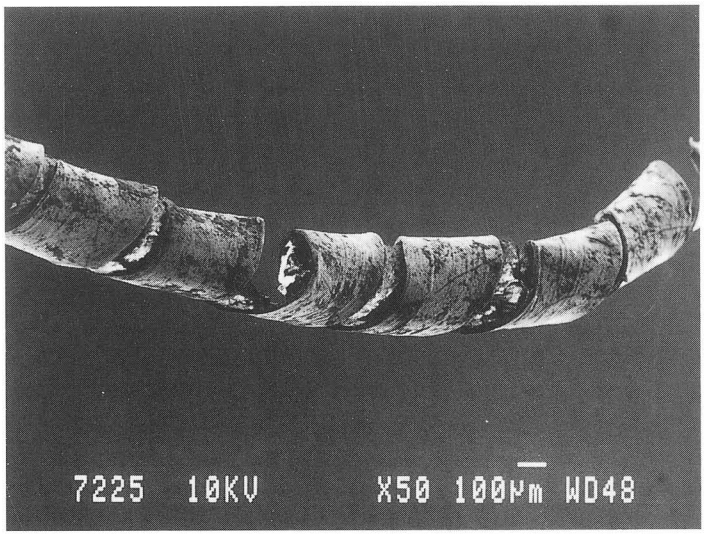


図 4

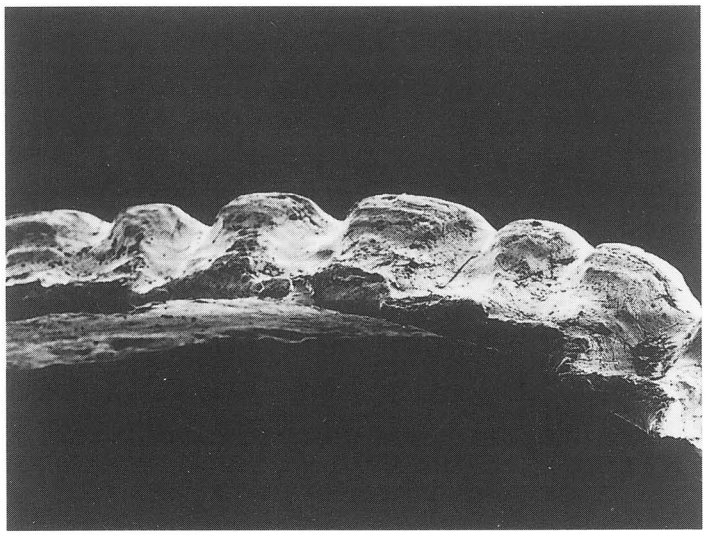


図 5

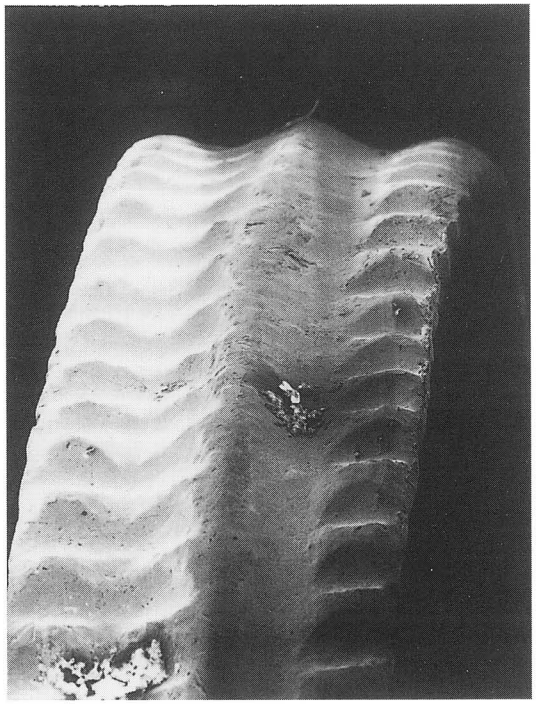


図 6 (a)

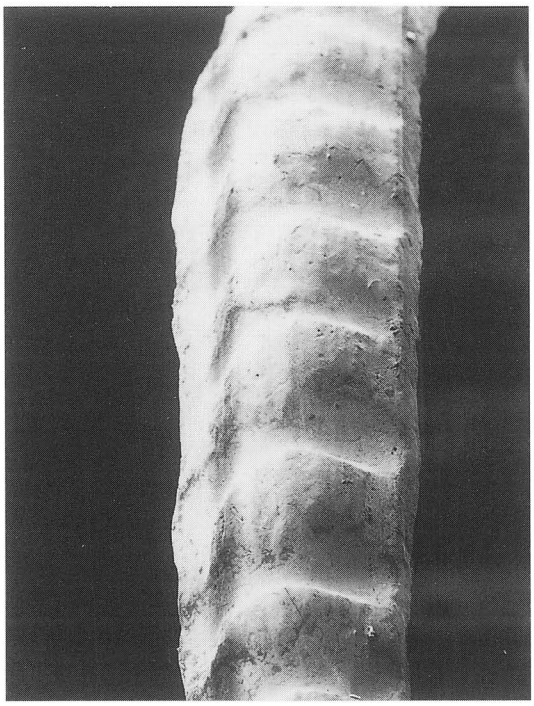


図 6 (b)

上塩冶横穴墓群出土玉類の石材鑑定

島根大学総合理工学部地球資源環境学教室
澤　田　順　弘

上塩冶横穴墓群から発掘された遺物のうち、丸玉７試料の実体顕微鏡による鑑定とガラス小玉のＸ線マイクロアナライザーと蛍光Ｘ線による組成分析を行った。

Ｉ、丸玉の鑑定

石材、土器、コインなどの非破壊による精度の良い定量分析は種々の条件により困難である。表面が磨かれているか、滑らかな場合、Ｘ線マイクロアナライザーによって定量分析が可能であるが、表面を炭素または金で蒸着しなくてはならない。測定後、遺物を損ねることなく蒸着物質を除去できれば、定量分析が可能であるが、現状復帰できるかどうかの危険が伴なわれるので今回はこの方法での分析は行わなかった。半定量分析は蛍光Ｘ線によって可能である。この方法はＸ線を試料に照射し、そこから得られる特性（固有）Ｘ線を用い、ファンダメンタル・パラメータ法あるいは試料に類似した幾つかの標準試料を用いることによって分析することができる。この方法で例えば江戸時代の硬貨などの金属試料では、加速電圧50ｋｖ、電流50ｍＡのＸ線照射条件で何時の時代のものであるかある程度の鑑定は可能であり、また、試料のダメージもない。しかし、今回のような石材を用いた丸玉の場合、上記の加速電圧ではしばしば試料がダメージを受けることからこの方法も危険が伴われる。従って、今回は実体顕微鏡を用いて鉱物種、岩石組織、粒度などを観察することにより岩石種を鑑定し、その産地を推定した。ただし、表面に石材以外の物質が付着しているものもあるが、その場合でもそれらを取り除けないため鑑定が不十分になることは否めない。

以下に結果を報告する。

①　石材の推定

試料番号119（第198図４）　蛇紋岩。

試料番号120（第198図２）　アルコース質中粒砂岩。

表面は黄茶色の風化物または、付着物に覆われるところがほとんどであり、鑑定は困難であるが、生の岩石がかろうじて観察する事ができる小領域では石英粒が多く、他に長石や岩片を含むことから砂岩と推定される。１㎜程度の粗粒砂サイズの鉱物破片または岩片を含む。

試料番号121（第198図１）　中礫岩

径10㎜程度の中粒花崗岩の岩片を含む。４㎜以下のカリ長石、斜長石、石英の結晶片を含む。マトリックスは0.2～0.5㎜程度の粒径からなるアルコース質砂岩である。

試料番号122（第198図５）　蛇紋岩

１～２㎜の金属光沢を呈する黒色の鉱物はクロム鉄鉱と推定される。

試料番号123（第198図３）　アルコース質極粗粒砂岩

粒径は最大２㎜。長石、石英、苦鉄質鉱物の結晶破片や深成岩片を含む。

試料番号127（第198図６）　流紋岩質凝灰岩または自破砕性溶岩。

淘汰の比較的良い１㎜前後の白色無斑晶質流紋岩を主体として、マトリックスは著しく少ない。流

紋岩岩片は角礫ないし亜角礫である。鉄鉱の結晶片を含む。また、流紋岩岩片の間を充填して細粒の鉄鉱粒が認められる。

試料番号160（参考資料として、玉湯町林43号墳出土棗玉）　粘板岩（スレート）

泥質砕屑岩の他に極細粒アルコース質砂岩、細粒石英砂を含む。ラミナおよびスレート劈開が認められる。

②　産地の推定

試料番号119と122の蛇紋岩は中国地方の三郡変成帯中に点在する超苦鉄質岩に由来するものと推定される。

試料番号120、121、123の礫岩、砂岩と試料番号127の流紋岩質凝灰岩または自破砕性溶岩は島根県東部の日本海沿岸に分布する中期中新統に由来するものと推定される。

試料番号160の粘板岩は中国帯の非変成堆積岩に由来する可能性がある。

Ⅱ　ガラス小玉の組成分析

ガラス小玉については破片状のものは破壊分析が可能であるので、波長分散型Ｘ線マイクロアナライザーおよび蛍光Ｘ線分析装置を用いて組成分析を行った。

①　波長分散型Ｘ線マイクロアナライザーを用いた定性及び定量分析

ガラスの定性及び定量分析は島根大学汽水域研究センターに設置のＸ線マイクロアナライザー（ＪＥＯＬ社製ＪＸＡ－8800M）を用いて行った。分析試料はガラス小玉を接着剤でスライドガラスに固定し、表面を削り、最終的に１μmのダイヤモンドペーストにて研磨したものを用いた。

定性分析

分光結晶としてＴＡＰ、ＬＩＦ、ＰＥＴを用いて酸素より重い元素がカバーできる波長領域で定性分析を行った。結果を図１～５に示した。Ｇ－１～Ｇ－５は次に述べる定量分析試料と同じである。定量分析を行った元素（Si、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Na、Ca、K、P、Cu、Pb）以外の元素のピークは認められなかった。

定量分析

定量分析は標準試料として合成酸化物と組成既知のガラスを用い、補正計算はＺＡＦによった。測定条件は加速電圧15ｋｖ、試料電流2.00ｘ10－２μA、ビーム径を約10μmとし、NaとＫについてはピーク位置で６秒間、バックグランド位置で２秒間測定し、他の元素についてはピーク位置で主元素は10～15秒間、微量元素は30～300秒間、バックグラウンド位置で、主元素は２～５秒間、微量元素は10～60秒間測定した。１試料について４～５点を測定し、その平均値を持って値とした。分析結果を表１に示した。分析値はすべて100％にノルマライズした値である。

分析された試料は濃紺色１試料（表１のＧ－２）、紺色１試料（Ｇ－１）、青色２試料（Ｇ－４、５）、淡青色１試料（Ｇ－３）の５試料である。分析されたガラス小玉試料はいずれもNa20が17～19重量％と高く、ソーダガラスである。鉛（Pb）はごく少量である。Ｇ－２、３では銅（Cu）が１重量％を超えることから、青～紺色の発色剤の１つとなっているものと考えられる。

②　蛍光Ｘ線分析装置を用いた定量分析

上記のＸ線マイクロアナライザーを用いた方法では、微量元素の定量分析は困難もしくは精度が著

しく悪いので、島根大学総合理工学部地球資源環境学教室設置の蛍光X線分析装置（リガク社製RIX 2000)」を用いてガラスビード法により分析した。試料と融剤（四ホウ酸リチウム）の混合比は試料：融剤＝1：5である。検量線用標準試料としては日本地質調査所およびアメリカ合衆国地質調査所の高い推奨値が報告されている標準試料及び高純度（99.999％～99.99％）の試薬によって作成した標準試料を用いた。マトリックス補正とX線ピークとの重なり補正係数を多成分重回帰法によって求める方法とPeak over Back法（Cu、Zn、Ba）を用いた。

分析用ガラスビードの作製には未知試料が0.7ｇ(700mg）必要である。しかしながら、分析に用いたガラス小玉破片は重量が0.04ｇ(40mg）以下である。従って未知試料（ガラス小玉）のみではガラスビードが作製できないために高純度のシリカ粉末試料（純度：99.999％）および高い推奨値をもつ日本地質調査所の標準試料を混合させ0.7ｇとし、その分析値と混合比から計算によってガラス小玉の元素組成を求めた。ガラス小玉と混合させた日本地質調査所の標準試料（JR－2、JP－1）及び高純度のSiO２試薬の重量と重量比を表２に、標準試料（JR－2、JP－1）の推奨値、混合試料の分析値、及びガラス小玉の計算値を表３に示した。

ガラス小玉の量が少ないために、希釈による誤差が大きくなる。特に誤差はガラス小玉の組成が混合した標準試料の値に近いものでは大きい。一方、高純度のシリカ粉末試料の場合、SiO２以外はほとんど０に近いが、混合試料では希釈のため検出限界以下になる元素（表２にndで示した元素）も多い。

分析結果は以下の通りである。

[JR－2との混合試料] Niが200～500ppmと多い。Cuは7000～9400ppmの高濃度を示すものがあり（濃紺色A－1、紺色B－2)、上記のX線マイクロアナライザーによる分析結果と整合的である。Cu濃度が低い紺色A－2、B－1試料は逆にCoが80～150ppmと高い。

[JP－1との混合試料] Srが120ppmと260ppm、Baは700ppmと1600ppmである。Cuは濃紺色のものが1100ppm、淡青色のものが9400ppmでJR－2の結果と異なる。Znは約2000ppm含まれる。

[SiO２との混合試料] Niが500ppm、Yが130ppm、Srが200ppmを示す。この試料は濃紺色を示すものであるが、Cuは600ppmと低い。Znは約3500ppm、Coは130ppmと見積もられる。

ガラスの発色剤としてはFe、Mn、Cu、Co、Crなどが考えられる。ここで分析したガラス小玉はX線マイクロアナライザーによる分析と蛍光X線分析ともにCu含有量が高いことを示すものがあることからCuが発色剤の１つであることはまちがいないが、Co含有量と色及び濃度との関係については結論が得られなかった。

ガラス小玉と標準試料の重量

	重量（ｇ）	比
2－A－1	0.0211	0.0301
JR－2	0.6789	0.9699
2－A－2	0.0269	0.0384
JR－2	0.6731	0.9616
2－B－1	0.0318	0.0454
JR－2	0.6682	0.9546
2－B－2	0.0104	0.0149
JR－2	0.6896	0.9851
TAMA－1a	0.0219	0.0313
JP－1	0.6775	0.9687
TAMA－1b	0.0165	0.0236
SiO２	0.6815	0.9764
TAMA－2	0.0154	0.0220
JP－1	0.6843	0.9780

表１　ガラス小玉と混合させた日本地質調査所の標準試料（JR－2、JP－1）と高純度Sio2試薬の重量と重量比

	JR－2	2－A－1＋JR－2	2－A－2＋JR－2	2－B－1＋JR－2	2－B－2＋JR－2	S22－72－A－1	S22－72－A－2	2－B－1	2－B－2
	推奨値					濃紺色	紺色	紺色	紺色
SiO2	75.65	75.27	76.32	76.28	75.38				
TiO2	0.09	0.08	0.07	0.08	0.07				
Al2O3	12.82	12.75	12.54	12.40	12.79				
Fe2O3	0.86	0.83	0.84	0.81	0.81				
MnO	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12				
MgO	0.05	0.05	0.06	0.11	0.04				
CaO	0.45	0.54	0.69	0.70	0.51				
Na2O	4.03	4.53	4.59	4.70	4.27				
K2O	4.45	4.47	4.40	4.38	4.51				
P2O5	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02				
H2O（＋）	1.28								
Total	100.26	98.65	99.66	99.61	98.51				
Cr	2.6	nd	4.0	nd	nd	*	39	*	*
Ni	0.84	8.8	9.5	10	9.1	265	226	203	555
Nb	19.2	16.4	17	17	17	*	*	*	*
Zr	98.5	82	85	84	77	*	*	*	*
Y	51	49	49	49	49	*	*	*	*
Sr	8	12	27	25	6.9	*	502	382	*
Rb	297	294	294	296	297	*	*	*	*
V	8	nd	nd	nd	nd	*	*	*	*
Ba	39	65	44	36	40	902	*	*	*
Cu	1.4	233	39	46	142	7685	980	984	9438
Zn	27.2	27	30	32	30	*	*	*	*
Co	0.4	nd	6.3	4.1	nd	*	154	82	*

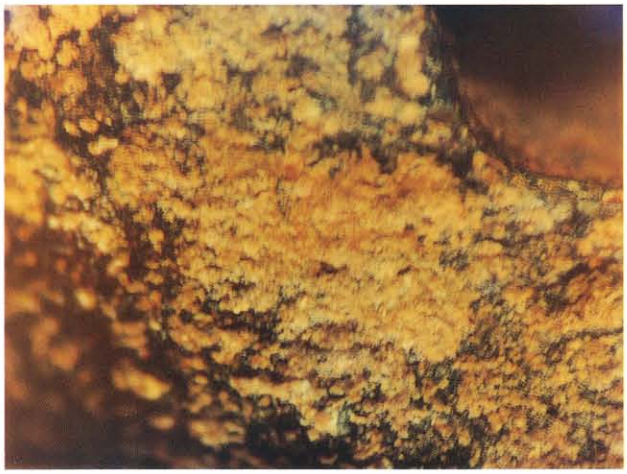
	JP－1	TAMA－1a＋JP－1	TAMA－2＋JP－1	TAMA－1a	TAMA－2		SiO2	TAMA－1b＋SiO2	TAMA－1b
	推奨値			濃紺色	淡青色				濃紺色
SiO2	42.39	40.73	40.03			SiO2	100	90.12	*
TiO2		0.02	0.02			TiO2	0	0.01	*
Al2O3	0.62	1.70	1.72			Al2O3	0	0.92	*
Fe2O3	8.34	11.05	11.07			Fe2O3	0	0.03	*
MnO	0.12	0.16	0.16			MnO	0	0.01	*
MgO	44.72	40.93	41.07			MgO	0	0.03	*
CaO	0.56	0.69	0.57			CaO	0	0.15	6.93
Na2O	0.02	0.63	0.50			Na2O	0	0.42	19.39
K2O	0.00	0.06	0.07			K2O	0	0.05	2.31
P2O5	0.00	0.03	0.03			P2O5	0	0.02	*
H2O（＋）	2.68					H2O（＋）			
Total	99.45	96.00	95.24			Total			
Cr	2970	2441	2526	*	*	Cr	0	nd	*
Ni	2460	2325	2341	*	*	Ni	0	11	508
Nb	1.2	1.4	1.5	*	*	Nb	0	3.8	*
Zr	6	5.8	3.6	*	*	Zr	0	nd	*
Y	1	1.4	1.8	*	*	Y	0	2.8	129
Sr	1	3.9	5.5	125	262	Sr	0	4.4	203
Rb	1	nd	nd	*	*	Rb	0	nd	*
V	29	28	23	*	*	V	0	nd	*
Ba	17	23	33	735	1575	Ba	0	12	*
Cu	5.7	36	192	1150	9163	Cu	0	13	600
Zn	29.5	54	51	1725	2434	Zn	0	75	3463
Co	116	100	91	*	*	Co	0	2.9	134

表２ａ　ガラス小玉の蛍光Ｘ線分析結果。ndは検出限界以下を示す。＊は算出値が意味をもたないことを示す

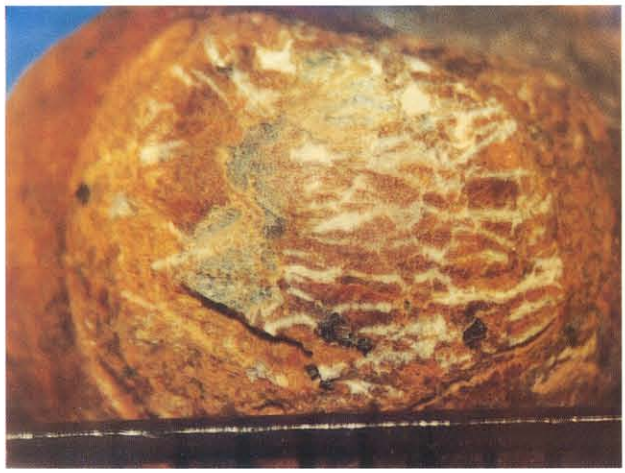
ガラス小玉	G－1	G－2	G－3	G－4	G－5
	22－7－2－A	22－7－2－A	B－2	B－2	B－2
	n＝5	n＝4	n＝4	n＝5	n＝4
	紺色	濃紺色	淡青色	青色	青色
SiO2	67.89	67.52	70.40	67.89	68.16
TiO2	0.28	0.46	0.39	0.30	0.30
AI2O3	4.01	6.67	6.05	3.91	3.92
FeO	1.51	1.20	1.09	1.50	1.46
MnO	0.25	0.31	0.28	0.28	0.30
MgO	0.82	0.26	0.20	0.82	0.83
CaO	5.66	2.07	1.84	5.75	5.74
Na2O	18.27	18.55	16.57	18.11	18.07
K2O	0.99	1.58	1.82	1.14	1.07
P2O5	0.10	0.05	0.06	0.09	0.09
CuO	0.12	1.31	1.24	0.12	0.04
PbO	0.12	0.02	0.07	0.10	0.03
Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

表３　ガラス小玉のＸ線マイクロアナライザーによる定量分析結果。ｎは分析点の個数を表す。

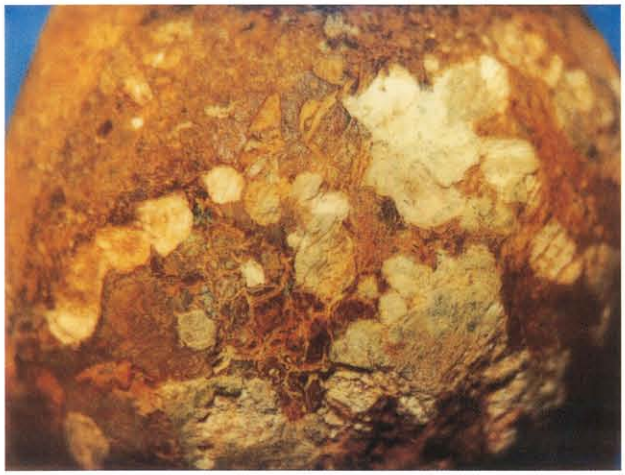
蛇　紋　岩



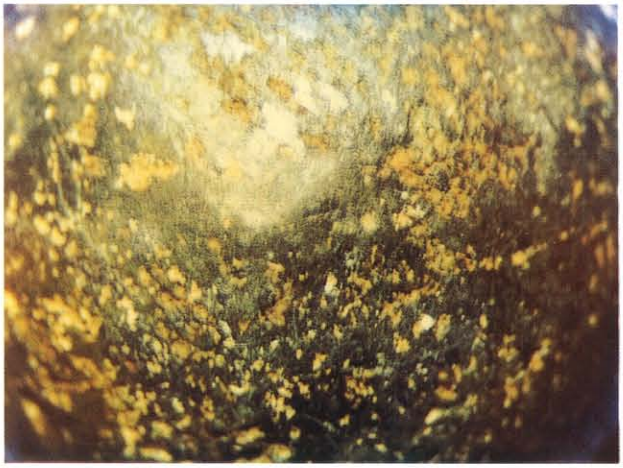
アルコース砂岩



カリ長石結晶

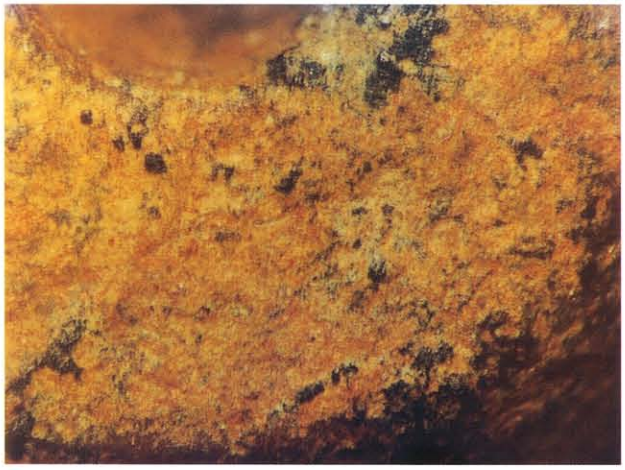


花 崗 岩 片



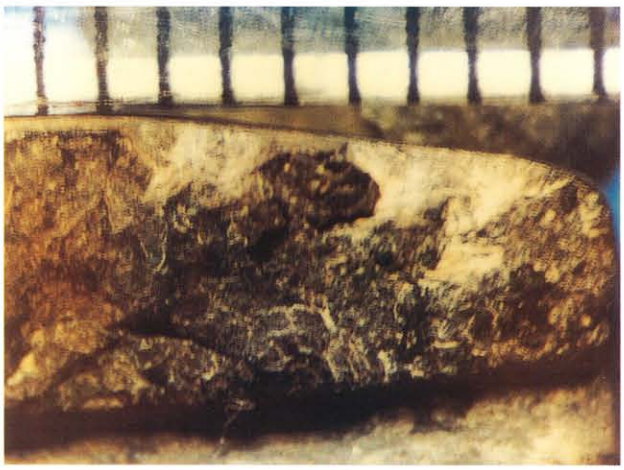
蛇　紋　岩

岩　　片



砂　　岩

流紋岩片、鉄鉱



ラミナ・スレート劈開

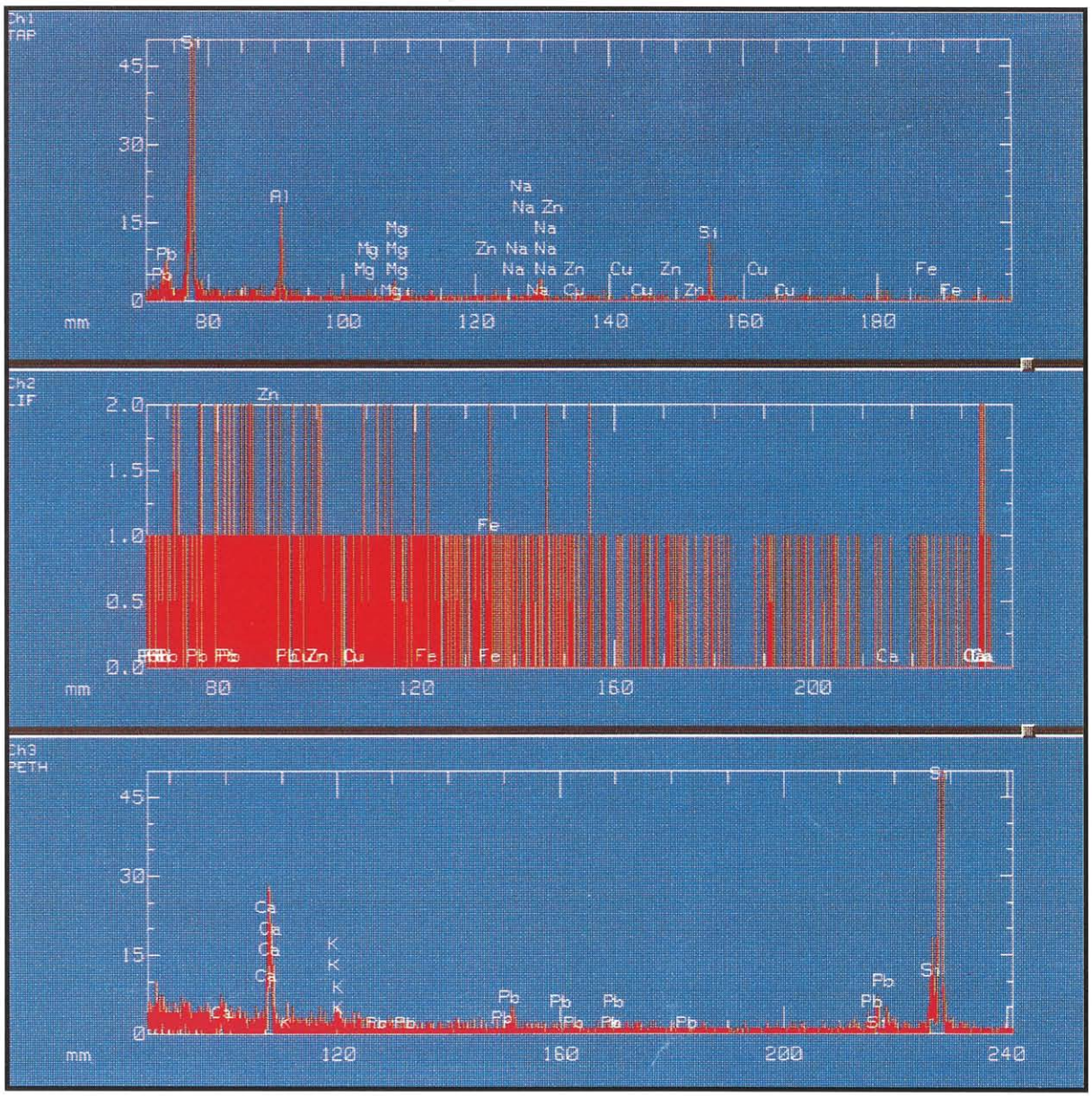


図１　ガラス小玉（Ｇ－１）のＸ線マイクロアナライザーによる定性分析結果

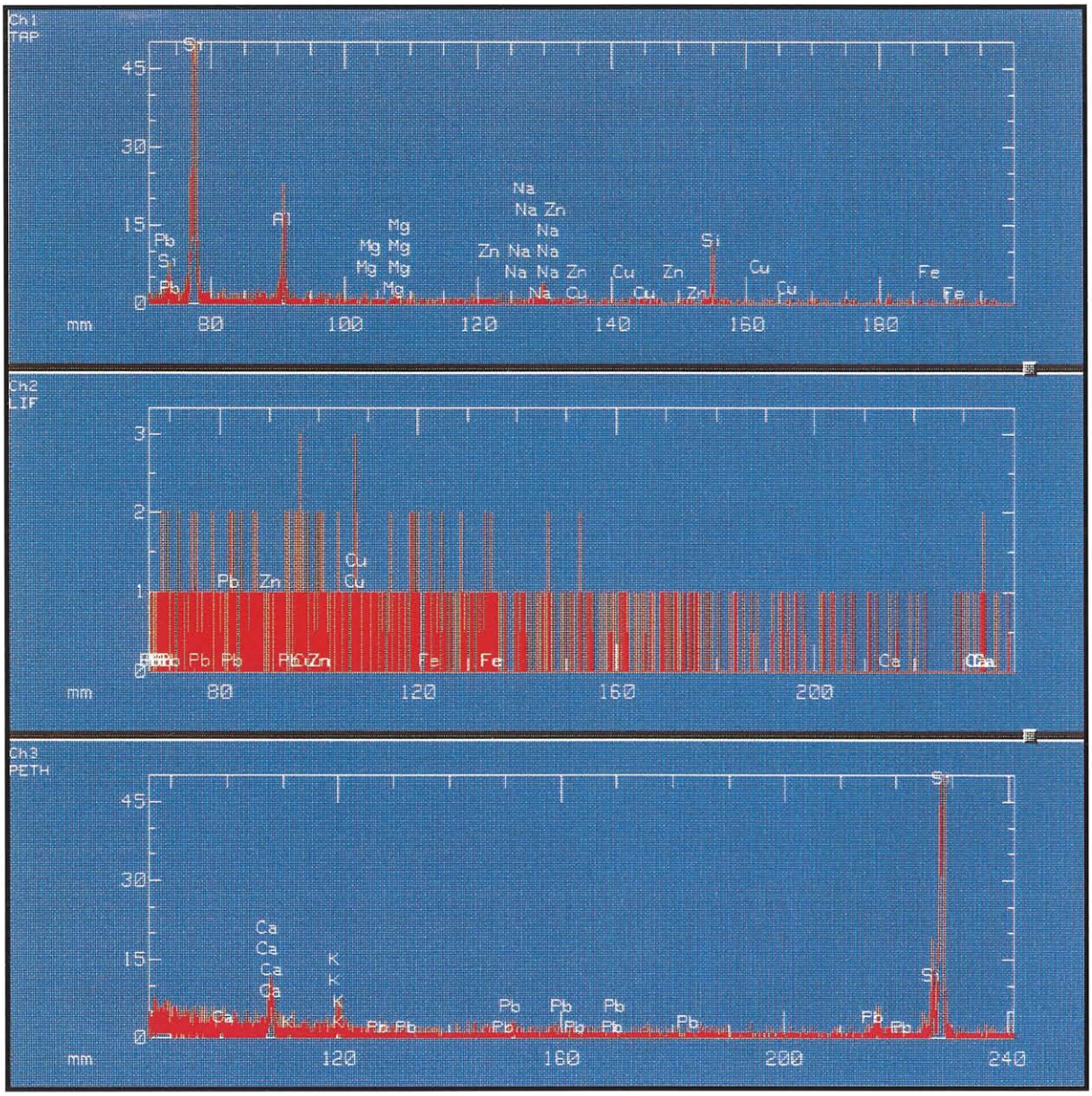


図２　ガラス小玉（Ｇ－２）のＸ線マイクロアナライザーによる定性分析結果

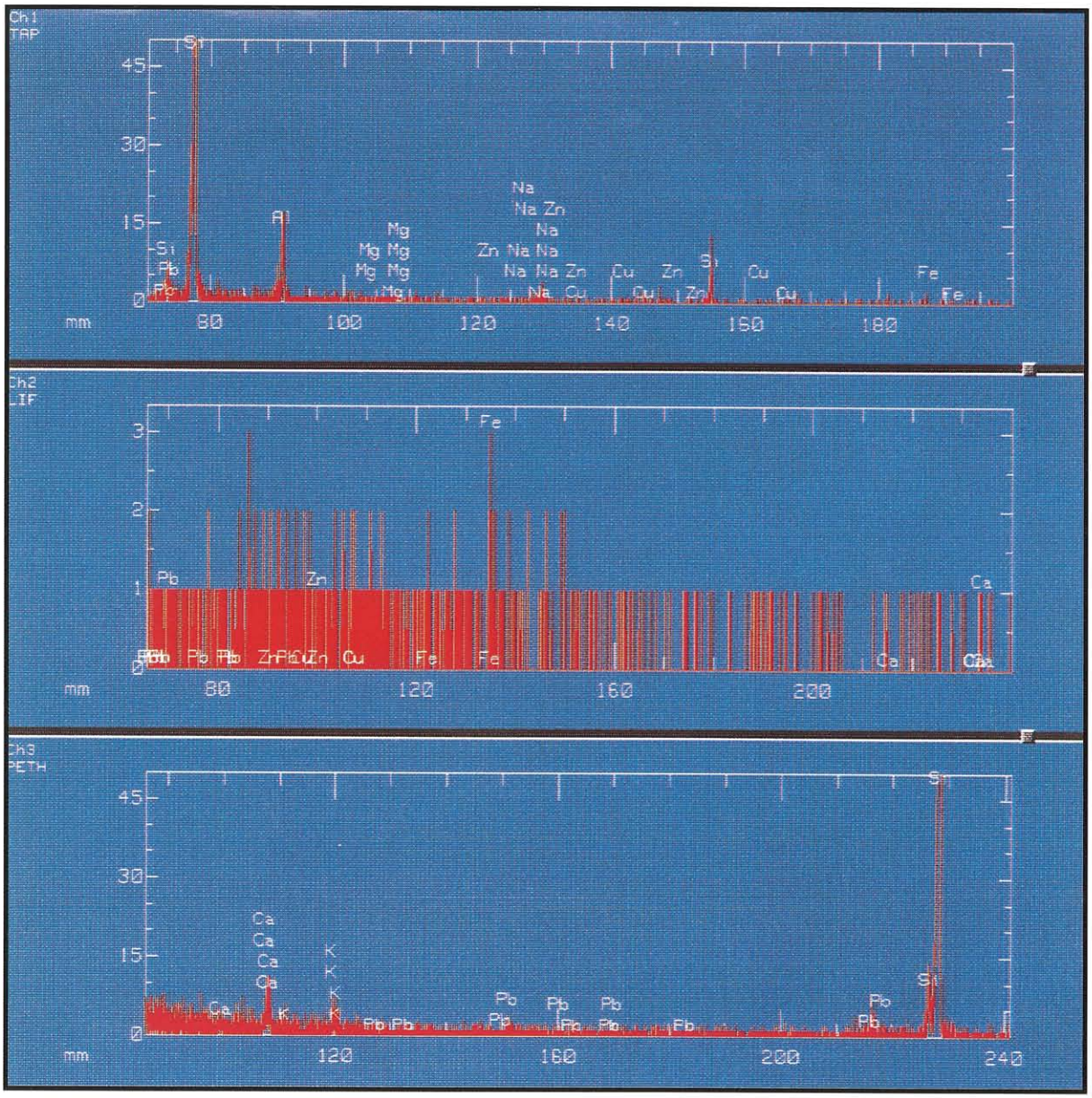


図３　ガラス小玉（Ｇ－３）のＸ線マイクロアナライザーによる定性分析結果

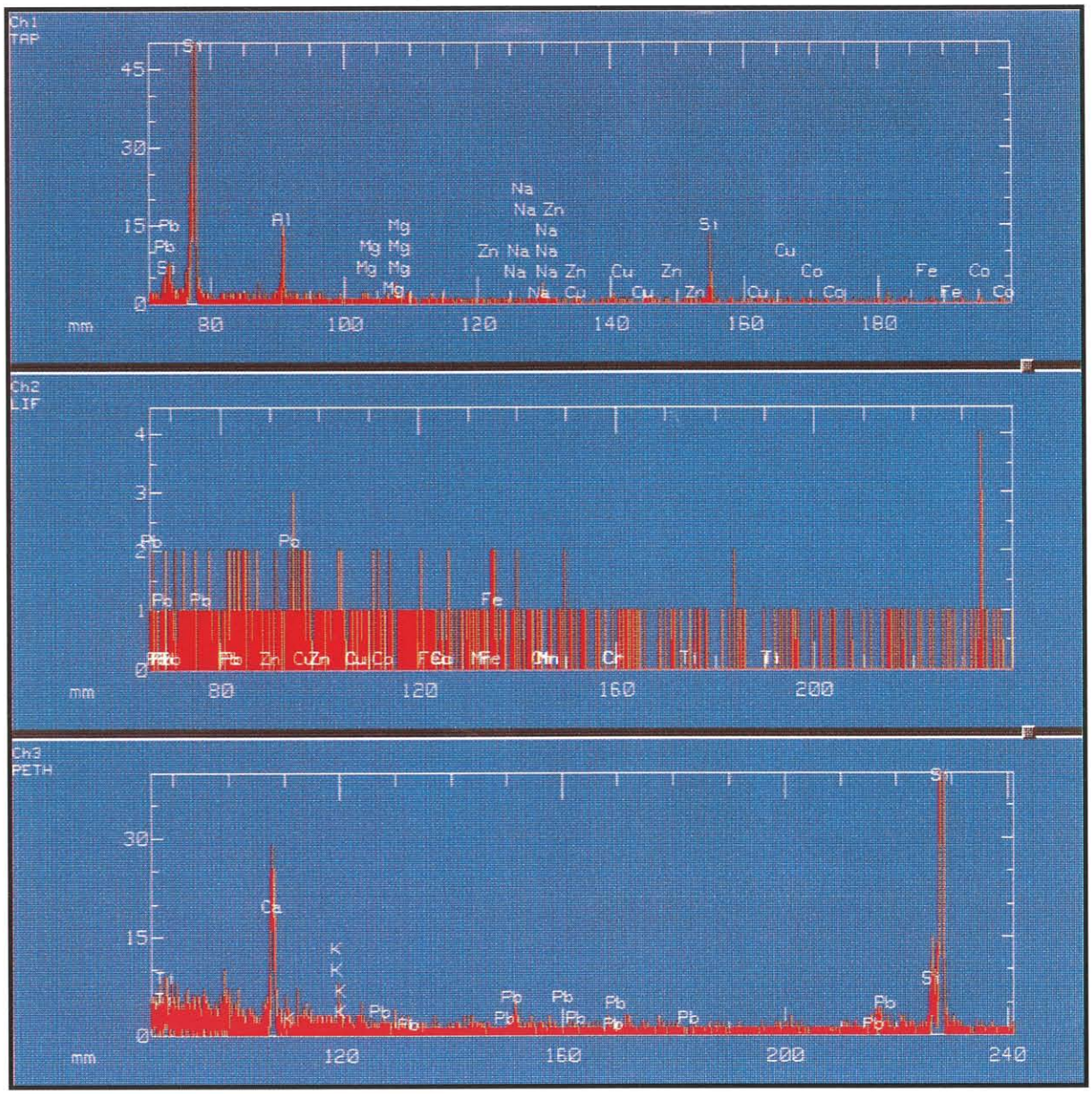


図４　ガラス小玉（Ｇ－４）のＸ線マイクロアナライザーによる定性分析結果

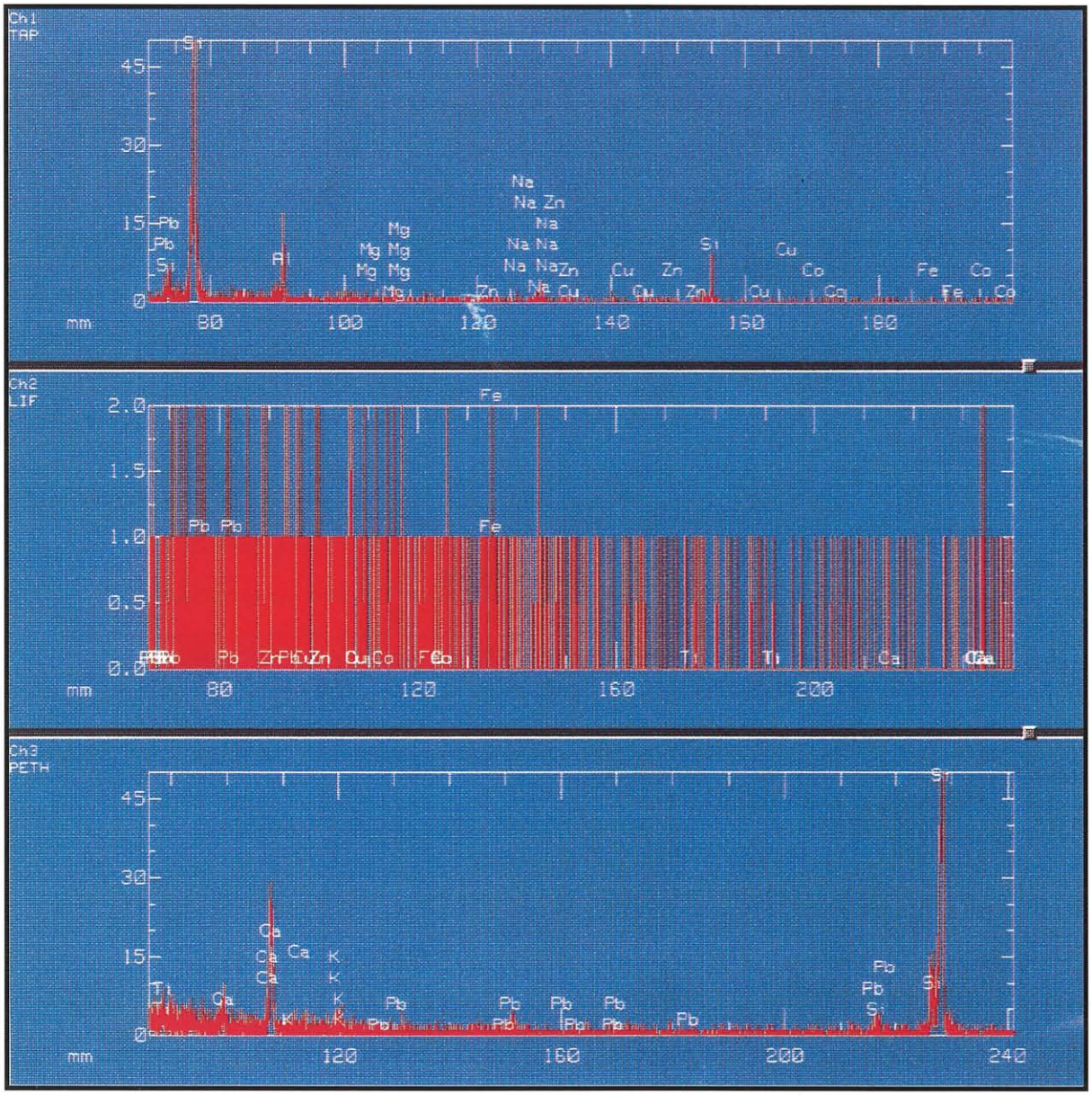


図5　ガラス小玉（G－5）のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

出雲市上塩冶横穴墓群出土砂滓の調査

日立金属株式会社冶金研究所
和　鋼　博　物　館

上塩冶横穴墓群は出雲市上塩冶町に所在し、斐伊川放水路事業の敷地内に位置するため、平成７年度に島根県埋蔵文化財調査センターによって事前発掘調査が行われた。遺跡の横穴墓は時期不明であるが、周辺横穴墓の時期は７世紀前半であることから同時期頃の横穴墓と推定される。その玄室から出土した鉄滓について分析の調査の依頼があったので、金属学的調査を行った結果と若干の考察を加えたので併せて報告する。

１、資料

資料の明細及び外観をそれぞれ表１および写真１～３に示す。

表１　各資料の明細

番号	資料名	明　　細	重量（ｇ）
No. 1	37-1　玄室 No.4鉄滓(951027)	表面やや赤味を帯び凸凹状で気泡あるも、やや重たい感じ、幅約65mm、長さ50mm、厚み約25mmで、底面側は平坦	500
No. 2	37-1　玄室 No.6鉄滓(951027)	長辺側約95mm、短辺側約85mmのやや円形の椀形滓である。厚みは中央で約30ｍｍ、表面やや赤味を帯び、緻密で重たい感じ。底面側は凸凹状。	180
No. 3	37-1　玄室 No.8鉄滓(951027)	約25mm～30mmの球形鉄滓。表面光沢あり、やや黒色 底面側は凸凹状。	75

２．化学組成

各資料から試料を採取し、化学分析を行った。各資料の化学組成を表２に示す。このうち炭素及び硫黄は堀場製作所EMIA-1200型Ｃ・Ｓ同時定量装置による赤外線吸収法により、その他の元素は島津製作所製高周波誘導結合プラズマ発光分光分析装置（ICPV-1012型）により定量した。

表２　各種資料の化学組成（重量　%）

番号	資料名	C	SiO2	MnO	P	S	Ni	Cr2O3	Na	K	CaO	MgO	V2O5	TiO2	Cu	Al2O3	T.Fe	FeO	Fe2O3	M.Fe
No. 1	37-1玄室No. 4 鉄滓	0.032	12.50	0.12	0.064	0.030	0.02	0.11	0.10	0.48	0.81	0.44	0.18	0.56	0.01	2.63	61.15	59.04	22.00	0.16
No. 2	37-1玄室No. 6 鉄滓	0.029	19.40	0.12	0.10	0.022	0.03	0.02	0.38	0.85	2.53	0.76	0.020	0.25	0.01	2.85	53.28	58.01	11.88	0.32
No. 3	37-1玄室No. 8 鉄滓	0.024	20.68	0.16	0.063	0.016	0.03	0.02	0.33	0.88	2.27	0.64	0.051	0.52	0.01	5.11	50.69	57.40	8.86	0.37

３．顕微鏡組織

各資料の顕微鏡組織を写真４～６に示す。

資料No. 1、No. 2、No. 3ともヴスタイト＋ファイヤライト組織が主体である。

４．構成相の解析

前項で観察した試料を用い、走査型電子顕微鏡（ＳＥＭ）による微細組織の観察ならびにＥＤＸ分析（エネルギー分散型Ｘ線分析）による局部的な定性分析および粉末Ｘ線回析を行った。結果を写真７～９、図１、２、３に、またこれらの結果を総括し、各資料の構成相を示すと表３のようになる。

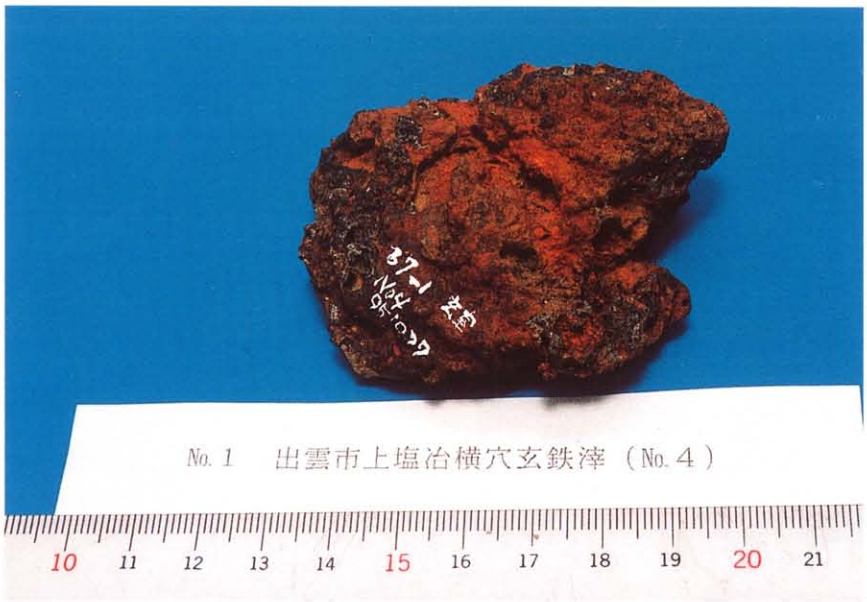


写真１　資料No. 1 鉄滓の外観

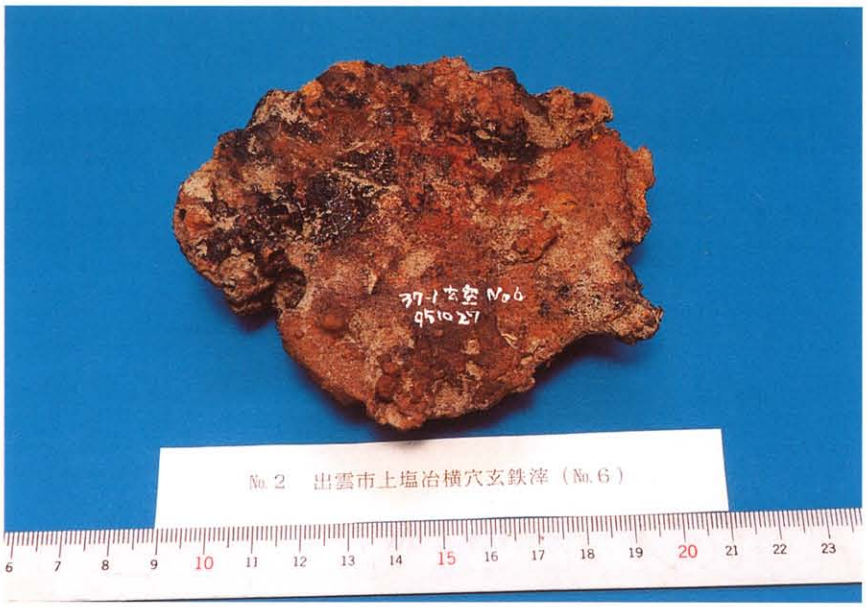
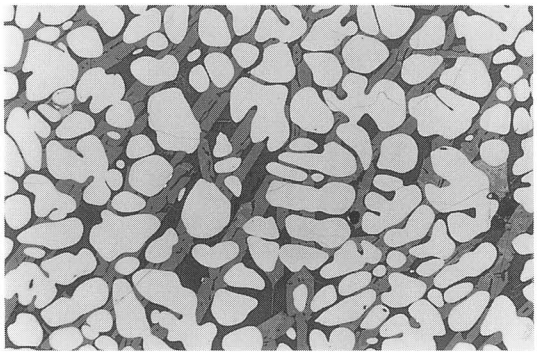


写真２　資料No. 2 鉄滓の外観

写真３　資料No.33鉄滓の外観



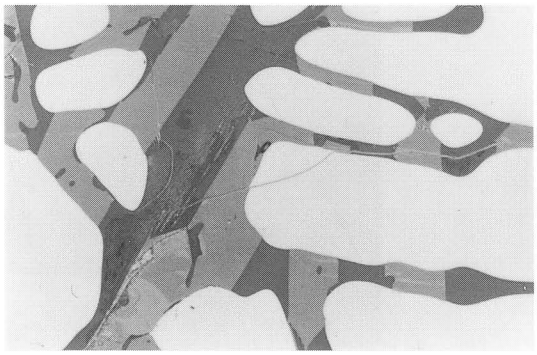
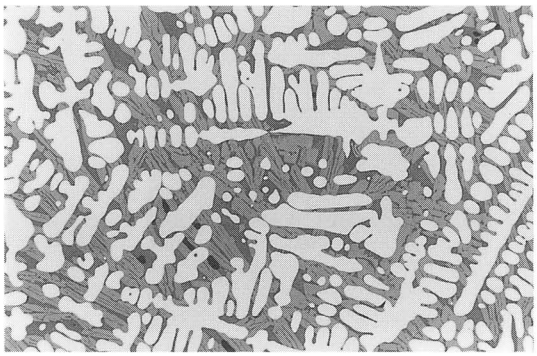


写真 4　資料No. 1 鉄滓　（× 100）　（× 400）
白色結晶はヴスタイト
淡灰色の棒状結晶はアアイヤライト



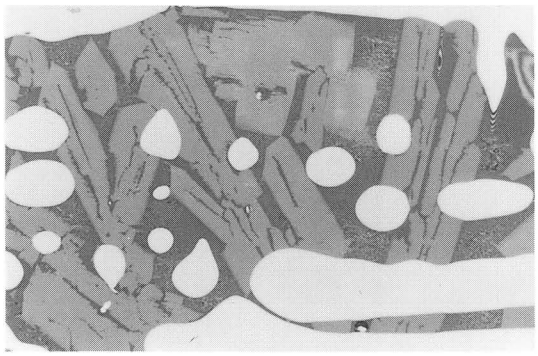
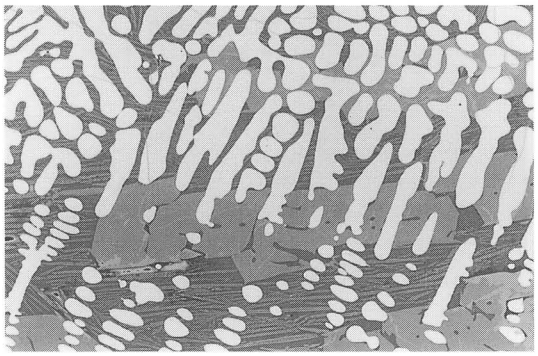


写真 5　資料No. 2 鉄滓　（× 100）　（× 400）
白色結晶はヴスタイト
淡灰色の棒状結晶はアアイヤライト



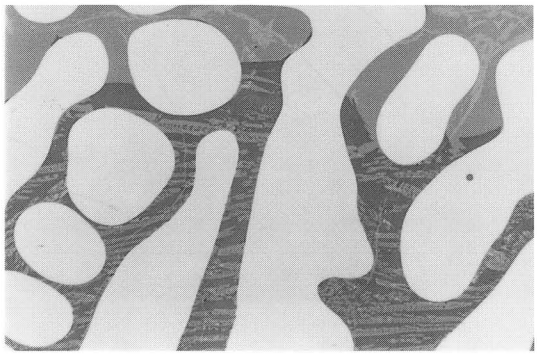


写真 6　資料No. 3 鉄滓　（× 100）　（× 400）
白色結晶はヴスタイト
淡灰色の棒状結晶はアアイヤライト

表３　各資料のＸ線回折による相解析

番号	資料名	(W) ヴスタイト FeO	(F) ファイヤライト Fe2SiO4	(M) マグネタイト Fe3O4	基地 (ガラス質)
No.1	37-1玄室No.4鉄滓	◎	◎	○	Si－Al－Fe－K－Ca
No.2	37-1玄室No.6鉄滓	◎	◎		Si－Al－Ca－Fe－K－Na
No.3	37-1玄室No.8鉄滓	◎	◎		Si－Al－Ca－Fe－K－Na

注：◎多い、○あり

５．考察

大澤正己氏[1]が調査された古墳出土鉄滓の化学組成及び構成相のまとめを参考にして本資料をまとめると表４のようになる。

これによって製錬滓か鍛冶滓か、あるいは使用原料が砂鉄か鉱石（岩鉄）かについて考察してみる。

表４　資料の化学組成と鉱物組織

組織＼資料		No.1	No.2	No.3
化学組成	全鉄分(T.Fe)	61.15	53.28	50.69
	造滓成分	16.38	25.54	28.70
	二酸化チタン(TiO2)	0.56	0.25	0.52
	バナジウム（V）	0.101	0.0112	0.0286
鉱物組織		W＋F＋M	W＋F	W＋F

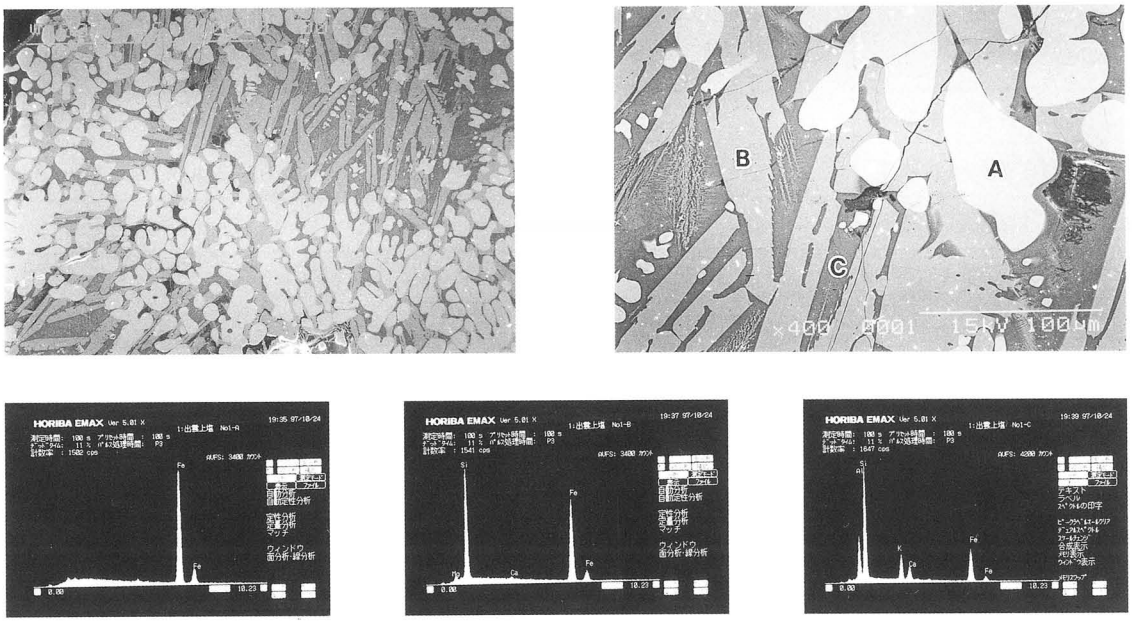
注：　造滓成分（Sio＋2Cao＋Mgo＋Al2O3）

（１）資料No.１鉄滓について

鉄分61.15％と高く、造滓成分16.38と低い。また写真４のミクロ組織及び写真７のＳＥＭ像には鍛冶滓の特徴であるヴスタイト結晶が大きく発達していることと、表３の構成相もＷ＋Ｆが主体であることから製錬滓ではなく鍛冶滓と判断される。また、鉄分が高いことから鍛錬鍛冶滓が考えられるが、M、Fe0.16％と低く、それにマグネタイトも含まれることと、TiO2量0.56％はやや高いことから鍛錬鍛冶滓ではなく精錬鍛冶滓と推定される。また、TiO2量0.56％、Ｖ量0.101は砂鉄が原料に用いられたものと推定される。

（２）資料No.２、No.３鉄滓について

鉄分50.69％～53.28％とやや高いが、造滓成分25.54～28.70と多い。しかし、写真５、６のミクロ組織、写真８、９のＳＥＭ像にはよく発達したヴスタイト組織が見られること。それにＸ線回析に鍛冶滓の特徴であるヴスタイト＋ファイヤライトが検出されることから製錬滓ではなく鍛冶滓と判断される。また、鉄分が低く、造滓成分が多いことから鍛錬鍛冶滓ではなく精錬鍛冶滓と推定される。TiO2量0.25～0.52％、Ｖ量0.0112％～0.0286％は砂鉄が原料に用いられたものと推定される。



A部　ヴスタイト　　B部　ファイヤライト　　C部　基　　地

写真７　資料No.１のSEM像とEDX分析

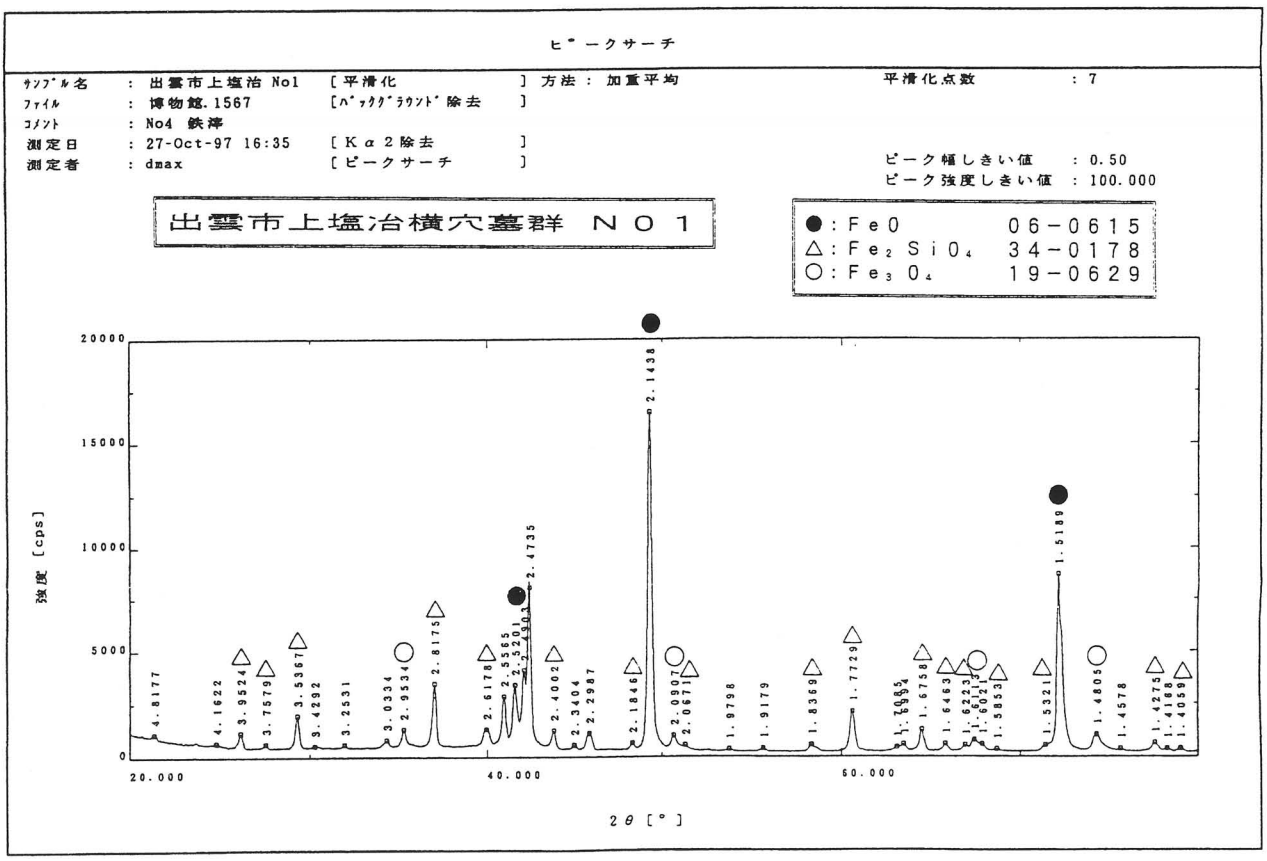


図１　資料No.１のＸ線回折像

6．結言

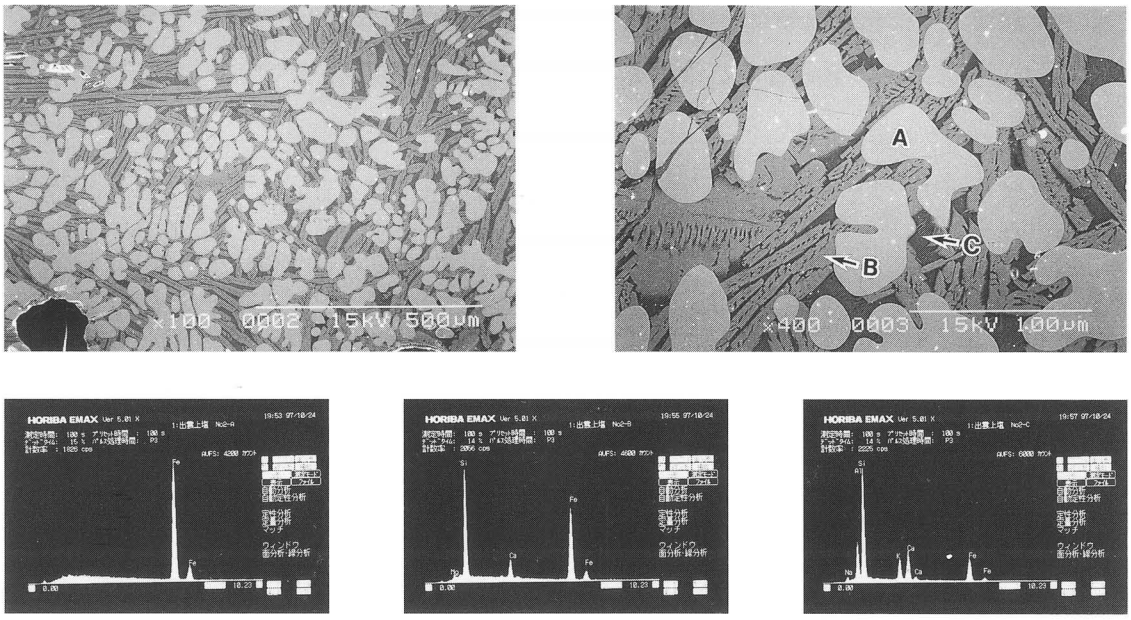
出雲市上塩冶横穴墓群出土鉄滓について調査を行った。結果を要約すると次の通りである。

(1)　資料No.1、No.2、No.3鉄滓ともは砂鉄を原料とした精錬鍛冶滓と推定した。

以上の調査は日立金属株式会社冶金研究所で実施し、日立金属テクノクス清永主管コンサルタントにご指導頂いた。

参考文献

（1）大澤正己：古代出土鉄滓からみた古代製鉄：日本製鉄史論集119P（たたら研究会1984）



A部　ヴスタイト　　B部　ファイヤライト　　C部　基　　地

写真８　資料No.２のSEM像とEDX分析

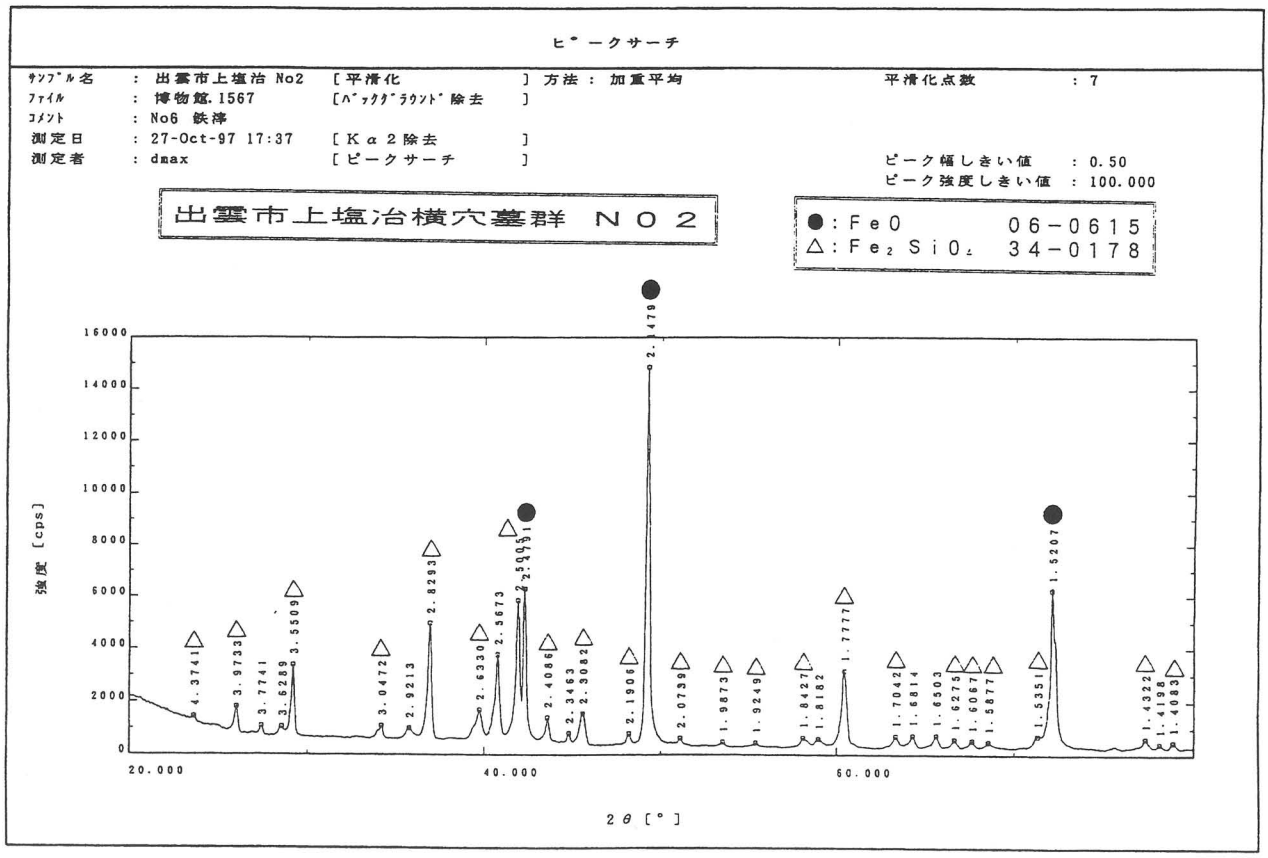
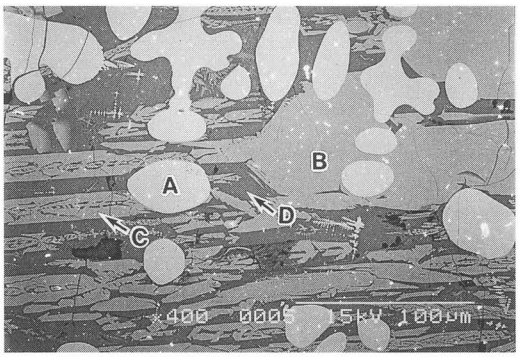
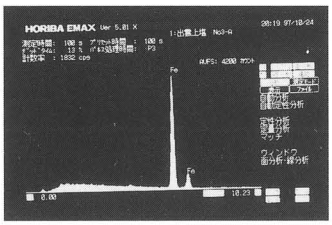
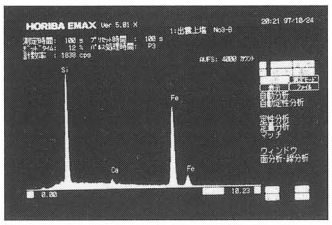


図２　資料No.２のＸ線回折像

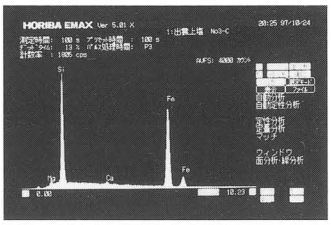




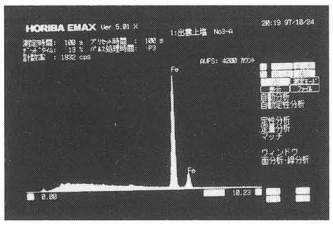
A部　ヴスタイト



B部　ファイヤライト



C部　ファイヤライト



D部　基　　地

写真９　資料No. 3のSEM像とEDX分析

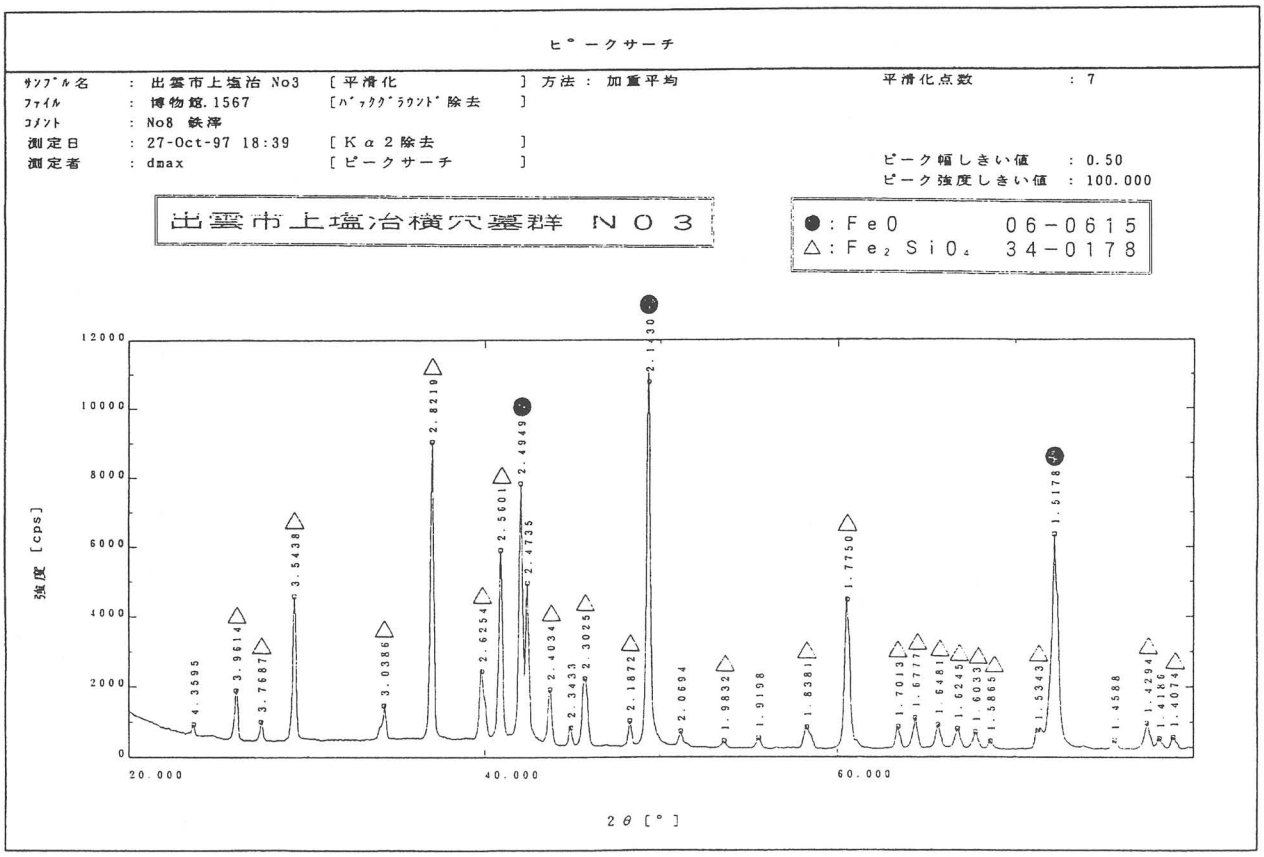


図３　資料No.3のＸ線回折像

図　　版

図版内の番号は
挿図番号と同じ

図版１　上沢Ⅱ遺跡

調査前全景

調査後（南側）

調査後（北側）

図版２　上沢Ⅱ遺跡

加工痕（１）

加工痕（２）

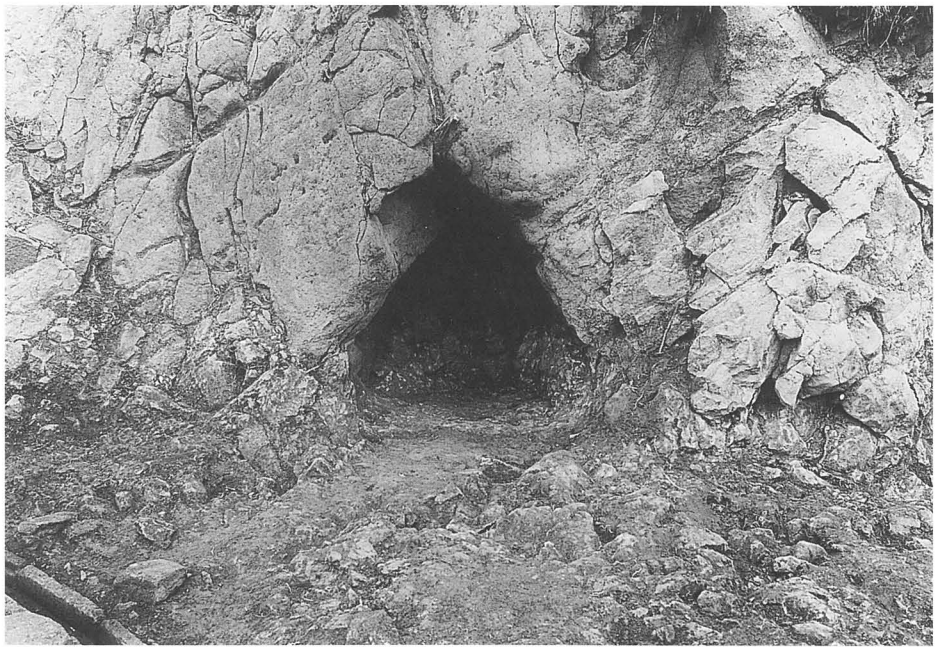
井 戸 跡

図版３　上沢Ⅱ遺跡

土　杭

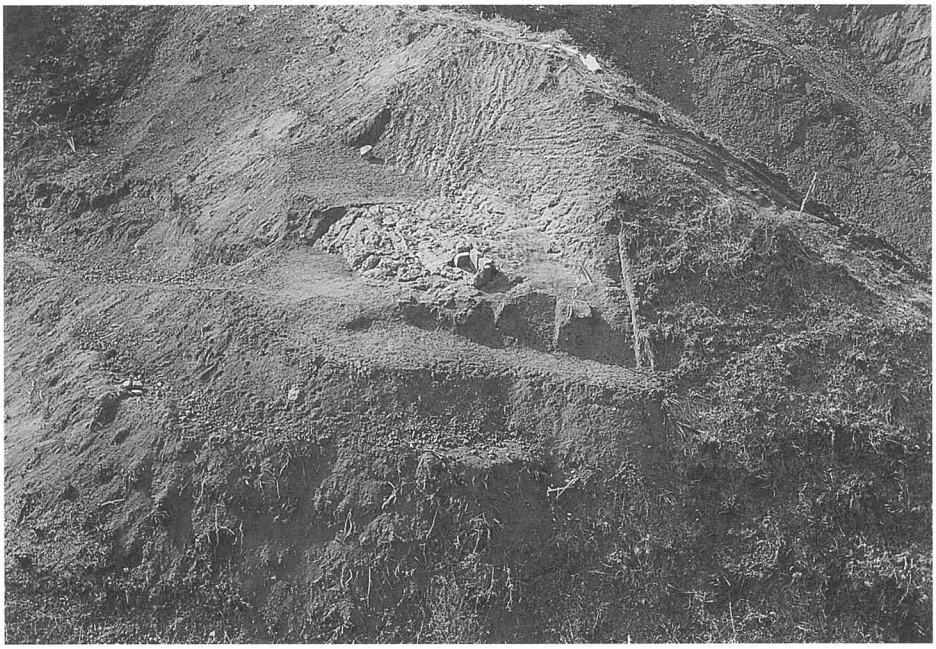
溝状遺構

穴



図版４　狐廻谷古墳

遠景(上空から)

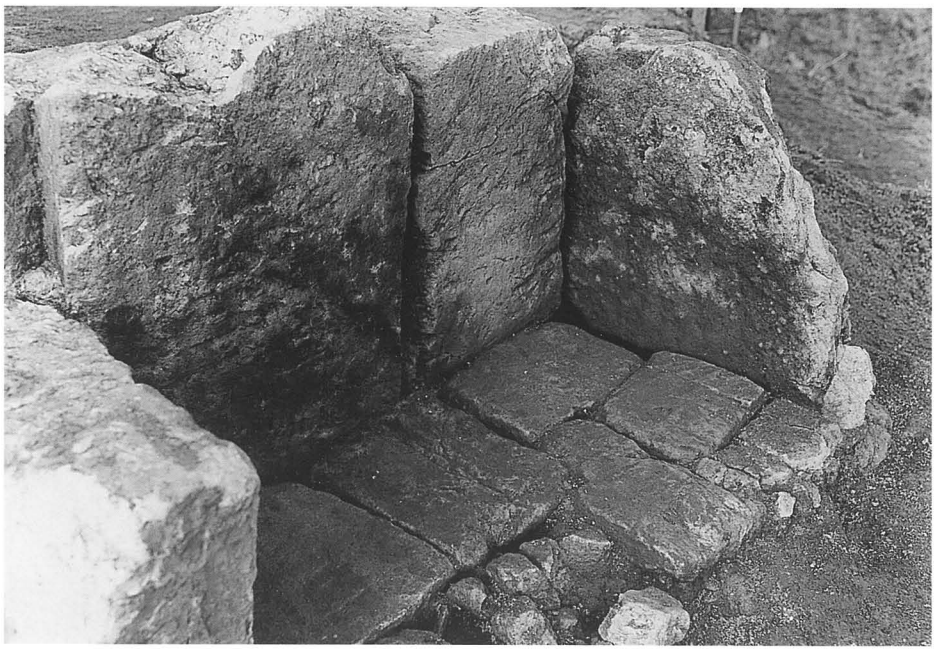


遠景(上空から)

正面全景

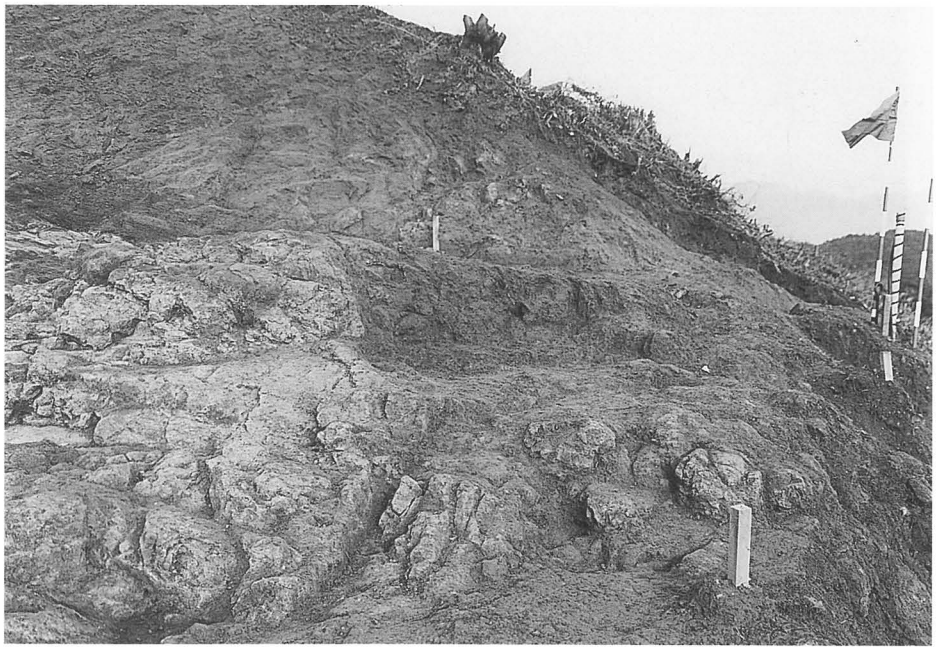
図版５　狐廻谷古墳

床石・側石の組合わせ方

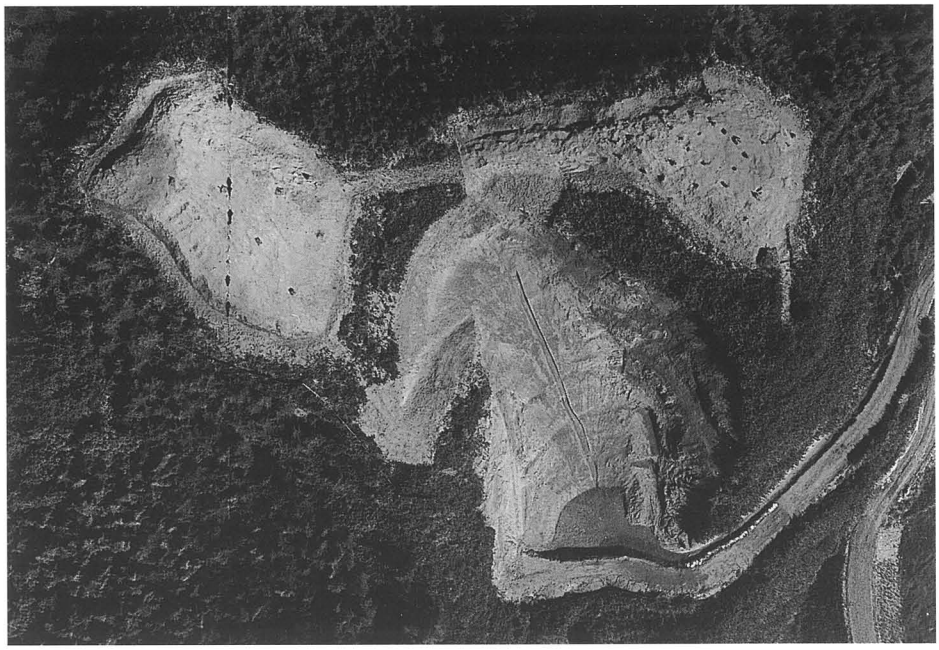


墳丘除去後（後方から）

調査後全景

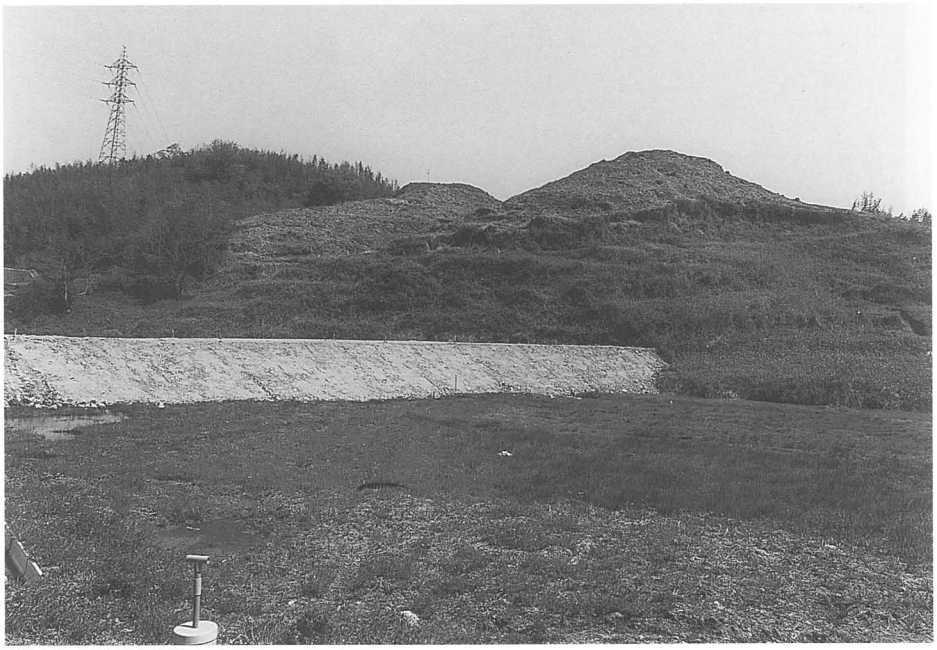


図版６　大井谷城跡



２区　全景(上空から)

２区
SB01(上空から)



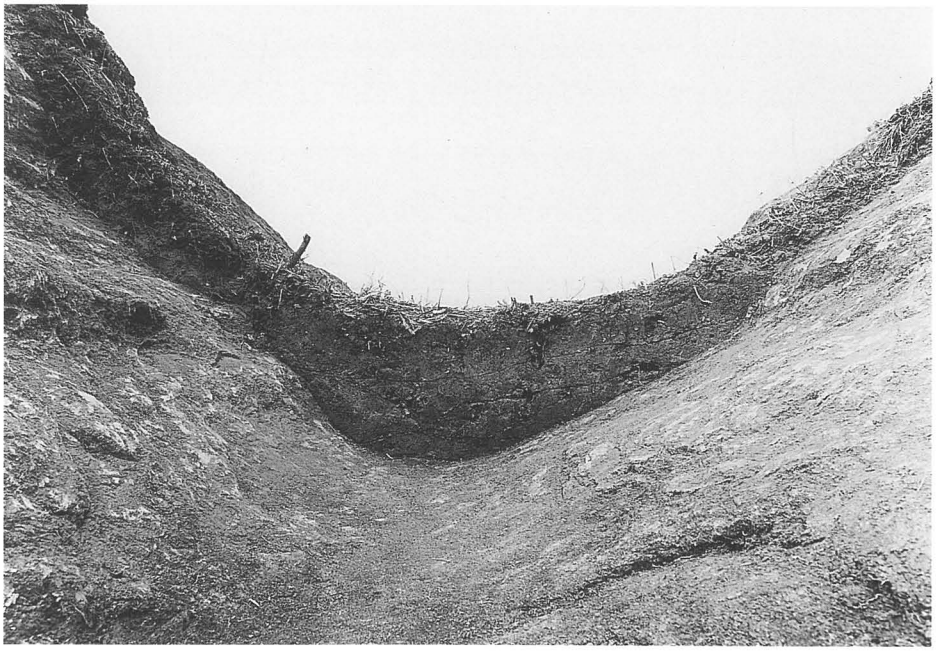
２区
調査前遠景(南から)

図版７　大井谷城跡

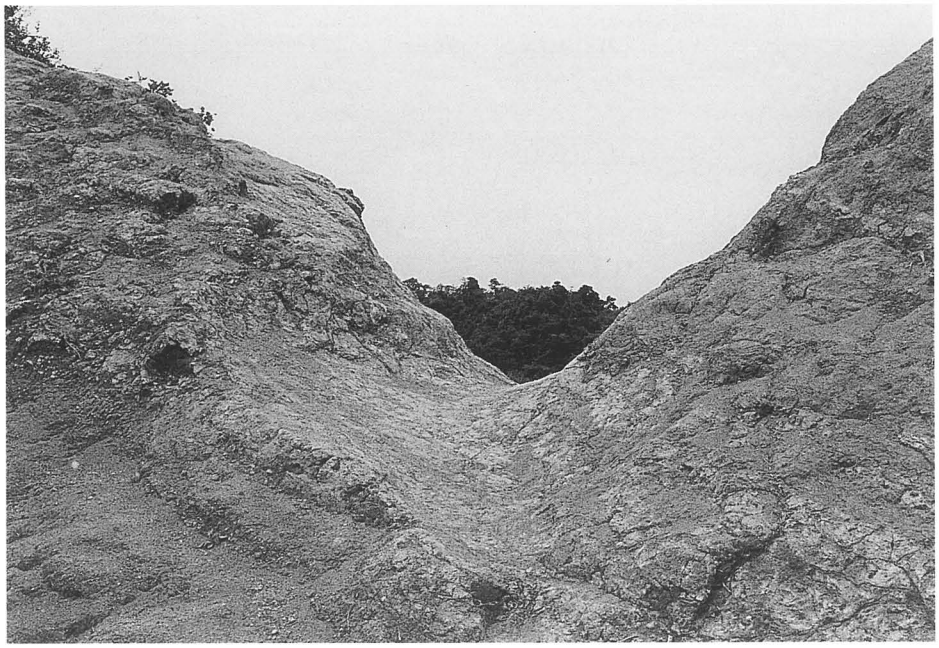
２区　谷部土層

３区　調査前全景

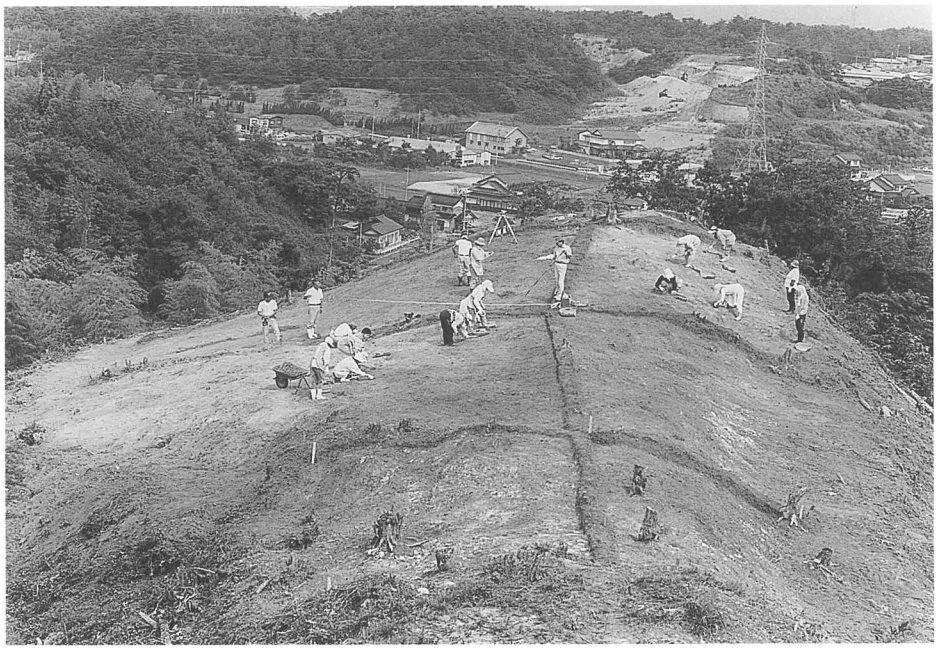
３区　土　層



図版８　大井谷城跡



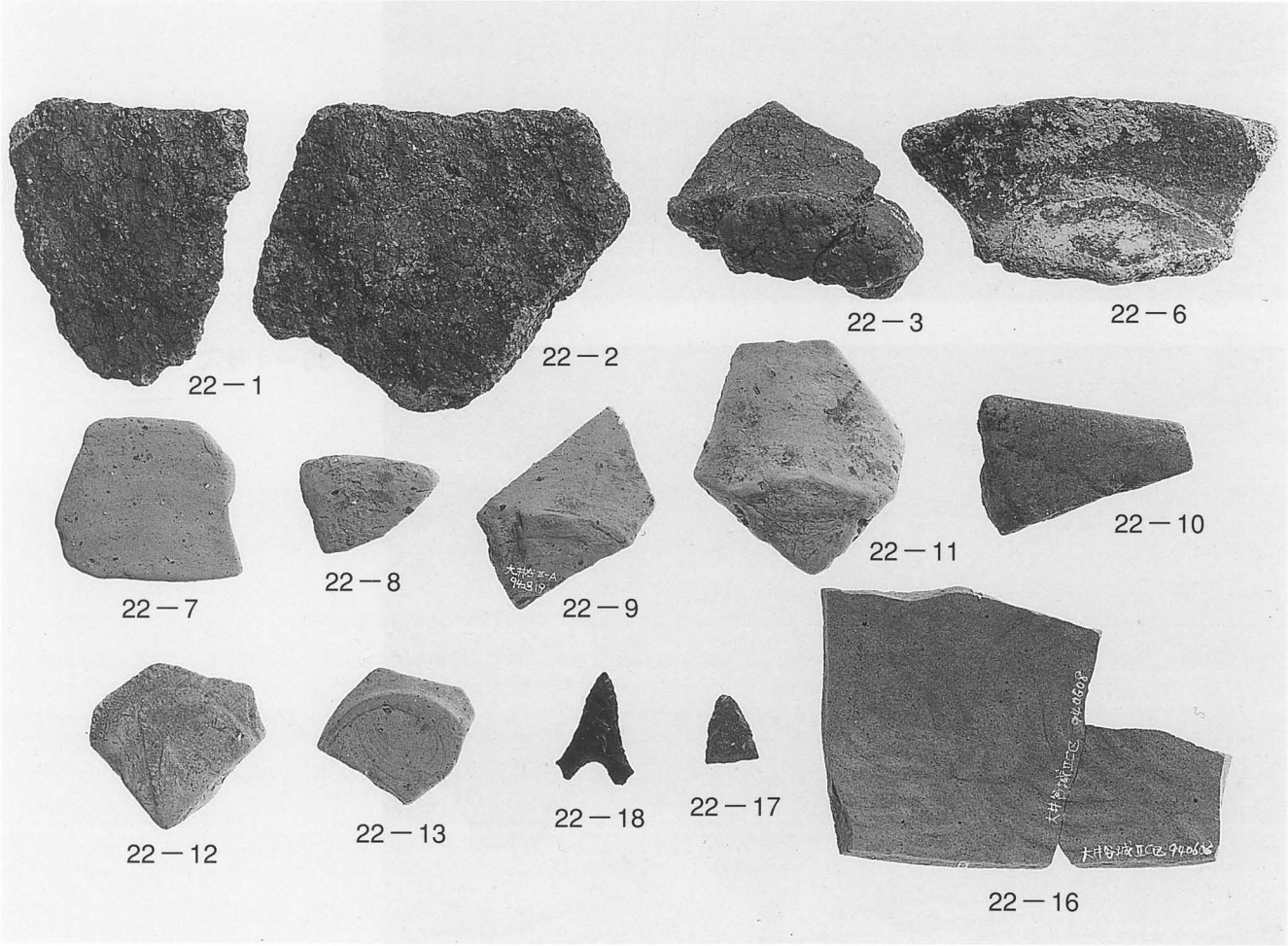
３区　調　査　後



４区
調査風景（南側）

４区
調査後（北側）

上沢Ⅱ遺跡遺物

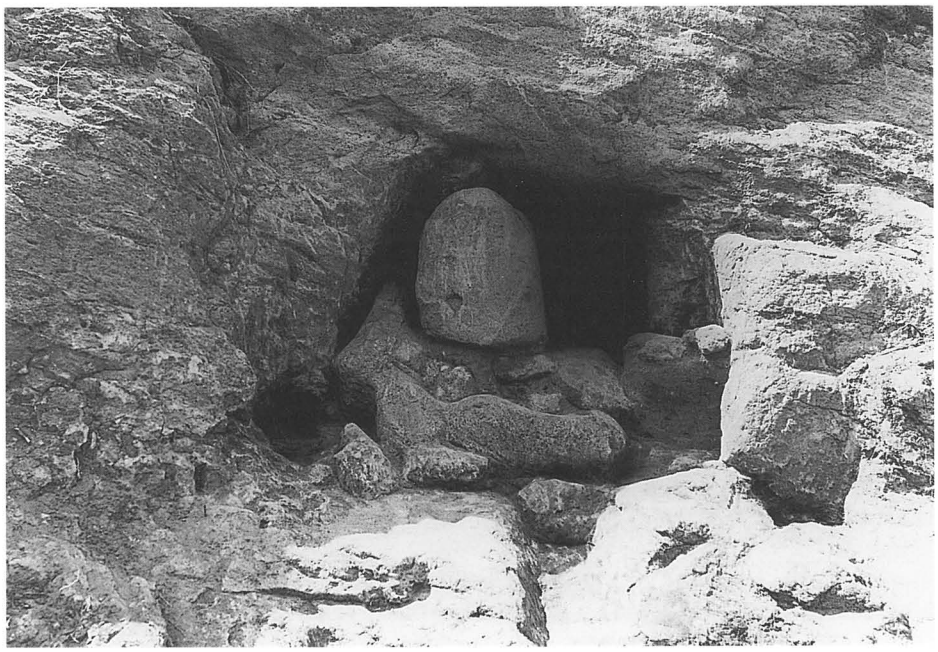


大井谷城跡遺物

図版10　上塩冶横穴墓群第35支群

35－1号穴　前庭上層

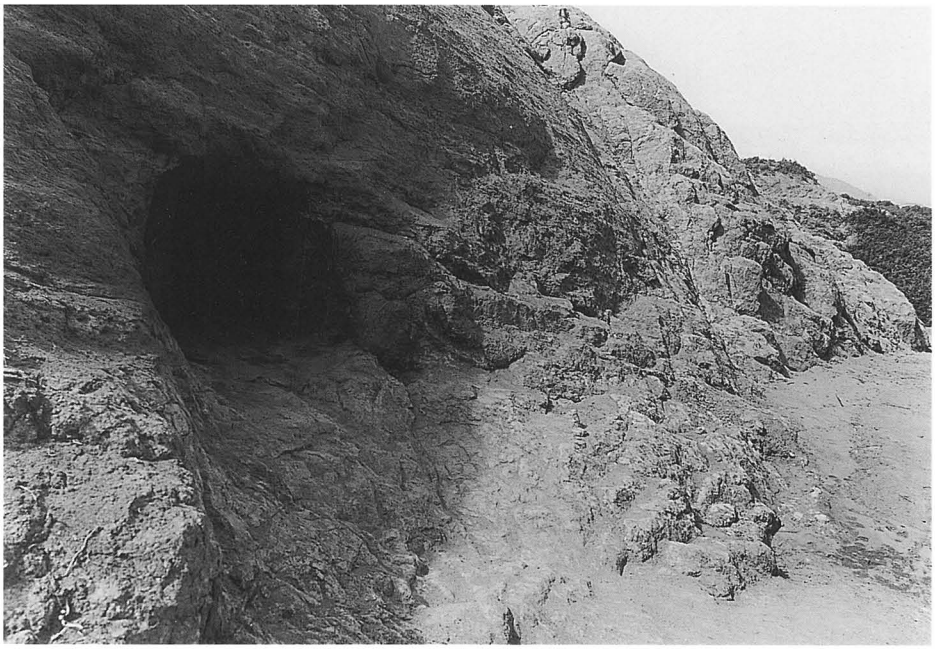
35－1号穴
前庭部遺物出土状況



35－1号穴　閉塞石

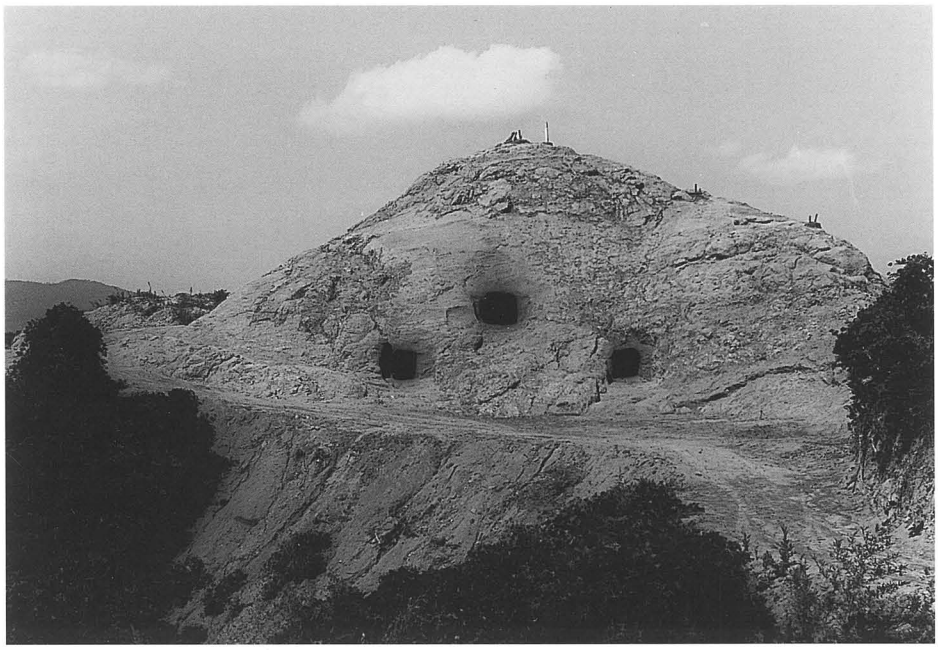
35－1号穴
玄室内遺物出土状況

35－1号穴　調査後



35－1号穴　工具痕

図版12　上塩冶横穴墓群第36支群

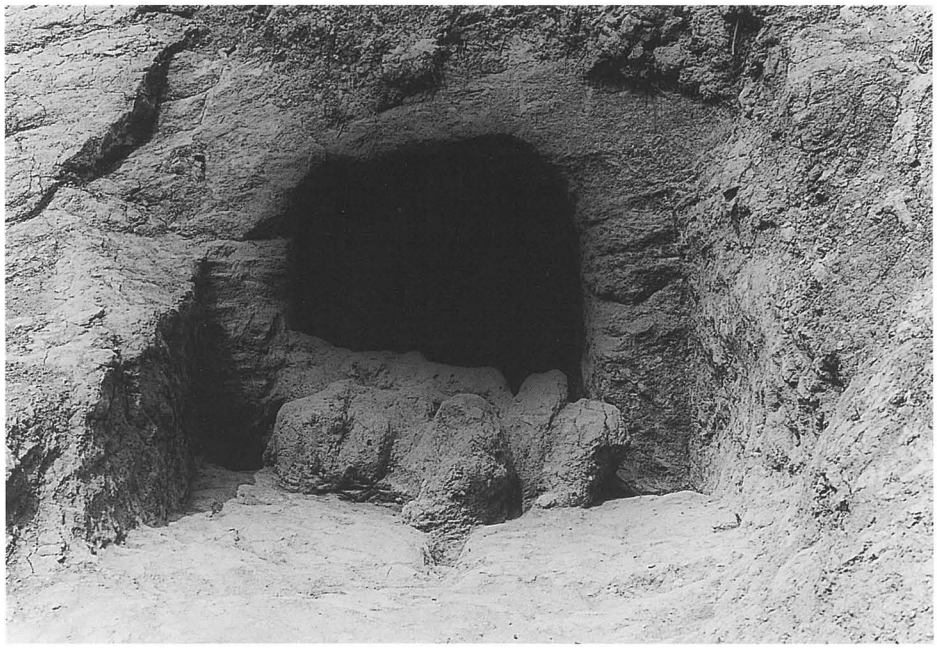


第36支群　調査後全景

36－1号穴　前庭土層

36－1号穴
前庭部遺物出土状況

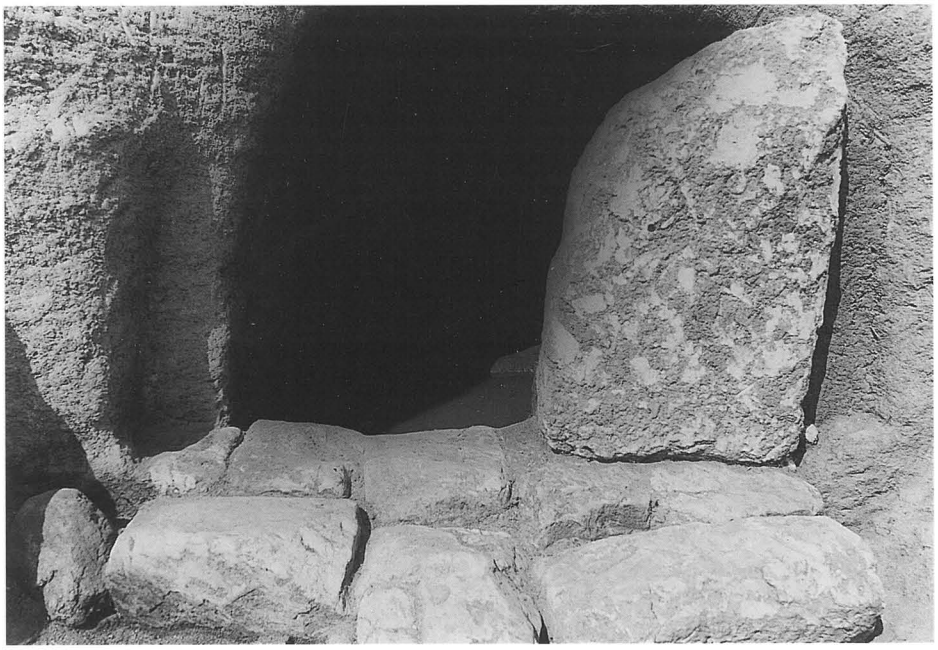
36－1号穴　閉塞石



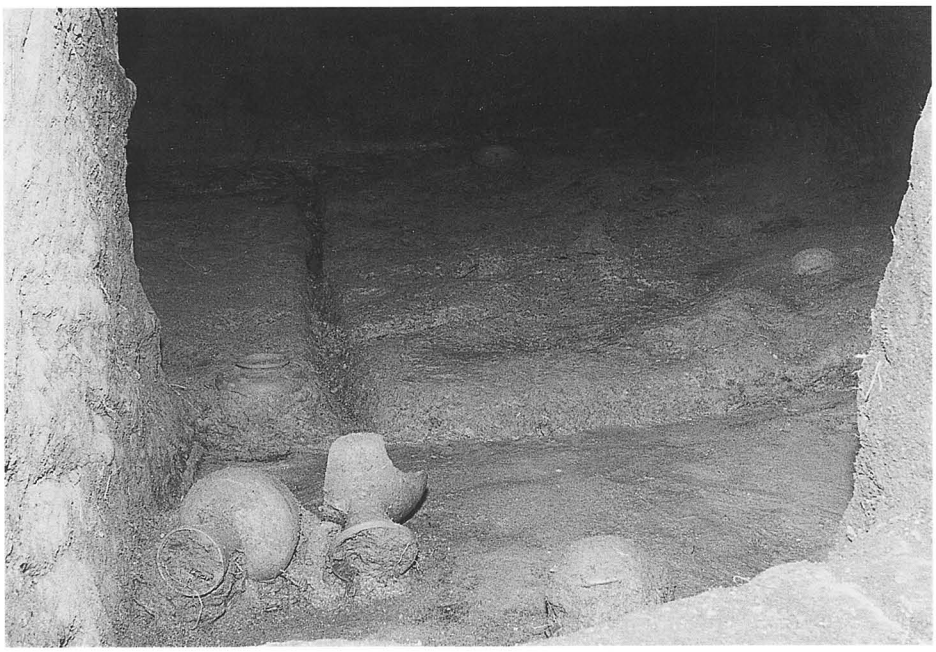
36－1号穴
玄室内遺物出土状況

36－1号穴　工具痕

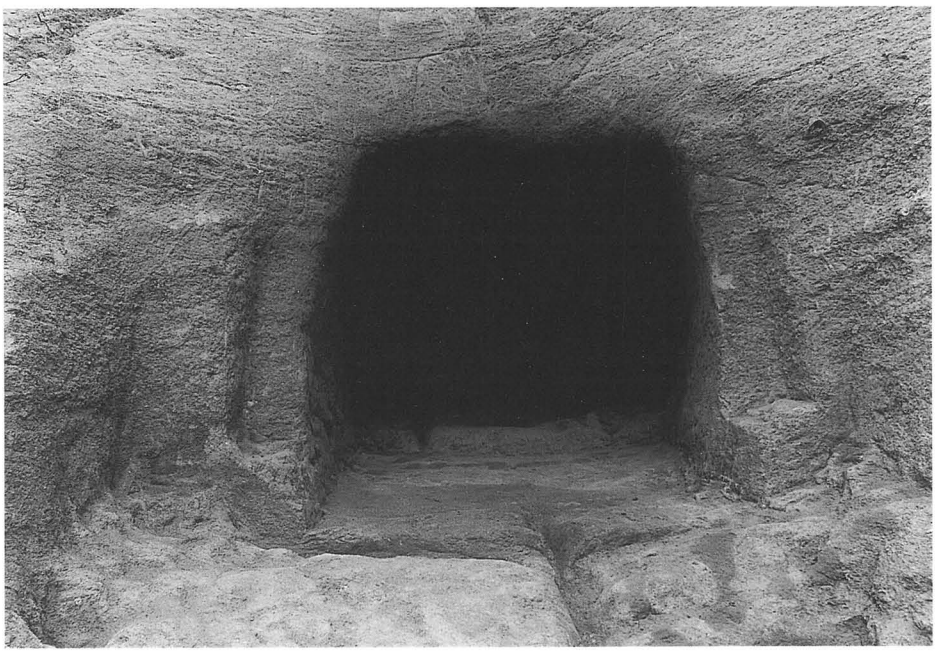
図版14　上塩冶横穴墓群第36支群



36－2号穴　閉塞石



36－2号穴
玄室内遺物出土

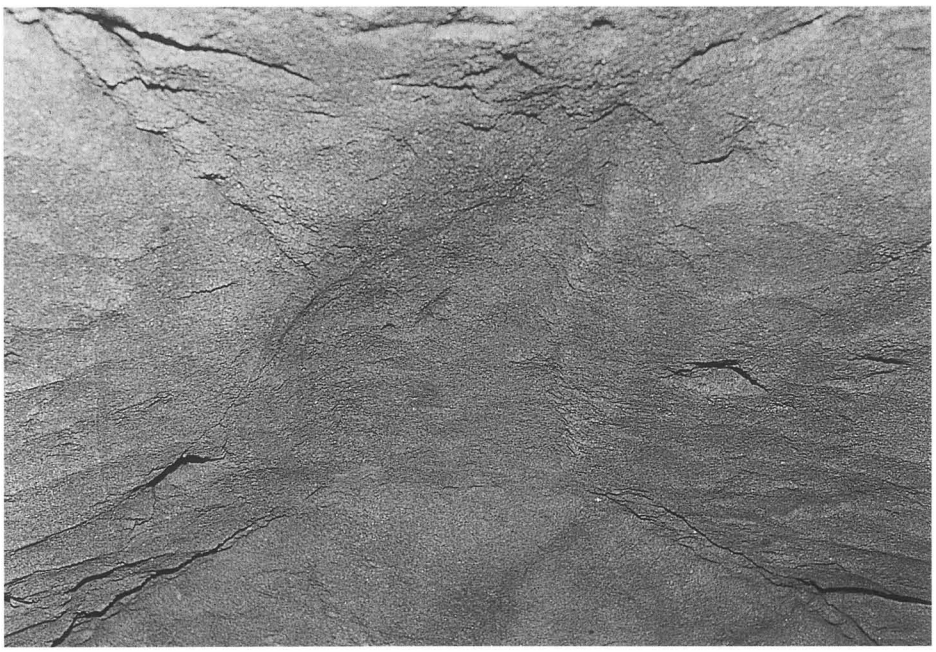


36－2号穴
調査後全景

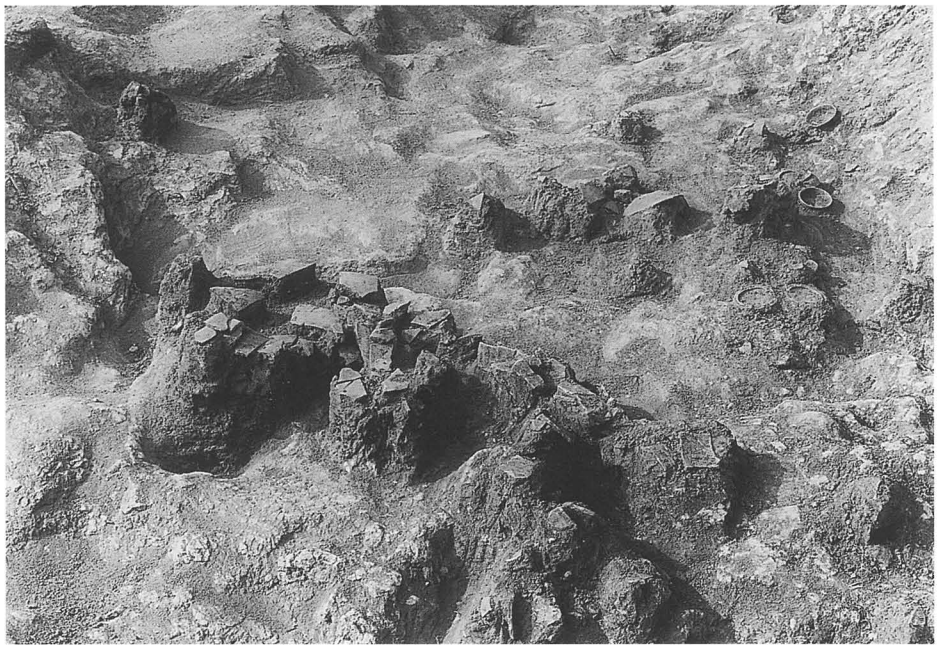
36－2号穴
工具痕（右袖）

36－2号穴
工具後（左袖）

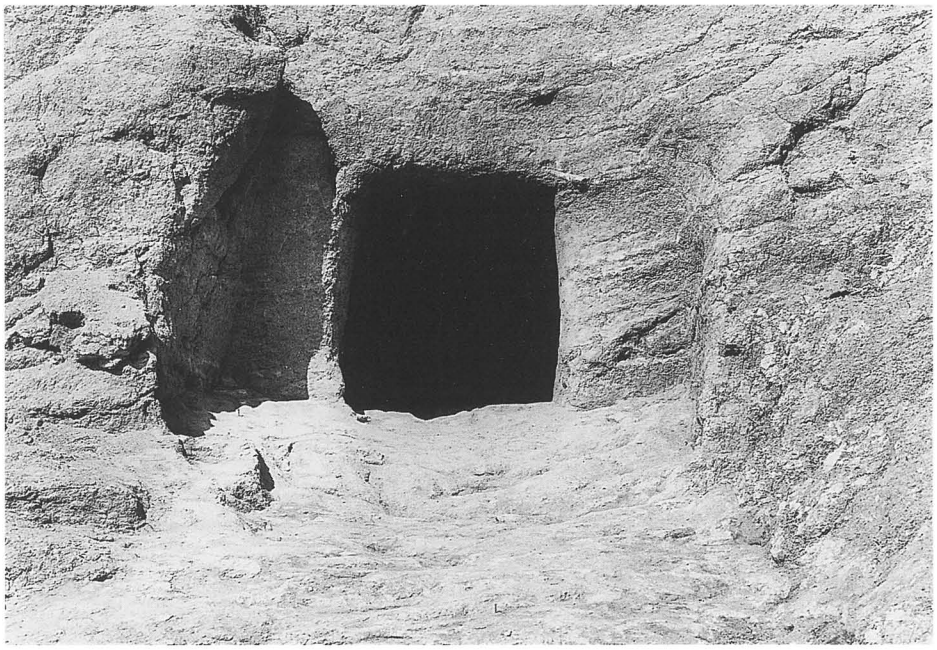
36－2号穴
工具痕（棟部）



図版16　上塩冶横穴墓群第36支群



36－3号穴
前庭部遺物出土状況



36－3号穴
調査後全景

36－3号穴
工具痕（左側壁）